SIMPLIA/TF-LINDA RDB連携版

オンラインマニュアル

第 7.0 版

はじめに

SIMPLIA/TF-LINDA (SIMple development and maintenance support Program LIbraries for Application system/Testing Facility of Logical INformation support tool of DAtaset) (以降、LINDAと略します)は、開発支援システムの１つであり、WindowsのGUIを用いた簡単な会話形式により、データベース上のデータ作成・更新・検証を支援します。

このマニュアルは、下記製品の統合マニュアルです。

- Solaris版 SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)
- Solaris版 SIMPLIA/TF-LINDA(ORACLE)
- Solaris版 SIMPLIA/TF-LINDA(Oracle 64-bit版)
- WindowsNT版 SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)
- WindowsNT版 SIMPLIA/TF-LINDA(ORACLE)
- Linux版 SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)
- Linux for Itanium版 SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)
- Linux for Itanium版 SIMPLIA/TF-LINDA(ORACLE)
- x64-Linux版 SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)

Symfoware版/Oracle版のどちらか一方のみについての説明個所には、以下のマークが記されています。

- Symfoware版 Symfo
- Oracle版 ORACLE

登録商標について

本オンラインマニュアルで使われている登録商標及び商標は、以下のとおりです。

- Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows NTは、米国Microsoft Corporarionの登録商標です。
- UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。
- Sun、Sun Microsystems、Sunロゴ、SolarisおよびすべてのSolarisに関連する商標及びロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Itanium、Intelロゴ、Intel Itaniumロゴは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Oracleは、Oracle Corporationの登録商標もしくは商標です。
- Symfowareは富士通株式会社の登録商標です。
- Systemwalkerは富士通株式会社の登録商標です。
- その他各種製品名は、各社の製品名称、商標または登録商標です。

SolarisTM オペレーティングシステムを、本マニュアルでは「Solaris」と記述しています。
「PRIMEQUEST」上の「Red Hat Enterprise Linux AS (v. 4 for Itanium)」で動作するTF-LINDA製品を 本マニュアルでは「Linux for Itanium版」と記述しています。

略記について

本オンラインマニュアルでは、各製品を次のように略記しています。

「Microsoft(R) Windows NT (R) Workstation operating system Version 4.0」 「Microsoft(R) Windows NT (R) Server Network operating system Version 4.0」 「Microsoft(R) Windows NT (R) Server Network operating system Version 4.0, Terminal Server Edition」 または「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system, Enterprise Edition Version 4.0」	→	「Windows NT(R)」

「Windows(R) 7 Home Premium」 「Windows(R) 7 Professional」 「Windows(R) 7 Enterprise」 「Windows(R) 7 Ultimate」 「Windows Vista(R) Home Basic」 「Windows Vista(R) Home Premium」 「Windows Vista(R) Business」 「Windows Vista(R) Enterprise」 「Windows Vista(R) Ultimate」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition」 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition」 「Microsoft(R) Windows(R) XP Professional operating system」 「Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition operating system」 「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional	→	「Windows(R)」

operating system」 「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system」 「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server operating system」 「Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition」 「Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system」		
「Oracle Database」	→	「Oracle」
「Symfoware Server」	→	「Symfoware」

背景と効果

システム開発におけるテスト工程は、その品質と信頼性を左右する重要な要素の一つです。

テスト工程では、個々のプログラムあるいはシステム全体の稼働確認を行いますが、このテスト工程はさらに、テスト環境の作成からテスト結果の検証までいくつかの作業に分類することができます。これらの作業の中で特に時間と費用が必要となる作業がテストデータの作成作業とテスト結果の検証作業です。TF-LINDAは、この２つの作業を正確かつ迅速に行えるよう支援します。

LINDAの使用による効果

- テスト作業で使用するテストデータ作成の効率化
- テスト結果の検証作業の効率化

特徴

TF-LINDAには以下の特徴があります。

データ項目単位に表示する見やすい画面

画面上に、表の列名／データ属性に応じた形式でデータを表示するため、データ内容を容易に確認、また作成ができます。

使いやすいユーザインタフェース

データを複数の形式(一覧形式画面/レコード形式画面)で表示します。これにより、テストデータの作成、更新が容易に行えます。

テストケースの保存

データ検索時に設定した条件を保存することができます。条件を保存することによって毎回条件を設定する必要がなくなります。条件は最大３パターンまで保存することができます。

機能概要

ここでは、データベース上のデータを扱う場合の機能について説明します。

以下に主な機能を示します。

データ編集時の画面形式

編集する画面形式には以下に示す2種類があり、双方への画面切り替えが可能です。

- レコード形式画面

  1行単位での表示/編集であり、任意のデータ項目を選択して更新することができます。また、行の追加/複写/削除処理もこの画面にて行うことができます。

- 一覧形式画面

  複数行を表形式の一覧形式画面に表示することができ、任意のデータ項目を選択して更新することができます。

各種コード対応

シフトJISコード、EUCコード、または Unicodeで作成されたデータベースを、表示/編集することができます。さらに、ADJUSTまたはSystemwalker/Charset Managerがインストールされている場合には、コード変換処理にADJUSTまたはSystemwalker/Charset Managerを利用することができます。

抽出条件によるデータの絞り込み

データを操作する場合、編集対象データを行単位で絞り込むことができます。全てのデータを抽出することも、抽出条件を指定して絞り込むこともできます。
また、指定した抽出条件は３つまで保存し次回表を開くときに利用できます。

ソート指定

各列毎にソートして表示させることができます。ソートの種別は昇順、降順があります。

列選択

操作したい列を選択して表示することができます。

MDPORT連携機能

SIMPLIA/TF-MDPORT(以降、MDPORTと略します)がインストールされている場合、MDPORTと連携することにより、編集中のデータ内容を、異なる形式で入出力することができます。

データ生成機能

データ項目単位にデータ生成条件を指定することにより、テストデータを自動生成することができます。データ生成は、以下の機能でも指定可能です。

- レコード追加

  自動生成したデータが埋め込まれたレコードを追加します。

- レコード複写

  既存レコードを複写する際に、レコードの一部を自動生成したデータに置き換えてから複写します。

- データ一括更新

  既存レコードの指定列を自動生成したデータに置換します。

データベースサポート機能

- SQL直接実行

  SQL文を直接実行し、問い合わせ結果をTF-LINDA上で表示させることができます。(SELECT文のみ)

- ロード/アンロード

  データベースに対し、データのロード/アンロードを行うことができます。（データベースの機能を利用）

- 定義情報出力

  データベースの各種定義情報を出力することができます。
  - 表一覧情報
  - 列一覧情報
  - インデックス一覧情報

基本フロー

TF-LINDAの基本的な操作の流れについて説明します。

1 TF-LINDAサーバの起動[起動と終了]

Windowsサーバの場合
サーバ側でLINDAのサービスプログラムを起動します。

UNIXサーバの場合
サーバ側でコマンドによりLINDAのサーバプログラムを起動します。

2 TF-LINDAの起動[起動と終了]

↓ クライアント側で、スタートメニューよりTF-LINDAを起動します。

3 環境設定[設定方法]

↓ 必要に応じてTF-LINDAでの動作環境の設定を行います。

4 サーバへの接続[接続方法]

↓ サーバへ接続します。

5 表を開く[表選択]

↓ 表の選択を行います。表名は直接入力か、表一覧から選択できます。

6 テストケースの選択/設定[テストケース操作]

↓ 手順5で指定された表に対する編集モード、抽出条件の選択、WHERE句条件指定、列選択、ソート指定等の設定/変更を行います。

7 転送確認

↓ 転送確認画面にてヒット件数表示方法の選択を行います。

8 データの表示/編集[データの編集、データの更新]

↓ レコード形式画面または、一覧形式画面にてデータの表示/編集を行います。また、この画面で、画面形式切り替え、MDPORT連携が可能です。

9 データの保存/破棄

↓ レコード形式画面または、一覧形式画面より、データを保存して終了するか、データを保存しないで終了するかを選択できます。更新エラーが発生した場合は、再度編集画面に戻りエラー内容を修正できます。

10 TF-LINDAの終了[起動と終了]

↓ TF-LINDAを終了します。

11 TF-ＬINDAサーバの終了[起動と終了]

Windowsサーバの場合
サーバ側でLINDAのサービスプログラムを終了します。

UNIXサーバの場合
サーバ側でコマンドによりLINDAのサーバプログラムを終了します。

編集画面について

一覧形式画面

抽出した行を一覧形式画面で表示します。また、既存の行に対してのみ更新できます。レコード追加、レコード削除等はできません。表示モードの場合は、一覧形式画面が最初に表示されます。

レコード形式画面

レコード形式画面では、行単位に項目の内容を表示し、データの編集、行の追加、更新、削除を行うことができます。追加、更新モードの場合は、レコード形式画面が最初に表示されます。

以下に、各機能と、使用可能な画面モードおよび編集モードの一覧を示します。

機能		一覧	レコ		更新	表示	追加
目的のレコードを表示する			○		○	○	○
レコードを追加する			○		○		○
レコード（自動生成データ）を追加する			○		○		○
レコードを複写する			○		○		○
レコードを削除する			○		○		○
削除レコードを復元する			○		○		○
指定列のデータを自動生成データに置換する		○	○		○		○
データ項目の内容を変更する		○	○		○		○
データ項目の内容を変更する（16進編集）		○	○		○		○
データ項目の内容を変更する（マルチライン編集）		○	○		○		○
データ項目の内容を変更する（Unicode編集）		○	○		○		○
変更データを変更前に戻す			○		○		○
編集データを破棄する		○	○		○		○
データベースへの更新を行う		○	○		○		○
更新エラーが発生した場合		○	○		○		○
データの内容を印刷する		○	○		○	○	○
印刷プレビュー表示を行う		○	○		○	○	○

印刷ページの設定を行う		○	○		○	○	○
表示形式を変更する		○	○		○	○	○
フォントを変更する		○	○		○	○	○
MDPORT連携を行う		○	○		○	○	○

画面説明

- 一覧形式画面
- レコード形式画面

LINDAを起動／終了する

クライアント側

項目	説明
起動	スタートメニューよりLINDAのアイコンをクリックすることにより起動します。
終了	LINDAを終了するときは、メニューバーから「ファイル(F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「SIMPLIA/TF-LINDAの終了(X)」を選択します。

サーバ側

項目	説明

起動	Windows サーバの場合 [コントロールパネル]-[サービス]を開き、TF-LINDAのサービス名を選択し、「開始」ボタンを押下します。 UNIXサーバの場合 サーバ側で起動コマンドを実行します。
終了	Windows サーバの場合 [コントロールパネル]-[サービス]を開き、TF-LINDAのサービス名を選択し、「停止」ボタンを押下します。 UNIXサーバの場合 サーバ側で終了コマンドを実行します。

※　サーバ側の環境設定及び各種コマンドは、本製品のソフトウェア説明書をご覧下さい。

環境設定を行う

操作手順は以下の通りです。

1. メニューバーより、「オプション(O)」-「環境設定(P)」を選択します。
2. 「環境設定」プロパティシートで各項目の設定を行います。
3. 設定が終了したら、「OK」ボタンを押してください。

画面説明

データベースへの接続／切断を行う

操作手順は以下の通りです。

接続

1. メニューバーから「ファイル(F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「サーバへの接続（R）」を選択すると「データベースへのログイン」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「データベースへのログイン」ダイアログボックスの設定を行います。
3. 設定が終了したら、「OK」ボタンを押してください。ステータスバーに「サーバ接続中」と表示されます。

切断

1. メニューバーから「ファイル(F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「サーバからの切断（D）」を選択します。
2. 「サーバとの通信を切断します。」のメッセージが表示されます。
3. 「OK」ボタンを押すとサーバから切断されます。

画面説明

表を開く

操作手順は以下の通りです。

1. メニューバーから「ファイル(F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「表を開く(0)」を選択すると「表指定」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「表指定」ダイアログボックスの設定を行います。

画面説明

抽出条件を指定する

操作手順は以下の通りです。

1. 「テストケース選択」ダイアログボックス上で、編集したい条件を「条件パターン1」、「条件パターン2」、「条件パターン3」の中から選択します。
2. WHERE句条件指定の「条件設定」ボタンを押下します。
    - 「編集モード」が「更新」、「表示」の時だけ設定することができます。
    - 条件パターン1から3が設定された場合のみ、WHERE句条件指定の「条件設定」ボタンが押下可能となります。初期値は「条件なし」が設定されています。
3. 「条件設定」ダイアログボックスが表示されます。条件を指定し、「OK」ボタンを押下します。
4. 「テストケース選択」ダイアログボックスに戻ります。

画面説明

表示する列を選択する

操作手順は以下の通りです。

1. 「テストケース選択」ダイアログボックス上で、「列選択(C)」ボタンを押下します。
    - 「列選択(C)」ボタンは、列選択で「選択(E)」が選ばれているときのみ有効です。
2. 「列選択」ダイアログボックスが表示されます。表示したい列を選択し、「OK」ボタンを押下します。
    - PRIMARY KEY および UNIQUE KEY は自動的に選択状態になります。（「OK」ボタンを押下した時点で自動的に選択されます。）
    - 環境設定の作業環境で「列選択時にNOT NULLの列を常に選択状態にする」 が設定されている場合は、「OK」ボタン押下時にユーザが選択していないNOT NULL列が無条件に選択された状態になります。
3. 「テストケース選択」ダイアログボックスに戻ります。

画面説明

ソートして表示する

操作手順は以下の通りです。

1. 「テストケース選択」ダイアログボックス上で、「設定(S)」ボタンを押下します。

   「設定(S)」ボタンは、編集モードが「更新」または「表示」モードで、ソート指定が「ソートする(0)」の場合のみ有効です。

2. 「ソート条件」ダイアログボックスが表示されます。列一覧グループにソートの条件が表示されます。

   条件を追加する場合は、以下の手順で行ないます。

   1. 「列名(N)」に直接入力するか、「列選択(S)」ボタンを押下して「列一覧」ダイアログボックスより列を選択します。
   2. ソート種別を指定します。
   3. 「追加(I)」ボタンを押下します。

3. 条件は、5件まで追加できます。

4. 「テストケース選択」ダイアログボックスに戻ります。

画面説明

目的のレコードを表示する

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索（S）」メニューまたは、ツールボタンの「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して目的のレコードを表示します。

レコードを追加する

操作手順は以下の通りです。

1. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード追加」を実行します。
2. 件数を指定して、「OK」ボタンを押下します。
3. 追加されたレコード（複数件の場合、その中の先頭レコード）の内容が表示されますので、この後、データ変更などの操作が可能です。

画面説明

レコード（自動生成データ）を追加する

操作手順は以下の通りです。

1. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード追加」を実行します。

   「件数設定」ダイアログボックスが表示されます。

   1. 追加レコード件数を指定する。
   2. 「項目の値を自動生成する」をチェックし、「詳細」ボタンを押下する。
   3. 「データ生成」ダイアログボックスが表示されるので、項目毎に生成方法を設定し、「OK」ボタンを押下する。
   4. 「件数設定」ダイアログボックスに戻り、「OK」ボタンを押下する。

2. 追加されたレコード（複数件の場合、その中の先頭レコード）の内容が表示されますので、この後、データ変更などの操作が可能です。

レコードを複写する

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して処理対象のレコードを表示します。
2. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード複写」を実行します。
3. 件数を指定して、「OK」ボタンを押下します。
4. 複写（追加）されたレコード（複数件の場合、その中の先頭レコード）の内容が表示されますので、この後、データ変更などの操作が可能です。

画面説明

レコードを複写する（一部自動生成データに置換）

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して処理対象のレコードを表示します。

2. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード複写」を実行します。

   「件数設定」ダイアログボックスが表示されます。

   1. 複写レコード件数を指定する。
   2. 「項目の値を自動生成する」をチェックし、「詳細」ボタンを押下する。
   3. 「データ生成」ダイアログボックスが表示されるので、項目毎に生成方法を設定し、「OK」ボタンを押下する。
   4. 「件数設定」ダイアログボックスに戻り、「OK」ボタンを押下する。

3. 追加されたレコード（複数件の場合、その中の先頭レコード）の内容が表示されますので、この後、データ変更などの操作が可能です。

レコードを削除する

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して処理対象のレコードを表示します。

2. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード削除」を実行します。

   複数件指定された場合は、現在のレコードから指定件数分削除されます。

3. 件数を指定して、「OK」ボタンを押下します。

4. 削除されたレコード（複数件の場合、その中の先頭レコード）の内容が表示されます。削除されたレコードは、淡色表示となり、データ変更が不可能になります。

   ただし、データベースに対し実際の更新が行なわれるまでは、削除レコードを参照することは可能です。

画面説明

削除レコードを復元する

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して削除レコードを表示します。
2. 「データ操作(D)」メニューから「レコード復元(R)」を実行します。
3. レコード削除前の状態に戻ります。

指定列のデータを自動生成データに置換する

操作手順は以下の通りです。

1. 「編集(E)」メニューの「データ一括更新(P)」を実行します。
2. 「データ一括更新」ダイアログボックスが表示されます。
    1. 「生成書式の列名」に、置換したい列名を指定します。
    2. 「書式情報」の「種別」を選択します。
    3. 必要に応じて「書式情報」のその他の情報を設定します。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. 「一覧形式画面」または「レコード形式画面」に戻り、置換されたデータで表示されます。

データ項目の内容を変更する

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して変更したいレコードを表示します。

2. マウスで変更したいデータ項目のデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、［Tab］キー、［Shift］＋［Tab］キー、［Enter］キーにより、変更したいデータ項目のデータ内容にフォーカスを移動します。

3. データ内容を変更し、マウスで別のデータ内容をクリックすれば、変更確定です。キーボードでの操作は、［Tab］キー、［Shift］＋［Tab］キー、［Enter］キーにより、別のデータ内容に移動した時点で変更確定となります。

   その他、メニュー上のコマンドを実行しても入力確定となります。

   また、確定する前に［Esc］キーで変更前のデータ内容に戻すことが可能です。

   ※一覧表内での編集時、［Ctrl］＋カーソルキーにて編集状態のまま項目の移動が可能です。

データ項目の内容を変更する（16進編集）

16進編集機能は文字型（CH、VC、NC、NV型）の項目に対し、16進数での表示/編集を行う機能です。 CH、VC、NC、NV型以外では使用できません。

16進編集機能を使用する場合は環境設定にて「拡張編集機能」を有効にし、レコード形式画面/一覧形式画面に16進編集バーを表示してください。

「Solaris版 SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware) V50L22」をご利用の場合は、16進編集バーの代わりに「16進編集」ダイアログボックスを使用します。「16進編集」ダイアログボックスの操作方法については、このトピックの最後で説明する「16進編集」ダイアログボックスの操作手順を参照してください。

16進編集バーを表示する操作手順は以下の通りです。

1. 「オプション(O)」メニューの「環境設定(P)」を実行すると「環境設定」プロパティシートが表示されます。

2. 「作業環境」の「拡張編集機能を有効にする」を選択し、「OK」ボタンを押下します。

3. 「表示(V)」メニューの「表示形式の変更(A)」から「16進編集バー(H)」を実行すると、レコード形式画面/一覧形式画面に16進編集バーが表示されます。

次に16進編集バーを使用してデータ内容を変更する方法を説明します。 はじめにレコード形式画面での操作手順を説明します。 つぎに一覧形式画面での操作手順を説明します。

- レコード形式画面での操作手順

  1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」「先頭レコード」「前レコード」 「次レコード」「最終レコード」を使用して、変更したいレコードを表示します。

  2. 変更したいデータ項目のデータ内容をマウスでクリックします。
     キーボードで操作する場合は［Tab］キー、［Shift］＋［Tab］キー、［Enter］キーを使用して、変更したいデータ項目のデータ内容にカーソルを移動します。

  3. 「編集(E)」メニューの「16進編集」を実行すると「16進編集バー」にカーソルが移動します。
     ※データ内容表示欄でショートカットメニューの「16進編集」を実行することもできます。

  4. 16進編集バーではデータ内容が16進数で表示されています。
     データ内容の変更後に［Enter］キー押下で変更確定となります。 また

［Esc］キー押下で変更を取り消すことができます。
レコード形式画面上のデータ内容は、シフトJISコードに変換した形式で表示されます。
※16進編集バーでの入力は、各種コード体系に合わせたコードで行ってください。

- 一覧形式画面での操作手順

1. 変更したいデータ項目のデータ内容をマウスでクリックします。
キーボードで操作する場合は、カーソルキーで変更したいデータ内容にカーソルを移動します。

2. 「編集(E)」メニューの「16進編集」を実行すると「16進編集バー」にカーソルが移動します。
※データ内容表示欄でショートカットメニューの「16進編集」を実行することもできます。

3. 16進編集バーではデータ内容が16進数で表示されています。
データ内容の変更後に［Enter］キー押下で変更確定となります。 また［Esc］キー押下で変更を取り消すことができます。
一覧形式画面上のデータ内容は、シフトJISコードに変換した形式で表示されます。
※16進編集バーでの入力は、各種コード体系に合わせたコードで行ってください。

「16進編集」ダイアログボックスを使用してデータ内容を変更する操作手順は以下の通りです。

1. 変更したいデータ項目のデータ内容をマウスでクリックします。
キーボードで操作する場合は、カーソルキーで変更したいデータ内容にカーソルを移動します。

2. 「編集(E)」メニューまたはツールボタンの「16進編集」を実行すると「16進編集」ダイアログボックスが表示されます。
マウスの右クリックによるポップアップメニューから実行することも可能です。

3. 「16進編集」ダイアログボックスではデータ内容が16進数で表示されています。
データ内容の変更後に[Enter]キー押下で変更確定となり、ダイアログボックスが閉じられます。
また［Esc］キー押下で変更を取り消すことができます。
※「16進編集」ダイアログボックスでの入力は、各種コード体系に合わせたコードで行ってください。

画面説明

拡張編集機能についての注意事項

データ項目の内容を変更する（マルチライン編集）

マルチライン編集機能は、文字型（CH,VC型）の項目に対し、複数行での表示/編集を行う機能です。改行コードを含むことができます。文字型以外では使用できません。キー列の場合は使用できません。

マルチライン編集機能は、製品インストール直後の状態では使用することはできません。使用する場合は、「環境設定（作業環境）」プロパティシートにて「拡張編集機能」を有効にするように指定してください。

操作手順は以下の通りです。

1. マウスで変更したいデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、カーソルキーで変更したいデータ内容にフォーカスを移動します。
2. 「編集(E)」メニューの「マルチライン編集」を実行すると「マルチライン編集」ダイアログボックスが表示されます。マウスの右ボタンによるポップアップメニューから実行することも可能です。
3. データ内容が複数行で表示されていますので、変更を行なった後、「OK」ボタン押下で変更確定となり、ダイアログボックスが閉じます。

画面説明

拡張編集機能についての注意事項

全般における制限事項/注意事項

データ項目の内容を変更する（Unicode編集）

Unicode編集機能は、Unicodeで格納されているデータベースの文字型（CH、VC、NC、NV型）の項目に対し、Unicodeでの表示/編集を行う機能です。改行コードを含むことができます。CH、VC、NC、NV型以外では使用できません。キー列では使用できません。

Unicode編集機能は、製品インストール直後の状態では使用することはできません。使用する場合は、「環境設定（作業環境）」プロパティシートにて「拡張編集機能」を有効にするように指定してください。

操作手順は以下の通りです。

1. マウスで変更したいデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、カーソルキーで変更したいデータ内容にフォーカスを移動します。

2. 「編集(E)」メニューの「Unicode編集」を実行すると「Unicode編集」ダイアログボックスが表示されます。マウスの右クリックによるポップアップメニューから実行することも可能です。

3. データ内容が複数行で表示されていますので、変更を行なった後、「OK」ボタン押下で変更確定となり、ダイアログボックスが閉じます。

   また、[Esc]キーで変更せずにダイアログボックスを閉じることができます。

画面説明

拡張編集機能についての注意事項

全般における制限事項/注意事項

変更データを変更前に戻す

操作手順は以下の通りです。

1. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「やり直し」を実行します。
    - 他のレコードを表示すると、その時点で「やり直し」処理は実行不可になります。
    - データ内容が変更されていない場合は、「やり直し」処理は実行できません。
2. 変更前のデータ内容が表示されます。

編集データを破棄する

レコード形式画面/一覧形式画面が表示されている時点では、データベースへの更新は、一切行われていません。（作業ファイル上での編集です。）よって、データベースへの更新を行わずに、編集データを破棄して終了できます。次の手順で行います。

1. 「ファイル(F)」メニューまたは、ツールボタンの「保存しないで閉じる」を実行します。
2. 「データが更新されています。保存しますか」メッセージボックスが表示されます。
3. 「いいえ」ボタンを押下すると編集データを破棄して、初期画面に戻ります。

データベースへの更新を行う

レコード形式画面/一覧形式画面が表示されている時点では、データベースへの更新は、一切行われていません。（作業ファイル上での編集です。）よって、データベースへの更新を行うには、次の処理を行う必要があります。

1. 「ファイル(F)」メニューまたは、ツールボタンの「保存して閉じる」を実行します。
2. 「更新確認」ダイアログボックスが表示され、更新／追加／削除件数が確認できます。
3. 「エラー時のROLLBACKの方法」を決定します。
4. 「OK」ボタンを押下するとデータベースの更新を行い、初期画面が表示されます。

画面説明

更新エラーが発生した場合

更新エラーが発生した場合

データ保存時に更新エラーが発生した場合、以下の手順にて、エラー個所の特定および修正作業を行うことができます。

1. 「保存処理でエラーが発生しました。エラーファイル ***** を参照して下さい。今すぐ参照しますか？」メッセージボックスが表示されます。
2. 「はい」ボタンを押下すると、エラーファイルがメモ帳で表示されます。
3. エラーファイルの内容を確認し、エラー内容を修正します。

   全てROLLBACKが指定されている場合

   環境設定のデータベース情報または、保存時の更新確認画面において、全てROLLBACKに設定した場合には、再度編集画面が開き、エラーレコードの再表示が行われます。

   ※ エラーレコードは、赤く表示されます。
   ※ 「保存しないで閉じる」を選択した場合、エラー以外のレコードも全て無効になります。
   ※ 画面上には、エラー以外のレコードも表示されていますが、エラーレコード以外を修正することはできません。

   エラーレコードのみROLLBACKが指定されている場合

   環境設定のデータベース情報または、保存時の更新確認画面において、エラーレコードのみROLLBACKに設定した場合には、エラーレコード以外は更新され、編集画面は閉じてしまうので、再度、同じ表を開きエラーレコードの再入力を行います。

4. データの編集が完了したら、「ファイル(F)」メニューの「保存して閉じる（S）」を選択して、編集したデータを保存します。更新エラーがなくなるまで、1～4の作業を繰り返します。

エラーファイル説明

データの内容を印刷する

一覧形式イメージでのデータの印刷を行います。
印刷に関する設定については、「印刷ページ設定」プロパティで行います。
実際に印刷する前に印刷イメージを確認したい場合は、「印刷プレビュー」画面にて行ってください。

1. 「ファイル(F)」メニューまたは、ツールボタンの「印刷」を実行します。
2. 「印刷」ダイアログボックスが表示されます。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. 印刷を開始します。

印刷プレビュー表示を行う

操作手順は以下の通りです。

1. 「ファイル(F)」メニューまたは、ツールボタンの「印刷プレビュー」を実行します。
2. 「印刷プレビュー」画面が表示されます。
3. 編集画面に戻る場合は、「閉じる（C)」ボタンを押下します。

画面説明

印刷ページの設定を行う

操作手順は以下の通りです。

1. メニューバーから「ファイル(F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「印刷ページ設定（U）」を選択します。
2. 「印刷ページ設定」プロパティシートで各項目の設定を行います。
3. 設定が終了したら、「OK」ボタンを押してください。

画面説明

表示形式を変更する

操作手順は以下の通りです。

1. 「表示(V)」メニューの「表示形式の変更(A)」内の各メニューを選択します。
2. 各項目毎に表示/非表示が切り替わります。

フォントを変更する

ビュー上の文字フォントを指定することができます。初期状態では、「MS ゴシックの9ポイント」に設定されています。

操作手順は以下の通りです。

1. 「表示(V)」メニューの「フォントの指定(F)」を実行します。
2. 「フォントの指定」ダイアログボックスが表示されるので各項目を設定後、「OK」ボタンを押下します。

   ※ 色の指定は無効です。

3. 指定されたフォントにより、データ編集画面が表示されます。

MDPORT連携を行う

SIMPLIA/TF-MDPORT(以降、MDPORTと略します)がインストールされている場合、MDPORTと連携することにより、編集中のデータ内容を、異なる形式で入出力することができます。

<table>
<tr><th>機能</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="4">インポート</td><td colspan="2">CSV形式ファイルを編集中の表に取り込むことができます。
インポートを行うCSV形式ファイルは、以下の形式で作成されている必要があります。</td></tr>
<tr><td>項目</td><td>形式</td></tr>
<tr><td>区切り文字
（デリミタ）</td><td>半角カンマ「,」により区切られたもの。</td></tr>
<tr><td>引用符</td><td>各項目が引用符でくくられているもの。
または、数値、文字項目ともに引用符で括られていないもの。</td></tr>
<tr><td>エクスポート</td><td colspan="2">編集中のデータ内容を、異なるコード／データ形式に変換して出力することができます。なお、列選択している場合は、選択されている項目のみが出力対象となります。

※ 出力対象となるレコードには、「レコード削除」によって削除したレコードも含まれます。</td></tr>
</table>

インポートの操作手順

1. レコード／一覧形式画面の「オプション（0）」メニューまたは、ツールボタンの「MDPORT連携」を実行します。

2. 「MDPORT連携」ダイアログボックスが表示されます。設定することが可能な項目は、次の通りです。

<table>
<tr><th>項目</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>インポート／エクスポート</td><td>「インポート」を選択します。</td></tr>
</table>

データ形式	インポートするファイル形式を指定します。（「CSV形式」のみ）
インポートするCSVファイルの引用符	ファイルの形式（引用符あり/なし）を指定します。
対象ファイルの指定	インポートする対象ファイルを指定します。

3. すべての設定が完了したら、「MDPORT起動」ボタンを押下します。

エクスポートの操作手順

1. レコード／一覧形式画面の「オプション（0）」メニューまたは、ツールボタンの「MDPORT連携」を実行します。

2. 「MDPORT連携」ダイアログボックスが表示されます。設定する可能な項目は、次の通りです。

項目	説明

インポート／エクスポート	「エクスポート」を選択します。
データ形式	エクスポートするファイル形式を「データファイル形式」、「CSV形式」または、「XML形式」から選択します。

3. すべての設定が完了したら、「MDPORT起動」ボタンを押下します。

4. 「MDPORT連携」ダイアログボックスが閉じて、TF-MDPORTが起動されます。

※ TF-MDPORTの操作方法に関しては、SIMPLIA/TF-MDPORTのオンラインマニュアルを参照してください。

画面説明

MDPORTに関する制限事項

SQL直接実行を行う

画面にSQL文を入力し、そのSQL文を実行することにより、問い合わせ結果をTF-LINDA上で表示させることができます。(SELECT文のみ)
また作成したSQL文をファイルに保存したり、読み込むことができます。

未サポート項目を含む表は扱えません。

操作手順は以下の通りです。

1. 「ツール(T)」メニューの「SQL直接実行(S)」を実行します。
2. 「SQL直接実行」ダイアログボックスが表示されるので各項目を設定後、「SQL実行(E)」ボタンを押下します。
3. 問い合わせ結果が、一覧形式画面上に表示されます。

画面説明

データ生成を行う

テストデータを自動生成することができます。

以下の3種類の方法でデータの自動生成を行うことができます。

1. 表を指定して、指定件数のデータを外部ファイル（CSVファイル）へ出力します。

    1. 「ツール(T)」メニューより「データ生成(D)」を選択します。

    2. 「表選択」ダイアログボックスが表示されます。
    データ生成を行いたい表を選択します。

    3. 「生成情報設定」ダイアログボックスが表示されます。

件数	生成する件数を指定します。
書式設定	「データ生成」ダイアログボックスが表示されます。各項目についての生成書式を指定します。
データファイル名	生成したデータを保存するファイルを指定します。 拡張子には ″.csv″ を指定してください。

    4. データファイル名に指定したファイルへ生成したデータが出力されます。

    ※出力されるファイルのフォーマットは、DBの環境に依存します。

2. 編集中の表の既存データに対し、生成したデータで一括更新を行います。

    1. 一括更新を行う表を開きます。

    2. 「編集(E)」メニューより「データ一括更新(P)」を選択します。「データ一括更新」ダイアログボックスが表示されます。
    生成書式を指定します。

    3. OKボタンを押下すると、指定した列の内容が、指定した書式で生成されたデータに更新されます。

3. 編集中の表に対し、生成したデータ内容で行の追加/複写を行います。

    1. データの自動生成を行う表を開きます。

2. 「データ操作(D)」メニューより「レコード追加(A)」または「レコード複写(C)」を選択します。
「件数設定」ダイアログボックスが表示されます。

3. 「項目の値を自動生成する(T)」をチェックして、「詳細(D)」ボタンを押下します。
「データ生成」ダイアログボックスが表示されるので、各項目についての生成書式を指定します。

4. 元の画面でOKボタンを押下すると、指定した書式で生成されたデータが、追加/複写されます。

※未サポート項目は除外されて生成されます。

ロード/アンロードを行う

データベースに対し、データのロード、またはアンロードを行います。（データベースのロード/アンロード機能を利用）

※アンロード機能はSymfoware版のみの機能です。

操作手順は以下の通りです。

1. 「ツール(T)」メニューの「ロード(L)」または「アンロード(U)」を実行します。
2. 「表選択(T)」ボタンより、対象の表を選択します。
3. 入/出力ファイルの場所を指定します。（クライアント側/サーバ側の設定は、Solaris版のみ）
4. 引用符を指定します。（ロード時）
5. 「ロード」または、「アンロード」ボタンを押下するとデータベースのロード／アンロードコマンドが実行され、指定したファイルへデータがロード／アンロードされます。

画面説明

全般における制限事項/注意事項

定義情報出力を行う

データベースの各種定義情報を出力することができます。

操作手順は以下の通りです。

1. 「ツール(T)」メニューの「定義情報出力(I)」を実行します。
2. 表を絞り込んで出力したい場合は、出力したい表を選択します。
3. 出力したい情報（表一覧/列一覧/インデックス一覧）を選択します。
4. 「OK」ボタンを押下すると、指定した情報が指定のファイルへ出力されます。

画面説明

管理ツールを使用する

管理ツールコマンドを使用して、管理情報を出力することができます。
接続ユーザID一覧、各接続プロセス（子プロセス）使用中の表一覧情報などを出力できます。
※サーバOS上で実行します。管理ツールを使用できるのはスーパーユーザーだけです。

- Symfoware版
- Oracle版

<table>
<tr><th>名称</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>タイトルバー</td><td>表を開いている場合は、開いている表情報を表示します。また、「接続先サーバ情報の表示」を選択している場合には、データベース情報（ホスト名-DB名）を表示します。</td></tr>
<tr><td>ステータス</td><td>表示中のレコードの更新状況について表示します。表示内容と説明は以下の通りです。
<table>
<tr><th>表示</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>(空白)</td><td>既存レコードで修正が行われていない場合は何も表示されません。</td></tr>
<tr><td>更新</td><td>既存レコードに対して修正を行うと表示されます。</td></tr>
<tr><td>追加</td><td>新たに追加したレコードに表示されます。</td></tr>
<tr><td>削除</td><td>削除したレコードに表示されます。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>レコード番号</td><td>現状画面表示しているレコード番号と全レコード数(抽出している件数)を表示します。</td></tr>
<tr><td>16進編集バー</td><td>16進数によるデータの表示と編集を行います。 「Solaris版 SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware) V50L22」をご利用の場合は、16進数によるデータの表示と編集を行う際、16進編集バーの代わりに「16進編集」ダイアログボックスを使用します。
16進編集バーおよび「16進編集」ダイアログボックスの操作方法は、「データ項目の内容を変更する（16進編集）」を参照してください。

● 画面説明</td></tr>
<tr><td>列名</td><td>表に定義されている列名を表示します。</td></tr>
<tr><td>属性</td><td>表に定義されている列毎の属性を簡略化して表示します。

※TF-LINDAでサポートしているデータ型については、以下のトピックの「データ型」を参照してください。

● Symfowareの扱いに関する制限事項/注意事項
● Oracleの扱いに関する制限事項/注意事項</td></tr>
<tr><td>キー</td><td>該当列が、キー項目であるかどうかが表示されます。表示内容と説明は以下の通りです。
<table>
<tr><th>表示</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>(空白)</td><td>キー項目ではない場合は何も表示されません。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>P</td><td>列は、プライマリキーであることを表しています。</td></tr>
<tr><td></td><td>U</td><td>列は、ユニークキーであることを表しています。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">NULL</td><td colspan="2">該当列が、NOT NULL 制約であるかどうかが表示されます。表示内容と説明は以下の通りです。</td></tr>
<tr><td>表示</td><td>説明</td></tr>
<tr><td>NOT</td><td>列は、NOT NULL制約であることを表しています。</td></tr>
<tr><td>NULL</td><td>列は、NOT NULL制約ではないことを表しています。</td></tr>
<tr><td>データ内容</td><td colspan="2">項目ごとにデータ内容を表示します。また、データの編集もここで行えます。エディットコントロールの幅は各項目長(表示長)にあわせて設定しています。</td></tr>
</table>

画面説明 - 一覧形式画面

<table>
<tr><th>名称</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>タイトルバー</td><td>表を開いている場合は、開いている表情報を表示します。また、「接続先サーバ情報の表示」を選択している場合には、データベース情報（ホスト名-DB名）を表示します。</td></tr>
<tr><td>列名</td><td>下のカーソルが位置づけられている列名を表示します。</td></tr>
<tr><td>データ表示域</td><td>下のカーソルが位置づけられているデータ内容を表示します。</td></tr>
<tr><td>ステータス</td><td>表示中のレコードの更新状況について表示します。表示内容と説明は以下の通りです。
<table>
<tr><th>表示</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>(空白)</td><td>既存レコードで修正が行われていない場合は何も表示されません。</td></tr>
<tr><td>更新</td><td>既存レコードに対して修正を行うと表示されます。</td></tr>
<tr><td>追加</td><td>新たに追加したレコードに表示されます。</td></tr>
<tr><td>削除</td><td>削除したレコードに表示されます。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>16進編集バー</td><td>16進数によるデータの表示と編集を行います。 「Solaris版 SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware) V50L22」をご利用の場合は、16進数によるデータの表示と編集を行う際、16進編集バーの代わりに「16進編集」ダイアログボックスを使用します。
16進編集バーおよび「16進編集」ダイアログボックスの操作方法は、「データ項目の内容を変更する（16進編集）」を参照してください。

● 画面説明</td></tr>
<tr><td>列名</td><td>表に定義されている列名を表示します。</td></tr>
<tr><td>属性</td><td>表に定義されている列毎の属性を簡略化して表示します。

※TF-LINDAでサポートしているデータ型については、以下のトピックの「データ型」を参照してください。

● Symfowareの扱いに関する制限事項/注意事項
● Oracleの扱いに関する制限事項/注意事項</td></tr>
<tr><td>キー</td><td>該当列が、キー項目であるかどうかが表示されます。表示内容と説明は以下の通りです。
<table>
<tr><th>表示</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>(空白)</td><td>キー項目ではない場合は何も表示されません。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>P</td><td>列は、プライマリキーであることを表しています。</td></tr>
<tr><td></td><td>U</td><td>列は、ユニークキーであることを表しています。</td></tr>
<tr><td>NULL</td><td colspan="2">該当列が、NOT NULL 制約であるかどうかが表示されます。表示内容と説明は以下の通りです。</td></tr>
<tr><td></td><td>表示</td><td>説明</td></tr>
<tr><td></td><td>NOT</td><td>列は、NOT NULL制約であることを表しています。</td></tr>
<tr><td></td><td>NULL</td><td>列は、NOT NULL制約ではないことを表しています。</td></tr>
<tr><td>データ内容</td><td colspan="2">項目ごとにデータ内容を表示します。また、データの編集もここで行えます。エディットコントロールの幅は各項目長(表示長)にあわせて設定しています。
データ入力開始・確定は[ENTER]キーにより行います。
編集内容を取り消す場合、または、編集域から抜ける場合は[ESC]キーを使用します。</td></tr>
</table>

No.	名称	説明
1	ホスト名	接続するサーバのホスト名を設定します。
2	ポート番号	サーバと通信を行う為のサーバ上で定義したポート番号を設定します。ポート番号には、サーバのServicesファイル内で設定したLINDAサーバのポート番号を指定します。
3	サーバ側のカレントディレクトリ	ロード/アンロード時の初期フォルダを指定します。

ホスト名/ポート番号の情報は履歴として5つまで保存されます。リストから履歴情報を選択し切り替えることが可能です。

TF-LINDAの設定 | ページ | 余白 | ヘッダ／フッタ

名称	説明
印刷レコード範囲	
開始レコード	印刷対象とするデータの開始レコード番号を指定します。初期値には、1が設定されています。
終了レコード	印刷対象とするデータの終了レコード番号を指定します。初期値には、編集中の全レコード件数が設定されています。また、「0」の指定は、最終レコードまでを意味します。
削除レコードを印刷する	データ編集で削除したレコードを印刷対象とするかを指定します。初期値には、「しない」が設定されています。
書式	
ヘッダ／フッタを印刷する	ヘッダ／フッタを印刷するかを指定します。初期値には、「する」が設定されています。
下線を印刷する	各レコードのデータ内容に下線を引くかを指定します。初期値には、「しない」が設定されています。
レコード番号を印刷する	各レコードのレコード番号を印刷するかを指定します。指定する場合は「全ページ」と「先頭のページ」のどちらかを選択できます。初期値には、「する・全ページ」が設定されています。
レコードのステータスを印刷する	各レコードの更新状況を印刷するかを指定します。初期値には、「する」が設定されています。

画面説明 － 印刷プレビュー

印刷 プレビューのイメージで印刷を行います。

項目	説明
印刷	印刷を開始します。
前ページ	前ページを表示します。
次ページ	次ページを表示します。
拡大	印刷イメージを現状のサイズより１段階拡大して表示します。
縮小	印刷イメージを現状のサイズより１段階縮小して表示します。
閉じる	プレビュー画面を終了し、編集画面に戻ります。

画面説明 - データベースへのログイン

項目	説明
ユーザID	データベースへ接続する為のユーザIDを入力します。
パスワード	データベースへ接続する為のパスワードを入力します。パスワードの保存がチェックされていれば、前回のパスワードを表示します。
パスワードを保存する	入力したパスワードを保存します。
DB情報	「環境設定（データベース情報）」プロパティシートで指定した接続先DB情報が表示されます。

画面説明 - 表指定

項目	説明
スキーマ名	編集したいデータの表が格納されているスキーマ名を入力します。
表名	編集したいデータの表を入力します。「表選択」ダイアログボックスで表を選択することもできます。
表の最新定義情報を取得する	テストケースファイルの作成を行います。また、一度作成したテストケースファイルの表定義の内容が変更された場合、変更後の表定義で再度テストケースファイルを作成します。表定義が変更されていない場合でも、テストケースファイルを再作成することができます。
表選択	スキーマに登録されている表一覧を表示します。

画面説明 － 表選択

項目	説明
表選択	スキーマに登録されている表一覧を表示します。

画面説明 - テストケース選択

項目	説明
表名	選択した表の情報が表示されます。
編集モード	編集するモードを指定します。 「更新」： データベースに対して、データの編集や行の追加・更新・削除処理を行います。 「表示」： データベースのデータを表示します。 「追加」： データベースに対しての、行の追加処理を行います。
抽出条件	「条件なし」、「条件パターン1」、「条件パターン2」、「条件パターン3」の中から選択します。条件パターン1から3が設定された場合のみ、WHERE句条件指定の「条件設定」ボタンが押下可能となります。初期値は「条件なし」が設定されています。 「編集モード」が「更新」、「表示」の時だけ設定することができます。

パーティション名	「条件設定」ダイアログボックスで指定したパーティション名が表示されます。
条件内容	「条件設定」ダイアログボックスで設定した抽出条件が表示されます。
列選択	「全列」、「選択」のどちらかを選択します。「選択」が設定された場合のみ、「列選択」ボタンが押下可能となります。初期値は、「全列」が設定されています。
ソート指定	「ソートしない」、「ソートする」のどちらかを選択します。「ソートする」が設定された場合のみ「設定」ボタンが押下可能となります。初期値は、「ソートしない」が設定されています。「編集モード」が「更新」、「表示」の時だけ設定することができます。

コード情報	データベースの文字コード情報（DBコード）が表示されます。このオプションの設定は変更できません。 DBコードは、ステータスバーにも表示されます。
コメント	「条件設定」ダイアログボックスで設定したコメントが表示されます。

画面説明 - 条件設定

項目	説明
確定条件一覧	「条件内容」で設定した条件を表示します。
条件内容	条件を設定します。
連結条件	「AND」か「OR」のどちらかを選択して下さい。最初の条件の場合は値を無視します。
列名	「列一覧」ダイアログボックスにて列名を選択し、「OK」ボタンを押下すると条件設定ダイアログボックスの列名に表示されます。または、直接入力しても構いません。
列選択	「列一覧」ダイアログボックスにて列の選択を行います。
演算子	「列名」に対応する「演算子」の選択を行います。 「演算子」の設定は以下の演算子から選択します。 (=,<,>,<=,>=,!=,<>,IN,BETWEEN,LIKE,IS NULL,NOT IN,NOT BETWEEN,NOT LIKE,IS NOT NULL) ※DBの環境により指定できる演算子が異なります。
条件式	「列名」に対応する「条件式」の入力を行います。
更新	選択された行の条件を更新し、「確定条件一覧」に表示されます。
追加	新規条件を「確定条件一覧」の最後に追加します。 条件の最初の場合は「AND」、「OR」は無視されます。

削除	「確定条件一覧」で選択された行を削除します。一行目が削除された場合は、次の行の「AND」、「OR」を削除します。
パーティション名 ORACLE	パーティション名を入力します。「パーティション選択」ボタンを押下することにより選択することも可能です。
パーティション選択 ORACLE	「パーティション選択」ダイアログボックスにてパーティションの選択を行います。
コメント	条件パターンに対するコメントを記述します。必要なければ空白のままで構いません。

行っている処理により、選択画面/表現が多少異なります。

列を選択して表を開く場合（「テストケース選択」ダイアログボックス）

No.	名称	説明
1	列一覧	列選択する場合に、列/属性の一覧表示します。列は複数選択できます。 PRIMARY KEY および UNIQUE KEYはそれぞれ「P」「U」、NOT NULLが指定された列には「N」の情報が付加されて表示されます。 「環境設定（作業環境）」プロパティシートの「NOT NULLの列を常に選択状態にする」を選択している場合は、「OK」ボタンを押下するとNOT NULL属性の列が無条件に選択されます。
2	クリア	列一覧から選択した列をクリアします。

列を参照してデータを生成する場合（「データ一括更新」ダイアログボックス）

No.	名称	説明
1	列名指定	指定する列名を直接入力します。
2	列選択	列選択する場合に、列/属性の一覧表示します。

列を選択してSQL文を生成する場合（SQL直接実行操作においての「表選択」ダイアログボックスから開きます）

No.	名称	説明
1	列一覧	選択した表の列名と属性が表示されます。SQL文に指定する列を選択します。 列は複数選択できます。 選択を取り消すときは「クリア」ボタンを押下します。

画面説明 － パーティション選択

項目	説明
パーティション選択	「条件設定」ダイアログボックスでパーティション名を設定する場合に、選択可能なパーティション名の一覧が表示されます。

画面説明 - 列一覧

項目	説明
列一覧	「ソート条件」ダイアログボックスまたは「条件設定」ダイアログボックスで列名を設定する場合に、選択可能な列の一覧が表示されます。

画面説明 － ソート条件

項目	説明
列名	「列選択」ボタンを押下すると「列一覧」ダイアログボックスが表示されます。「列一覧」ダイアログボックスにて列名を選択します。または、直接入力しても構いません。
ソート種別	「昇順」か「降順」のどちらかを選択します。初期値は「昇順」が選択されています。
列一覧	「列名」と「ソート種別」の設定内容が表示されます。最大５つまで表示します。
列選択	「列一覧」ダイアログボックスにて列の選択を行います。
追加	「列名」と「ソート種別」の設定内容を追加します。
クリア	「列一覧」に表示した内容をクリアします。

画面説明 - 転送確認

アクセスモードが通常アクセスの場合

項目	説明
MAX件数	「環境設定（転送）」プロパティシートで設定した「転送時の最大件数」が表示されます。また、抽出する件数を直接指定することもできます。
ヒット件数	「テストケース選択」ダイアログボックスで設定した条件等でヒットした行の件数を表示します。

アクセスモードが分割アクセスの場合

項目	説明
ヒット件数	「テストケース選択」ダイアログボックスで設定した条件等でヒットした行の件数を表示します。
分割転送件数	指定した「分割転送サイズ」で一度に転送できる件数が表示されます。この件数以上のデータを表示しようとした場合、サーバからの転送処理が行われます。

分割転送サイズ	「環境設定（転送）」プロパティシートで設定した「分割転送サイズ」が表示されます。

画面説明 - 更新確認

項目	説明
更新件数	更新した行の件数を表示します。
追加件数	追加した行の件数を表示します。
削除件数	削除した行の件数を表示します。
全てROLLBACK	正常に更新された行、エラーになった行、全てを無効にし、再度、編集画面に戻ります。
エラーコードのみROLLBACK	正常に更新された行は保存し、エラーになった行は無効にします。

画面説明 - 件数設定

項目	説明
処理件数	「レコード追加」/「レコード複写」処理時は、何行追加または複写するのかを指定します。「レコード削除」処理時は、現在表示中の行から何行削除するのかを指定します。
項目の値を自動生成する	「レコード追加」/「レコード複写」処理時に、各列の値を自動生成する場合に指定します。 「レコード削除」処理時には使用しません。

画面説明 － 16進編集

16進編集バー

項目	説明
16進編集	表示/編集対象のデータ内容が16進数表記で表示されています。 ※データの途中にNULL（0x00）を設定すると、データベースがNULLをデータの終端と判断してNULL以降に半角空白を埋めて保存されますので注意が必要です。
カーソル位置	エディットボックス内のカーソル位置を「現在位置/属性長」（単位：バイト数）の形式で表示します。 たとえば、カーソル位置が「先頭から6バイト目の上位バイト」にあるときは〝6/10 Byte [H]〟と表示されます（〝H〟は上位バイトを表し、〝L〟は下位バイトを表す）。 ※ただし、範囲選択時における現在位置の表示で、不正確なケースがあります。
移動	[Enter] キー押下後、指定された位置（単位：バイト数）へ移動します。
日本語列の16進表示形式	16進数値の表示形式が「ビッグエンディアン」、「リトルエンディアン」のどちらのモードになっているかを示します。 コード体系がUnicode、かつ日本語列の場合に表示されます。 「BE」は「ビッグエンディアン」を、「LE」は「リトルエンディアン」を意味します。 「環境設定（コード変換情報）」プロパティシートの「日本語列の16進表示形式」で変更できます。

「16進編集」ダイアログボックス（「Solaris版 SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware) V50L22」をご利用の場合）

項目	説明
列名	編集中の項目名が表示されます。
データ内容	編集中の項目の内容が、16進数で表示されます。内容を変更する場合も16進数で指定します。

拡張編集機能についての注意事項

画面説明 － マルチライン編集

項目	説明
列名	編集中の列名が表示されます。
データ内容	編集中の列の内容が、マルチライン編集で表示されます。改行コードが含まれる場合、複数行で内容が表示されます。

拡張編集機能についての注意事項

画面説明 - Unicode編集

項目	説明
列名	編集中の列名が表示されます。
データ内容	編集中の列の内容が、Unicodeで表示されます。改行コードが含まれる場合、複数行で内容が表示されます。
フォント選択	表示フォントを切り替えます。

拡張編集機能についての注意事項

画面説明 - MDPORT連携

項目	説明
インポート/エクスポート	MDPORT連携処理を選択します。 ● インポート CSV形式のファイルを編集中の表に取り込むことができます。 ● エクスポート 編集中のデータ内容を、異なるコード/データ形式に変換して出力することができます。なお、列選択している場合は、選択されている項目のみが出力対象となります。
データ形式	対象ファイルの形式を指定します。 ● データファイル形式 ● CSV形式 ● XML形式
インポートするCSVファイルの引用符	引用符(")を含むデータをインポートする場合に指定します。 エクスポートでは使用しません。
対象ファイル指定	インポート時のファイルを指定します。 (CSV形式のみ)

MDPORT起動	設定情報をもとに、「MDPORT連携」ダイアログボックスをクローズ後、MDPORTを起動します。

画面説明 - SQL直接実行

項目	説明
SQL文	SQL文を指定します。 SELECT文のみ指定可能です。
SQL生成	表一覧/列一覧より選択し、SQL文を生成します。
SQL読込	保存してあるSQLファイルを読み込みます。 指定できるファイルは、TF-LINDAを使用して作成したものだけです。
SQL保存	作成したSQL文をファイルへ保存します。 拡張子には ″.sql″ を指定してください。
SQL実行	作成したSQL文を実行し、問い合わせ結果を一覧表示画面へ表示します。

画面説明 - ロード/アンロード

項目	説明	備考
スキーマ	指定したスキーマ名が表示されます。	
表名	[表選択(T)]にて、選択した表名が表示されます。	
表選択	ロードまたは、アンロードする表を選択します。	
クライアント/サーバ	入力データ／出力先データとなるファイルの場所を指定します。	
ファイル名	入力データ／出力先データのパスを指定します。	
参照	入力データ／出力先データのパスを参照します。	
引用符	入力データの引用符を指定します。	ロード処理時のみ指定可能。
エラー件数を設定する	発生エラー件数の限界値を指定します。 省略した場合、TF-LINDAはデータベースのロードコマンドに対し、限界値を指定するパラメタを付加しません。 そのため、データベースのデフォルトの動作となります。 ● Symfoware: 1件以上のエラー検出でロード処理が停止します。 ● Oracle: データベースのデフォルトのエラー件数が設定されます。 ※発生エラー件数の限界値を指定するパラメタは、Symfowareデータベースでは ″-r″、Oracleデータベースでは ″errors″ です。 パラメタの詳細については各データベース製品のマニュアルを参照してください。	ロード処理時のみ指定可能。
件数	エラー出力件数を指定します。 指定した件数に達した場合、ロード処理が終了します。	ロード処理時のみ指定可能。

画面説明 － 入力ファイルの指定／出力先ファイルの指定

項目	説明
ディレクトリ名	指定したディレクトリ名が表示されます。初期値は環境設定でサーバ側のカレントディレクトリに指定した値です。
ファイル	ファイル一覧で指定したファイル名が表示されます。
ファイル一覧	入力データ／出力先データとなるファイルを指定します。

画面説明 - 定義情報出力

項目	説明
データベース情報	接続したデータベース情報が表示されます。
表を選択する	指定した表の情報のみをファイルへ出力します。
表一覧	情報を抽出したい表を選択します。
表一覧情報	表一覧情報を[ファイル名(G)]で指定したファイルへ出力します。
列一覧情報	列一覧情報を[ファイル名(R)]で指定したファイルへ出力します。表選択をした場合には、指定した選択表の情報を出力します。さらに、ファイル名に「*」がある場合には、表単位ごとにファイルを出力できます。※1
インデックス一覧情報	インデックス一覧情報を[ファイル名(S)]で指定したファイルへ出力します。表選択をした場合には、指定した選択表の情報を出力します。さらに、ファイル名に「*」がある場合には、表単位ごとにファイルを出力できます。※1　※2

※1：ファイル名に「*」が設定された場合には、列一覧情報とインデックス一覧情報とで作成されるファイル名が重複しないように次のように作成します。列一覧情報ファイル名は、「スキーマ名.表名_C」、インデックス一覧情報ファイル名は、「スキーマ名.表名_I」として「*」指定を置き換えます。

出力先指定例

C:¥Work¥linda*.csv	→	C:¥Work¥lindaスキーマA.表A_C.csv C:¥Work¥lindaスキーマB.表B_C.csv :
C:¥Work¥*	→	C:¥Work¥スキーマA.表A_C C:¥Work¥スキーマB.表B_C :

※2：インデックス情報が存在しない表において、インデックス一覧情報の取得でファイル名に「*」が設定された場合には、表情報のファイルは、生成されず、ファイル名に「*」が設定されていない場合には、見出しのみのファイルが作成されます。

(注)ファイル作成時に何らかのエラーが発生した場合には、エラーメッセージを通知し、作成中のファイルは削除します。ただし複数ファイル作成時の場合は、以降の処理は続行します。

画面説明 - データ生成

データの自動生成に関する詳細設定を行うための画面です。

項目	説明
生成書式一覧	各列に設定された書式が表示されます。
書式の編集ボタン	「データ生成 詳細情報」ダイアログボックスが表示されます。 列情報 現在選択中の列情報が表示されます。 書式情報 生成種別 ● NULL値を設定 初期値としてNULL（0x00）を設定します。 ● 書式を設定（初期値） 書式を設定し、書式に従ってデータ生成します。 ● 他の列を参照 指定された列のデータ生成方法に従います。 ● 列挙型を設定 あらかじめ用意されたデータからデータを生成します。 ファイル名 列挙型で使用する"列挙ファイル"を指定します。 種別で「列挙型を設定」を選択した場合、設定可能です。1列に対し1ファイルを指定します。 「編集」ボタンを押すと、指定したファイルがメモ帳で開かれます。 列挙ファイルのフォーマット

- SJISのテキストファイルで記述します。
- 改行コードまでの１レコードを１データとします。
- 引用符(")はデータとしてみなされます。
- カンマ(,)は扱えません。
- 記述できるデータの数は最大10万個までです。
- 改行のみのレコードは無視されます。

記述例	
あああ ああ いいい いい うううう うう ：	11.111 22.222 33.333 ：

参照列

参照する列名を指定します。
種別で「他の列を参照」を選択した場合、設定可能です。

書式

書式を指定します。種別で「書式を設定」を選択すると、各項目属性に合わせた書式がデフォルトとして設定されます。

- 書式のカスタマイズ

  チェックすると書式をカスタマイズすることができます。

  書式と設定例

- 「登録書式の選択」ボタン

  初期時、「%D」、「%U」、「%s」、「%S」、「%N」、「%YMD」、「%YMA」、「%T」、「%TS」が登録されています。
  自分が設定した書式を書式例に追加することや、必要のなくなった書式例を削除することも可能です。ただし初期登録されているものは、削除できません。

開始値

可変部の開始値を設定します。可変部が複数ある場合は、文字「,」（カンマ）で区切って指定します。指定する文字は、対応する書式が取り得る範囲内である必要があります。

終了値

可変部の終了値を設定します。可変部が複数ある場合は、文字「,」（カンマ）で区切って指定します。指定する文字は、対応する書式が取り得る範囲内である必要があります。

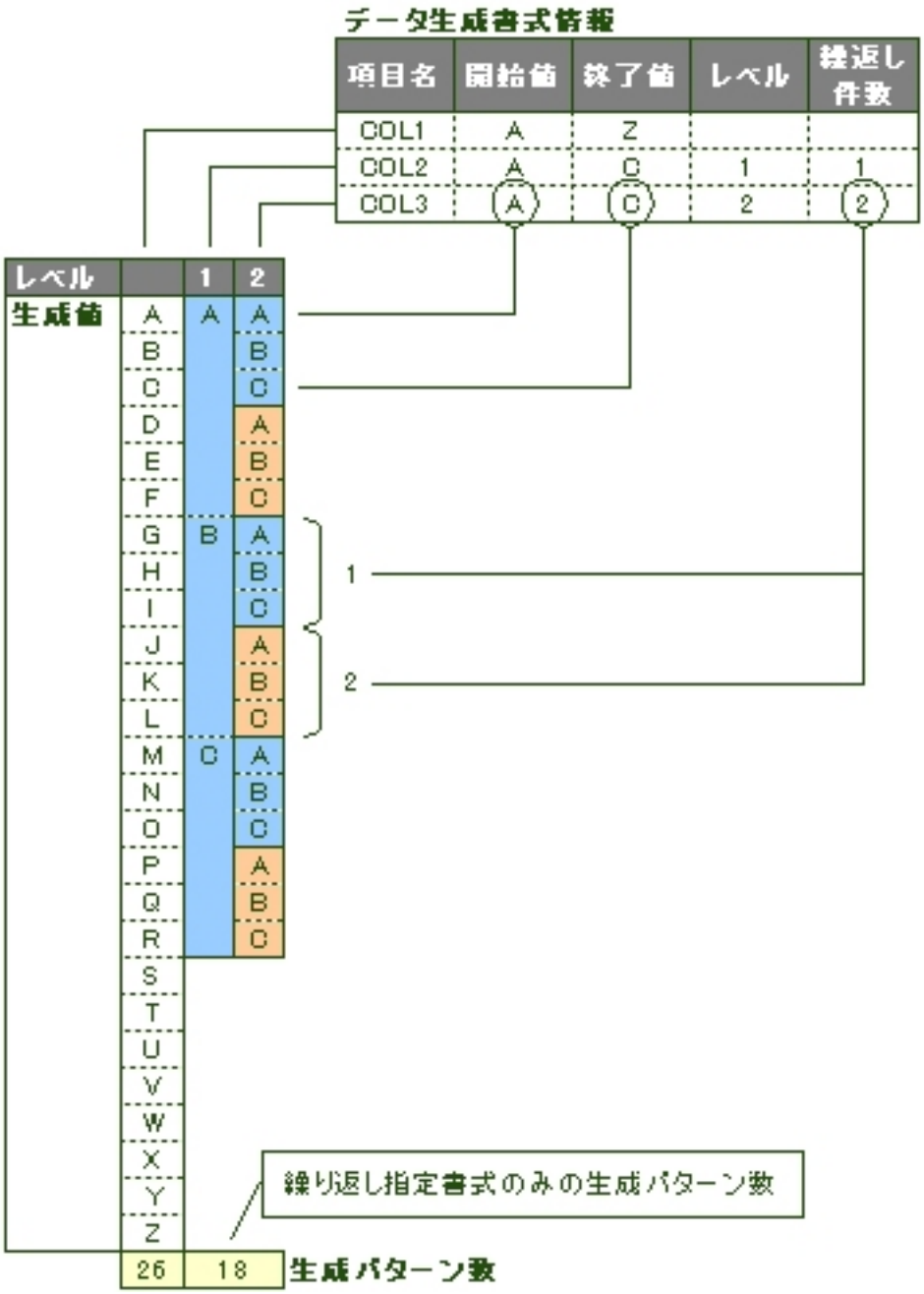
増分値

可変部の増分値を設定します。-9～+9で指定可能です。

終了値を超えた場合の動作

生成しようとするデータ件数に満たない条件の場合（可変部の値が終了値を超えた場合、列挙型のデータ数が生成レコー

	ド件数に満たない場合 ）の扱いを指定します。 ● NULL値設定 何も指定しません。（NULL<0x00>が設定されます。） ● 開始値より繰り返す 指定された書式で、開始値から繰り返し生成を行います。 書式の削除 選択されている列の書式情報をクリアします。 ※キャンセルボタンを押下しても、書式は元に戻せません。 書式の設定 指定した書式を、選択されている列へ設定します。 前の列、次の列 ダイアログボックスを開いたまま、列を移動します。
書式の削除ボタン	選択されている列の書式情報をクリアします。 ※キャンセルボタンを押下しても、書式は元に戻せません。
繰り返し生成情報	書式の設定されている項目に対してレベル番号と繰り返し数を指定して、データが入れ子になったレコードを作成します。 レベル番号の指定より入れ子の対象となる項目の上下関係を指定して、下位レベルの項目から増分を繰り返します 繰り返しを行う 繰り返しを行いデータを生成します。 レベル、繰り返し、ともに１以上の値を指定します。 書式が指定されていない列に対しては、繰り返し指定は行えません。



一覧に反映

指定した繰り返し生成情報を、生成書式一覧に反映します。

出力情報	引用符の指定 生成されるデータの各項目に引用符を付加するかどうかを指定します。 引用符(")を選択した場合、文字列項目に引用符が付加されて出力されます。 ※外部ファイル（CSVファイル）へ出力する際に指定できます。

画面説明 - データ一括更新

指定列の一括更新に関する詳細設定を行うための画面です。

項目	説明
列名	一括更新を行いたい列を指定します。
属性	現在選択されている列の属性が表示されます。
参照ボタン	現在の表内の列を参照選択します。
種別	一括更新の種別を「NULL値を設定」、「書式を設定」から選択します。デフォルトでは、「NULL値を設定」が選択されています。 ● NULL値を設定 初期値としてNULL（0x00）を設定します。 ● 書式を設定 書式を設定し、書式に従って一括更新します。
書式のカスタマイズ	チェックすると書式をカスタマイズすることができます。
書式	書式を指定します。種別で「書式を設定」を選択すると、各項目属性に合わせた書式がデフォルトとして設定されます。 書式と設定例 書式例 書式例が一覧で表示されています。初期時、「%D」、「%U」、「%s」、「%S」、「%N」、「%YMD」、「%YMA」、「%T」、「%TS」が登録されています。自分が設定した書式を書式例に追加することや、必要のなくなった書式例を削除することも可能です。ただし初期登録されているものは、削除できません。

範囲指定	開始値 可変部の開始値を設定します。可変部が複数ある場合は、文字「,」（カンマ）で区切って指定します。指定する文字は、対応する書式が取り得る範囲内である必要があります。 終了値 可変部の終了値を設定します。可変部が複数ある場合は、文字「,」（カンマ）で区切って指定します。指定する文字は、対応する書式が取り得る範囲内である必要があります。 増分値 可変部の増分値を設定します。-9～+9で指定可能です。
終了値を超えた場合の動作	可変部の値が終了値を超えた場合の扱いを「NULL値設定」、「開始値より繰り返す」から選択します。

画面説明 - 高度な設定

項目	説明
EUC_U90のDBに接続する	Symfoware V7以降のデータベース（ロケールがEUC_U90）に接続する場合に選択します。 このオプションを選択しなくてもV7以降のSymfowareに正常に接続することはできますが、 その際にはサーバ側のエラーログファイル（SI_STRSV.ERR）に、接続に一度失敗したことを告げるメッセージが出力されます。 これはTF-LINDAがEUC_S90をデフォルトロケールとして接続処理を行い、失敗した場合にEUC_U90のロケールで再び接続処理を行うためです。 Symfoware V7以降に接続する場合は、エラーログファイルの肥大を防ぐためにこのオプションを選択することをおすすめします。

メニューコマンド

ファイル(F)	データ操作(D)	編集(E)	検索(S)	表示(V)	ツール(T)	オプション(O)	ヘルプ(H)

ファイル(F) メニューコマンドについて説明します。

項目	説明
表を開く(O)	データベース上の表を選択する場合に、このコマンドを実行します。
サーバへの接続(R)	データベースへ接続する場合に、このコマンドを実行します。
サーバからの切断(D)	接続されたデータベースから切断する場合に、このコマンドを実行します。
保存して閉じる(S)	編集したデータの更新を行い、初期画面に戻ります。その際、更新件数確認のメッセージが表示されます。変更データが存在しない場合は、更新はせずに初期画面に戻ります。
保存しないで閉じる(C)	初期画面に戻ります。変更データが存在する場合は、保存するかどうかのメッセージボックスが表示されます。
印刷ページ設定(U)	印刷に関する各種設定を行います。
印刷プレビュー(V)	印刷イメージを画面上で確認することができます。
印刷(P)	編集中のデータを一覧形式イメージで印刷することができます。
ファイル一覧	過去に操作した表名が最新のものから最大5件表示されます。
SIMPLIA/TF-LINDAの終了(X)	ツールを終了します。変更データが存在する場合は、保存するかどうかのメッセージボックスが表示されます。

データ操作(D) メニューコマンドについて説明します。

項目	説明
やり直し(U)	１行単位で変更データを元の値に戻します。ただし、データ変更後、他の行へ移動すると、その時点でやり直し（U）ができなくなります。
レコード追加(A)	行を追加します。１度に複数件の追加が可能です。
レコード複写(C)	現在表示中の行を複写します。１度に複数件の複写が可能です。

レコード削除(D)	現在表示中の行を削除します。この処理によって削除された行はレコード復元(R)コマンドによって復元することができます。一度に複数件の削除が可能です。
レコード復元(R)	レコード削除(D)コマンドによって削除した行を表示した状態でこのコマンドを実行するとレコード削除する前の状態に戻すことができます。一度に１件しか復元できません。

編集(E) メニューコマンドについて説明します。

項目	説明
16進編集(H)	16進数によるデータの表示／編集を行います。 現在、カーソルの存在する列が処理対象となります。このコマンドを実行すると、「16進編集バー」または「16進編集」ダイアログボックスにカーソルが移動します。
マルチライン編集(L)	指定の列を複数行で編集します。属性長の長い列など、複数行表示で編集が可能です。
Unicode編集(U)	指定の列をUnicodeで編集します。Unicodeフォントを指定することで、Unicode文字を表示/入力することができます。
データ一括更新(P)	既存レコードの指定列を自動生成したデータに更新します。

検索(S) メニューコマンドについて説明します。

項目	説明
前レコード(P)	現在表示している行の１つ前の行を表示します。
次レコード(N)	現在表示している行の１つ次の行を表示します。
先頭レコード(T)	先頭行を表示します。
最終レコード(B)	最終行を表示します。
	現在表示しているエラーの１つ前のエラーを表示します。（エラー再表示時のみ） データを更新する際にエラーが発生した場合、エラーとなった

前のエラーレコード(R)	データを検索するために使用します。 「環境設定」ダイアログボックスの「データベース情報」で、エラー時のROLLBACKの方法に「全てROLLBACK」を指定したときに有効です。 データを更新する際にエラーが発生したときの対処方法は、「更新エラーが発生した場合」を参照してください。
	現在表示しているエラーの１つ次のエラーを表示します。 (エラー再表示時のみ) データを更新する際にエラーが発生した場合、エラーとなったデータを検索するため

次のエラーレコード(E)	に使用します。 「環境設定」ダイアログボックスの「データベース情報」で、エラー時のROLLBACKの方法に「全てROLLBACK」を指定したときに有効です。 データを更新する際にエラーが発生したときの対処方法は、「更新エラーが発生した場合」を参照してください。

表示(V) メニューコマンドについて説明します。

項目	説明
一覧形式画面(T)	データ編集画面をレコード形式画面から一覧形式画面に切り替えます。その際、レコード形式画面で表示していた行を先頭にして一覧表示します。
レコード形式画面(R)	データ編集画面を一覧形式画面からレコード形式画面に切り替えます。その際、一覧形式画面でフォーカスが設定されている行を表示します。

フォントの指定(F)	レコード形式画面、一覧形式画面の文字フォントを指定することができます。初期状態では、MS ゴシックの9ポイントに設定されています。
表示形式の変更(A)	以下に示す領域の表示／非表示を設定します。 - 属性(A) - キー(K) - NULL(N) - ツールバー(T) - ステータスバー(S) - 16進編集バー(H)

ツール(T) メニューコマンドについて説明します。

項目	説明
SQL直接実行(S)	SQL文を直接実行し、問い合わせ結果をTF-LINDA上で表示させることができます。(SELECT文のみ)
データ生成(D)	データ項目単位にデータ生成条件を指定することにより、テストデータを自動生成することができます。
ロード(L)	指定の表に、データをロードします。
アンロード(U)	指定の表から、データをアンロードします。

定義情報出力(I)	DBの各種定義情報を出力することができます。 ● 表一覧情報 ● 列一覧情報 ● インデックス一覧情報

※ ツール（T）メニューコマンドは表を開いていないとき（初期画面）のみ操作できます。

オプション(O) メニューコマンドについて説明します。

項目	説明
環境設定(P)	LINDAが動作する上での各種設定を行います。（データを開いている状態では、選択できません。）
MDPORT連携(M)	SIMPLIA/TF-MDPORTの機能を利用し、異なるコード/ファイル形式へエクスポートできます。また、CSV形式からのインポートも可能です。

ヘルプ(H) メニューコマンドについて説明します。

項目	説明
TF-LINDA ヘルプ(H)	オンラインマニュアルのコンテンツを表示します。
バージョン情報(A)	LINDAの製品情報を表示します。

ツールバー

TF-LINDAで使用できるツールバーについて以下に説明します。

ファイル（F）

1. サーバへの接続
2. サーバからの切断
3. 保存して閉じる
4. 保存しないで閉じる
5. 印刷
6. 印刷プレビュー

データ操作（D）

7. やり直し
8. レコード追加
9. レコード複写
10. レコード削除

検索（S）

11. 先頭レコード
12. 前レコード
13. 次レコード
14. 最終レコード

表示（V）

15. レコード形式画面
16. 一覧形式画面

編集（E）

17. 16進編集

オプション（O）

18. 環境設定
19. MDPORT連携

ヘルプ（H）

20. TF-LINDA ヘルプ

ステータスバー

ステータスバーの右側の部分には、メニューコマンドを選択したときにそれぞれの簡単な説明が表示されます。同様に、ツールバーのボタンを押したままにしても簡単な説明が表示されます。説明を見た後でそのツールバーのコマンドの実行を中止したいときは、マウス ポインタをそのツールバーボタン以外の位置に移動してマウスボタンを離します。

以下、ステータスバーの各表示項目の説明です。

表示内容	説明
接続状態	[サーバ接続中]/[サーバ未接続]
DBコード	[CHAR,VARCHARのコード]/[NCHAR,NVARCHARのコード]
編集モード	[更新]/[表示]/[追加]
メッセージ	その他の情報を表示します。
カーソル位置	入力エリア（エディットコントロール）内のカーソル位置を表示します。

ショートカットキー

TF-LINDAで使用できるショートカットキーを以下に説明します。

■ファイル(F)メニュー

Ctrl + O	［表を開く(O)］を選択します。
Ctrl + R	［サーバへの接続(R)］を選択します。
Ctrl + S	［保存して閉じる(S)］を選択します。
Ctrl + P	［印刷(P)］を選択します。
Ａｌｔ + Ｆ４	［ＳＩＭＰＬＩＡ／ＴＦ－ＬＩＮＤＡの終了(X)］を選択します。

■データ操作(D)メニュー

Ctrl + Z	［やり直し(U)］を選択します。

■編集(E)メニュー

Ctrl + H	［１６進編集(H)］を選択します。

■検索(S)メニュー

F7	［前レコード(P)］を選択します。
F8	［次レコード(N)］を選択します。
F5	［先頭レコード(T)］を選択します。
F6	［最終レコード(B)］を選択します。

Shift +F4	［前のエラーレコード(R)］を選択します。
F4	［次のエラーレコード(E)］を選択します。

TF-LINDAを使用するにあたっての、全般的な制限事項/注意事項を以下に示します。

定量制限

- 表の長さ（レコード長）が32,760バイトを超えるものは使用できません。
- 一度に編集可能な列数は、以下の条件に該当する範囲内に制限されます。条件を超えてしまう場合は、範囲内になるように、列選択で列を絞り込んでください。

  レコード長＋（列数×4）＜32760
- WHERE句条件指定で設定できる条件の数は最大10個まで設定できます。
- ソート条件で設定できる条件の数は最大5個まで設定できます。
- 条件設定で設定する条件式の長さは63バイトまでです。
- SQL直接実行の文字列長の制限は32000バイトです。
- 2Gバイトを超えるデータは扱えません。（抽出データサイズ、更新データサイズ、ロード/アンロードのデータサイズ、データ生成サイズ等）
- TF-LINDAでは、10万件までデータの抽出・編集ができます。
- 「16進編集」ダイアログボックスにおいて、編集できる項目のデータ長の制限は、2000バイトまでです。

起動ユーザ数

- 同時稼動できるクライアント数は購入されたクライアントライセンス数までです。

操作全般

- TF-LINDA起動中は、Windowsの強制終了を行わないようにしてください。操作中の表が破壊される可能性があります。
- TF-LINDAで表を使用中に、システムやTF-LINDA本体、関連ソフトウェア等に異常が発生した場合、処理の復旧ができず、表の内容が破壊される場合があります。事前に、利用者がバックアップを取得する等の処置を行ってください。
- 一覧形式画面では、項目に入力した値を確定するためには、フォーカスを移動するか、Enterキーを押下してください。入力を確定する前に他の処理を行うと入力データは破棄されます。
- 文字列中の空白の扱いとして、全角空白とするか、半角2バイトの空白とするかは、利用者の使用する日本語変換（ＦＥＰ）の環境設定によって決定されます。
- フォルダおよびファイル指定について

  TF-LINDAがクライアント側に作成するファイル（作業ファイル、データ生成ファイル、アンロードファイル等）の出力先フォルダおよびファイルを指定する場合は、下記の制限/注意事項があります。

  - 指定は、絶対パス指定で行ってください。相対パスにて指定した場合は正常に動作しません。
  - ドライブのルートフォルダは指定できません。サブフォルダを指定して下さい。
  - ロングファイル名をサポートしていないファイルシステム上に作成することはできません。

  TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダには、以下のファイルが作成されます。十分な領域を確保してください。

  - ファイル操作用ワークファイル：操作対象のファイルサイズの約2倍の領域が必要です。また、大量にデータを追加/複写する場合は、上記に加えて、追加/複写するデータ件数×レコード長×2の作業領域が必要です。
- TF-LINDAを複数起動している場合、環境設定を変更することはできません。環境設定の変更を行うには他のTF-LINDAを終了してください。
- 列選択されていない列（データ表示されない列）は、更新の対象になりません。追加の場合はRDBの仕様に従います　(NULL、もしくは、初期値を設定している場合は初期値が設定されます）。

表の最新定義情報を取得する際の注意事項

一度保存した表を「表指定」ダイアログボックスで開く際、「表の最新定義情報の取得」を選択したときは、下記の注意事項があります。

- 続いて開く「テストケース選択」ダイアログボックスの「列選択」と「ソート指定」に設定した情報が初期化されます。
  Oracleをご利用の場合は「WHERE句条件指定」で設定した条件中、パーティションの選択も取り消されます。
- ご利用のデータベースにおいて表の列名の定義が変更されていると、「テストケース選択」ダイアログボックスの「WHERE句条件指定」で指定した旧列名との不一致が起こります。この場合は再度WHERE句条件を指定してください。

アクセス権限

- 操作対象の表は、ログインしたユーザのアクセス権限に依存します。

排他制御について

- TF-LINDAで編集中の表に対する排他制御は、TF-LINDAの編集モードごとに異なります。たとえば、表示モードで表示中の表はほかのアプリケーションから同時に参照したり更新したりできます。しかし更新モードで編集中は、Oracleデータベースの表以外（その場合もできる操作は参照に限られます）同時に使用できません。編集モードごとの排他制御の詳細は、下記の表を参照してください。

LINDA編集モード	Symfoware		Oracle	
	参照	更新	参照	更新
表示モード	○	○	○	○
更新モード	×	×	○	×
追加モード *1	○	○	○	○

*1: 利用者が新たに追加するデータはデータベース上の表には存在しないため排他状態にはなりません。

なお、Symfoware版では、「環境設定(転送)」のアクセスモードで「分割アクセス」を選択して開いている表は、表示モードで開いている場合でも、表データがすべて転送されるまでの間、TF-LINDAの占有状態となります。そのため、ほかのアプリケーションからの更新処理は同時に使用できません。Symfo

- 行排他指定（環境設定にて「選択行へのロック」が指定されている場合）では、開いている行（条件にヒットしている行）が占有状態となります。ただしSymfowareデータベースの表の場合、表の構造によっては開いている行だけでなく、それ以外の行も同時に占有状態となることがあります。

データ入力/表示の仕様について

TF-LINDAでは、基本的に定義バイト長にてデータの表示/入力を制御していますが、文字型の列の場合、各機能により表現が異なる箇所があります。

いずれも、表示/入力上の属性の解釈が異なるためです。
厳格なデータチェックは、データベース更新時にデータベース側でも行われるため、以下のような問題はありません。

- ″意図しないデータが格納される″
- ″格納できるはずのデータが入力できない″

各機能の詳細な動作は、下記、「表の見方」および「動作例」を参照してください。

【表の見方】

データ型	データベース上の定義内容です。
DBコード	データベース（各列）の文字コードの設定内容です。
通常編集	レコード形式/一覧形式画面での動作です。（SQL直接実行時を除く）
SQL直接実行	SQL直接実行機能における動作です。（結果表示） SQL直接実行では、SQL文の結果を表示しているため、TF-LINDAの編集画面との表示上の相違があります。（属性表示、DATE型の内容など ）

マルチライン編集	マルチライン編集機能での動作です。
Unicode編集	Unicode編集機能での動作です。
入力上限	入力エリア（エディットコントロール）内に入力できる文字数の上限です。
属性表示	レコード形式/一覧形式画面上での属性の表示です。 属性表示は、CHAR、VARCHARでは、定義バイト長で扱われます。 NCHAR、NVARCHAR、および、Oracle版で、キャラクタ・セマンティクスが設定されているCHAR、VARCHARでは、定義文字数で表示されます。 ただし、SQL直接実行機能では、常に定義バイト長で表示されます。
桁数表示	入力エリア（エディットコントロール）内のカーソル位置を意味します。 定義バイト長内でのカーソル位置が表示されます。（例 1/30） Unicode編集では、定義文字数内でのカーソル位置が表示されます。
入力チェック	入力した内容に対して入力チェックを行います。 入力データが属性に反している場合、定義バイト長または定義文字数を超える場合、エラーメッセージが表示されます。 通常編集では他の項目へ移動するとき、マルチライン編集、Unicode編集では「OK」ボタンを押下したときにチェックされます。 TF-LINDAでは、入力データが定義バイト長に収まっているかのチェックを行っていますが、以下のような場合はエラーとはならず、DB更新時にエラーとなります。 "CH(10) C" に10文字を超える1バイト文字が入力された場合。 （"123456789012345" など）
DB更新時	DB更新時（メニューより保存処理を行った時）にも、データベース側でデータのチェックが行われます。 入力チェックから漏れたエラーデータも、この段階でデータベースのエラーが表示されます。
データの設定	マルチライン編集、Unicode編集画面で「OK」ボタンを押下すると、レコード形式画面/一覧形式画面へ入力データの内容が設定されます。 Unicode編集では、定義文字数での入力チェックが行われるため、以下のような場合はエラーとはならず、レコード形式画面への設定時に定義バイト長を超えるデータは切り捨てられます。 "CH(10)" に10バイトを超える3バイト文字が10文字設定された場合。 （"あああああああああああ" など）

【動作例】

データ型	DBコード			通常編集					SQL直接実行			マルチライン編集				Unicode編集			
(DB定義)				入力上限	属性表示	桁数表示	入力チェック(他の項目へ移動する時)	DB更新時(保存時)	属性表示		桁数表示	入力上限	桁数表示	入力チェック(OKボタン)	データの設定(OKボタン押下後)	入力上限	桁数表示	入力チェック(OKボタン)	データの設定(OKボタン押下後)
CH(10)	Unicode	UTF8	UTF8 AL32UTF8	なし	10	10	10バイトを超える場合ははエラー	10バイトを超える場合ははエラー	10	10	10	なし	10	10バイトを超える場合ははエラー	入力内容が設定される。	10文字	10	チェックなし	10バイトを超えるデータは切り捨てられて設定される。(漢字などが含まれ場合)
CH(10)C		---	UTF8	なし	10	30	30バイトを超える場合ははエラー	10文字を超える場合ははエラー	--	30	30	なし	30	30バイトを超える場合ははエラー	入力内容が設定される。	10文字	10	チェックなし	入力内容が設定される。
CH(10)C		---	AL32UTF8	なし	10	40	40バイトを超える場合ははエラー	10文字を超える場合ははエラー	--	40	40	なし	40	40バイトを超える場合ははエラー	入力内容が設定される。	10文字	10	チェックなし	入力内容が設定される。
NC(10)		---	UTF8	なし	10	30	30バイトを超える場合ははエラー	10文字を超える場合ははエラー	--	30	30	--	--	---	---	10文字	10	チェックなし	入力内容が設定される。
NC(10)		---	AL32UTF8	なし	10	40	40バイトを超える場合ははエラー	10文字を超える場合ははエラー	--	40	40	--	--	---	---	10文字	10	チェックなし	入力内容が設定される。
NC(10)		UCS2	AL16UTF16	なし	10	20	10文字を超える場合ははエラー	10文字を超える場合ははエラー	10	20	20	--	--	---	---	10文字	10	チェックなし	入力内容が設定される。
CH(10)	EUC	EUC	JA16EUC	なし	10	10	10バイトを超える場合ははエラー	10バイトを超える場合ははエラー	10	10	10	なし	10	10バイトを超える場合ははエラー	入力内容が設定される。	--	--	---	---
CH(10)C		---	JA16EUC	なし	10	30	30バイトを超える場合ははエラー	10文字を超える場合ははエラー	--	30	30	なし	30	30バイトを超える場合ははエラー	入力内容が設定される。	--	--	---	---
NC(10)		COBOL_EUC	---	なし	10	20	10文字を超える場合ははエラー	10文字を超える場合ははエラー	10	--	20	--	--	---	---	--	--	---	---
CH(10)	SJIS	SJIS	JA16SJIS	なし	10	10	10バイトを超える場合ははエラー	10バイトを超える場合ははエラー	10	10	10	なし	10	10バイトを超える場合ははエラー	入力内容が設定される。	--	--	---	---
CH(10)C		---	JA16SJIS	なし	10	20	20バイトを超える場合ははエラー	10文字を超える場合ははエラー	--	20	20	なし	20	20バイトを超える場合ははエラー	入力内容が設定される。	--	--	---	---
NC(10)		SJIS	---	なし	10	20	10文字を超える場合ははエラー	10文字を超える場合ははエラー	10	--	20	--	--	---	---	--	--	---	---

Symfoware版　　ORACLE版

※CH/NCは、可変長(VC/NV)も含みます。
※---は仕様上機能が動作しないものです。

ロード/アンロード機能について

- アンロードはSymfoware版のみの機能です。 Symfo
- ロード/アンロードはテキスト形式のみをサポートしています。
- 未サポート項目は、除外されます。
- 入/出力の場所により、ロード/アンロードデータの文字コードは以下のように処理されます。

入/出力場所	ロード用ファイル/アンロードファイルのコード
クライアント	SJIS
サーバ	DBコード (Solaris版のみ)

- ロードする表のデータは上書きされます。既存のデータに追加してロードを行うことはできません。
- Oracle版では、ロードコマンドにダイレクト・パス指定をしています。ダイレクト・パス指定時のロードコマンドの仕様/制限等については、Oracleのマニュアルを参照してください。 ORACLE
- Oracle版では、ロード機能の入力ファイル(CSV)は、１レコードの最後に「,」を設定してください。もしくは、

文字型に「″」を記述する形式としてください。この形式でない場合はロードがエラーとなったり、最終列のデータが途中で切れたりします。これはOracleのロード機能の仕様です。ORACLE

- ロード/アンロードの仕様は、データベースの仕様に従います。ロード処理に失敗した場合、下記のような現象が発生することがありますが、データベースの仕様です。データベース側のロード/アンロード機能に関するマニュアルを参照した上で、本機能を使用してください。
  - ロード対象のDSIがアクセス禁止状態になる。Symfo
  - ロード対象の索引構成表（索引）が使用禁止状態になる。ORACLE
- WindowsＮＴ版では、コマンド文字列の長さの制限があります。そのため、列数の多い表や、表、列などのオブジェクト名が長い場合、ロード・アンロードがうまくいかない場合があります。Symfo

データ生成に関する制限事項

- 書式に指定可能な文字数は、最大128バイトです。
- 開始値、終了値に指定可能な文字数は、カンマなどを含めて最大128バイトです。
- 増分値に指定可能な値の範囲は、-9～+9です。
- 書式 %s、%Sの桁数の指定は、最大5まで可能です。
- 書式 %D、%Uの桁数の指定は、最大18まで可能です。
- 英数字系の項目に対する固定部の指定は、最大3個まで可能です（可変部は、制限なし）。
- 日本語系の項目に対する固定部・可変部の指定は、それぞれ1個のみ可能です。
- 数字系の項目に対する固定部・可変部の指定は、それぞれ1個のみ可能です。
- 書式例への登録は、最大100個まで可能です。
- TF-LINDAで未サポートの項目は生成できません。書式一覧にも表示されません。
- FLOAT型(FL)は生成できません。
- 列選択していない項目は生成できません。書式一覧にも表示されません。
- 生成するデータ項目が数値属性の場合、書式で指定した桁数が以下の条件に該当するときはデータが正しく生成されません。
  - 全体の桁数＜0
  - 小数点以下の桁数＜0
  - 全体の桁数＜小数点以下の桁数
- 位取りを指定する場合は、以下の書式でなければ生成されません。

  0＜書式の位取り＝＜属性の位取り

  以下の書式設定ではデータ生成されません。

  例　属性：NU(5.2)の場合　　書式：%3.0D又は、書式：%3.3D

- 整数桁数が0の場合に、開始値、終了値の整数桁がチェックされません。この場合、整数桁は無視されます。

  例　書式：%0.2Dの場合
  　　開始値：100.11　　終了値：200.55　　増分値：0.11
  　生成データ（10件）
  　　+0.11,+0.22,+0.33,+0.44,+0.55,+0.11,+0.22,+0.33,+0.44,+0.55

- 開始値または終了値で、書式の位取りに満たない数値を入力した場合、開始値及び終了値は、書式の位取りを満たすように0が付加された状態で設定されます。

  例　書式：%3.4Dの場合
  　　入力値　開始値：100.1　　終了値：200.2
  　　格納値　開始値：100.1000　終了値：200.2000

MDPORTに関する制限事項

- MDPORT連携で扱える項目は、MDPORTの定量制限までです。

- 未サポート項目がある表は、MDPORT連携は使用できません。MDPORT連携を使用する場合は未サポート項目を抽出項目から除いてください。
- インポートで扱えるCSV形式ファイルは、指定のフォーマットで記述されたもののみです。（詳細は、MDPORT連携の操作方法を参照して下さい。）
- XML形式を指定した場合、MDPORTで使用するレイアウト定義ファイルが作業ディレクトリに残ります。ディスクスペースを圧迫する場合は、手動で削除してください。
- 数値型にNULL（何も入力していない状態）が指定されている場合、その項目はエクスポート時に"0"が出力されます。

Unicodeサポートについて

- Unicode編集機能で編集した内容は、UnicodeをサポートしていないOS上では使用できません。
- Unicode編集機能は、「やり直し」を行えません。（[データ操作]-[やり直し]）
- 1バイト文字、2バイト文字、3バイト文字以外の文字は入力/表示が正しく行えません。

制限事項/注意事項

TF-LINDAを使用するにあたっての、画面表示内容および操作方法に関する制限事項/注意事項について、以下に示します。

- 「やり直し（U）」は、表示されているレコードを入力前のデータ内容に戻しますが、他のレコードを表示した場合又は表示形式を切替えた場合は、データ内容を戻すことはできません。

- フォントの変更では、大きい文字サイズ（27以上）は指定できません。

- 入力チェックによりエラーが発生した場合は、正しい値を入力するまで入力エリア（エディットコントロール）を抜けられなくなります。入力をキャンセルし元の内容に戻すには、[ESC]キーを押して下さい。

- 抽出条件を指定する場合は、SQLに直接記述する形式で条件式を指定してください。
  例）Symfoware の DATE 型の場合： DATE'2000-12-12'
  例）Symfoware の各国語型の場合： N'あああ'
  ※詳細は、データベース側のマニュアルを参照してください。

TF-LINDAを使用するにあたっての、Symfowareデータベースの扱いに関する注意事項/制限事項を、以下に示します。

データ型について

括弧内はLINDAで使用するデータ型を表しています。

サポートデータ型
- CHAR (CH)
- NCHAR (NC)
- VARCHAR (VC)
- NCHAR VARYING (NV)
- NUMERIC (NU)
- DECIMAL (DE)
- INTEGER (IN)
- SMALLINT (SI)
- DATE (DA)
- TIME (TI)
- TIMESTAMP (TS)
※ 上記の属性のデータは更新・表示することができます。

未サポートデータ型
- REAL (RE)
- FLOAT (RE または DP)
- DOUBLE PRECISION (DP)
- INTERVAL (IV)
- BLOB (BL)

※ 未サポートデータ型のみで構成されている表は表示・更新することができません。
※ サポート/未サポートデータ型混在で構成されている表は表示することができます。ただし、未サポートデータ型については属性の表示のみ可能でデータの更新・表示はできません。
※ サポート/未サポートデータ型混在で構成されている表にデータを追加する場合、未サポートデータ型の列については、LINDAでは追加の対象としていません。そのため、RDBの仕様に従います（NULL、もしくは、初期値を設定している場合は初期値が設定されます）。
※ 未サポートデータ型の項目がNOT NULLの場合で、RDBの初期値を設定していない場合は、その表へのレコードの追加はできません。

抽出条件で指定できない条件指定方法

- EXIST句

データベースの運用について

- データベース運用において、トランザクションログ無し運用では、エラーが発生しないように操作してください。 データベースが閉塞する可能性があります （NOT NULL項目にNULLを設定するとトランザクションログ無し運用ではデータベースが閉塞します）。

制限事項/注意事項 ORACLE

TF-LINDAを使用するにあたっての、Oracleデータベースの扱いに関する注意事項/制限事項を、以下に示します。

オブジェクトの命名規約について

- 表名、列名などの名前には、二重引用符で囲む必要のある名前（二重引用符で囲まないと、SQLエラーとなる名前）は使用できません。
  使用している場合は正常に動作しません。また、意図しない動作をする場合があります。

サポートコードについて

- SJIS（JA16SJIS）、EUC（JA16EUC）、Unicode（AL32UTF8、UTF8）のデータベースを扱うことができます。

定量制限

- 表示・更新可能な表は実表のみであり、シノニム表は表示、更新することができません。
- 列数が1000列までのテーブルを扱うことができます。

データ型について

括弧内はLINDAで使用するデータ型を表しています。

サポートデータ型
- CHAR（CH）
- VARCHAR2（VC）
- NCHAR（NC）
- NVARCHAR2（NV）
- NUMBER（NU）
- DATE（DA）
- FLOAT（FL）

※ FLOAT型のデータについてはレコード形式画面および一覧形式画面においての表示と、同画面でのキーボード入力による直接の更新だけをサポートしています。

未サポートデータ型
- LONG (LO)
- RAW (RA)
- LONG RAW (LR)
- ROWID (RO)
- MLSLABEL (ML)
- CLOB (CL)
- NCLOB (NL)
- BLOB (BL)
- BFILE (BF)
上記以外の型(TIMESTAMPなど)は"UNKNOWN"と表示されます。
※ 未サポートデータ型のみで構成されている表は表示・更新することができません。 ※ サポート/未サポートデータ型混在で構成されている表は表示することができます。ただし、未サポートデータ型については属性の表示のみ可能でデータの更新・表示はできません。 ※ サポート/未サポートデータ型混在で構成されている表にデータを追加する場合、未サポートデータ型の列については、LINDAでは追加の対象としていません。そのため、RDBの仕様に従います（NULL、もしくは、初期値を設定している場合は初期値が設定されます）。 ※ 未サポートデータ型の項目がNOT NULLの場合で、RDBの初期値を設定していない場合は、その表へのレコードの追加はできません。

文字データ型の長さセマンティクス対応について

TF-LINDA操作画面上の属性表示は、CHAR/VARCHAR2の場合、セマンティクス情報の指定によって以下の意味を示します。
NCHAR/NVARCHARは常にキャラクタ・セマンティクスとなります。

セマンティクス情報		属性 の意味
「バイト」の場合 (バイト・セマンティクス)	⇒	バイト数を意味します。 バイト数分のデータが格納できます。 （例：CH(10) ⇒ 10バイト）

「キャラクタ」の場合 (キャラクタ・セマンティクス)	⇒	文字数を意味します。 文字数分のデータが格納できます。 （例：CH(10) C ⇒ 10文字） ※キャラクタ指定の場合、属性表示文字列の最後に「C」が付加されます。

※LINDAでは入力文字数のチェックは行いません。
セマンティクスが「キャラクタ」の場合、定義文字数以上のデータが入力できますが、データベース保存時に領域長あふれのエラーとなります。
エラー時のROLLBACK方法で「全てROLLBACK」を指定していない場合は、エラーデータは消失されます。

例）キャラクタセットがUTF8で、"CH(6) C" の場合、

文字種	入力 可能 文字数	入力データ例	データベース 保存時
1バイト系	18文字	AAAAAABBBBBBCCCCCC	エラー
2バイト系	9文字	αααααα βββ	エラー
3バイト系	6文字	ああああああ	正常に保存

MDPORTに関する制限事項

- エクスポートを行う場合、表に含まれるNCHAR、NVARCHAR2型の列は出力できません。処理は行えますが正しく出力できません。

抽出条件で指定できない条件指定方法

- EXIST句

ビュー表について

- 複数の実表で作成されたビュー表（結合ビュー）は、表示のみ可能です。

  ※結合ビューの中にも表示できないものがあります。その時はエラーメッセージが表示されます。

- ビュー表にPRIMARY KEY、UNIQUEがある場合、レコード/一覧形式画面のキー情報に制約情報を表示できません。

日付の表示形式とデータ生成について

- 「環境設定（データベース情報）」プロパティシートにて「日付の表示形式」を変更した場合は、表を開く際に、表の最新定義情報を取得しなおしてください。
  データ生成機能上の書式情報と矛盾が生じる可能性があります。

制限事項/注意事項

TF-LINDAを使用するにあたっての、サーバ側操作に関する注意事項/制限事項を、以下に示します。

作業用ディレクトリ

サーバ側の作業用ディレクトリの容量が不足した場合は、サーバ側機能が性能劣化または、起動不能になります。十分な空き領域を確保してください。概算見積もり方法は、接続クライアント毎の操作するデータ量の合計を目安にしてください。

セッションの通信時間

クライアント側からサーバ側へ接続後、WindowsNT版の場合はサーバ側環境設定ファイルのTIMEで指定した時間、Solaris版とLinux for Itanium版の場合はLINxxx_TIME環境変数で指定した時間（いずれも省略時60分）以上通信が発生しない場合(データの抽出、データの更新等のサーバ側との通信がない場合)サーバ側から自動的に通信を切断します。データ操作中の操作中断(離席)、または大量データの操作時には、設定時間に注意してください。

ロケールについての制限・注意事項

TF-LINDAを使用する際は、各ロケール（文字コード）の設定を下記の表に示すように組み合わせてください。
ロケールが一致しない場合、メッセージの文字化けや接続エラーなどが発生し、正しく動作しません。

DBコード *	LINDAサーバ起動オプション	OSロケール
EUC	なし	EUC
SJIS	-s	SJIS
Unicode	-u	Unicode

*: SymfowareデータベースとOracleデータベースに共通する情報です。

- Solaris版TF-LINDAでは上記に示す表のどの組み合わせでも使用できます。
- WindowsNT版TF-LINDAでは「SJIS / -s / SJIS」または「Unicode / -u / Unicode」の組み合わせで使用できます。
- Linux for Itanium版TF-LINDAでは「Unicode / -u/ Unicode」の組み合わせでのみ使用できます。

制限事項/注意事項

TF-LINDAを使用するにあたっての、印刷および、印刷プレビューに関する制限事項/注意事項を、以下に示します。

印刷全般について

- 扱えるデータ項目数は、最大1,500項目です。
- 一覧形式イメージの印刷のみ可能です。レコード形式イメージの印刷はサポートしていません。
- 抽出していないレコードは、印刷することができません。
- 同一マシン内で複数のTF-LINDAを起動していると、メモリ不足が発生する場合があります。
- プリンタの解像度は、300dpi以上を指定してください。240dpi以下の場合、プレビュー画面のイメージ通りに印刷されない可能性があります。

余白について

- 設定できる値は、上下左右とも、0～50mmです。

フォントについて

- 扱えるフォントサイズは、6～26です。
- 扱えるフォントは、固定ピッチのフォントのみです。(固定ピッチのフォントのみ一覧に表示されています)
- WYSIWYG（表示と印刷時のイメージが同じ）フォント以外のものを指定した場合、プレビュー画面のイメージ通りに印刷されない可能性があります。

行間/データ項目間隔について

行間/データ項目間隔サイズは固定であり、それぞれ次のとおりです。

- 行間　：　フォント文字サイズの4分の1
- データ項目間隔　：　半角2文字の空白

印刷用紙について

以下に示すもの以外の用紙サイズは、「印刷ページ設定プロパティ」内の「用紙サイズ」に「Unknown」が表示されます。ただし印刷は可能です。

- 「Letter (8 1/2 × 11 inc)」
- 「Legal (8 1/2 × 14 inc)」
- 「A4シート (210 × 297 mm)」
- 「A3シート (297 × 420 mm)」
- 「A4 smallシート (210 × 297 mm)」
- 「A5シート (148 × 210 mm)」
- 「B4シート (250 × 354 mm)」
- 「B5シート (182 × 257 mm)」
- 「Cシート (17 × 22 インチ)」
- 「Dシート (22 × 34 インチ)」
- 「Eシート (34 × 44 インチ)」
- 「Letter Small (8 1/2 × 11 インチ)」
- 「Tabloid (11 × 17 インチ)」
- 「Ledger (17 × 11 インチ)」
- 「Statement (5 1/2 × 8 1/2 インチ)」
- 「Exective (7 1/2 × 10 1/2 インチ)」
- 「Folio (8 1/2 × 13 インチ)」
- 「Qurrto (215 × 275 mm)」
- 「10 × 14インチシート」
- 「11 × 17インチシート」
- 「Note (8 1/2 × 11 インチ)」
- 「#9 Envelope (3 7/8 × 8 7/8 インチ)」
- 「#10 Envelope (4 1/8 × 9 1/2 インチ)」
- 「#11 Envelope (4 1/2 × 10 3/8 インチ)」
- 「#12 Envelope (4 3/4 × 11 インチ)」
- 「#14 Envelope (5 × 11 1/2 インチ)」
- 「DL Envelope (110 × 220 mm)」
- 「C5 Envelope (162 × 229 mm)」
- 「C3 Envelope (324 × 458 mm)」
- 「C4 Envelope (229 × 324 mm)」
- 「C6 Envelope (114 × 162 mm)」
- 「C65 Envelope (114 × 229 mm)」
- 「B4 Envelope (250 × 353 mm)」
- 「B5 Envelope (176 × 250 mm)」
- 「B6 Envelope (176 × 125 mm)」
- 「Italy Envelope (110 × 230 mm)」
- 「Monarch Envelope (3 7/8 × 7 1/2 インチ)」
- 「6 3/4 Envelope (3 5/8 × 6 1/2 インチ)」
- 「US Std Fanfold (14 7/8 × 11 インチ)」
- 「German Std Fanfold (8 1/2 × 12 インチ)」
- 「German Legal Fanfold (8 1/2 × 13 インチ)」

ヘッダ/フッタについて

印刷文字列が1ページに収まらない部分は切り捨てられます。

レコード番号について

印刷されるレコード番号は、画面上表示されているものと対応付けられています。そのため削除レコードを印刷対象としない場合、その部分に相当するレコード番号が飛ぶことになります。

文字列のページ引き継ぎについて

印刷する文字列がページ内に収まらない場合、印刷可能なところまで出力し、続きを次ページに印刷します。

また、日本語文字がちょうど良くページに収まらない場合、文字化け防止として、余白（0mm設定時含む）部分にはみ出した形式で１バイト余計に印刷します。それに伴い、次ページの先頭１バイトは空白となります。

プリンタについて

Windowsに対応していないプリンタを使用した場合、プレビュー画面のイメージ通りに印刷されない可能性があります。

TF-LINDAを使用するにあたっての、拡張編集機能の扱いに関する注意事項/制限事項を、以下に示します。

拡張編集機能を使用したデータの編集は、以下の点を認識した上で行ってください。

- 文字型の属性に文字以外のものが格納されることを、データベース側では保証していません。

- NULL（0x00）が混在している場合、NULL以降のデータはレコード形式/一覧形式画面上では表示されません。16進編集にて確認してください。

- 拡張編集機能（16進編集/マルチライン編集/Unicode編集）にて編集を行った後に、通常編集（拡張編集機能を使用せずに）にて編集を行った場合、拡張編集機能にて編集を行ったデータ内容は保証されません。
  ※非文字（NULL、改行コード等）は変換エラーとして表示されます。またNULL（0x00）以降のデータは破棄されます。

- 可変長項目（VC、NV）属性列の有効長について

  - 更新していない列の有効長は変更されません。
  - 通常編集（拡張編集機能以外）から更新した場合、有効長は入力された文字列長となります。
  - 16進編集から更新された場合、有効長は属性長となります。

メッセージについて

発生するメッセージについて説明します。

メッセージは各画面上のメッセージボックスとして出力します。

LINDA製品の実行時に出力されるメッセージの説明をします。

一覧に記載されていないメッセージが表示された場合、以下の処置を行ってみてください。
それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡してください。

- Windows再立ち上げを行い、再度処理を行う。
- 他のアプリケーションが起動されている場合、終了し、再度処理を行う。
- Windowsシステムおよび、LINDAで作業に使用しているドライブに容量不足が無いか確認する。
- 搭載メモリは、十分か確認する。

No.10000 - 19999	No.20000 - 29999	No.40000 - 49999	No.50000 - 59999	No.60000 - 69999	No.70000 - 79999	No.90000 - 99999

※　S　⇒　Symfoware版用のメッセージです。
　　O　⇒　Oracle版用のメッセージです。

No	※	メッセージ	メッセージの意味	利用者の処置
10001		レジストリに環境設定の情報(フォルダ設定・テストケースファイル格納フォルダ)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10002		レジストリに環境設定の情報(フォルダ設定・作業ファイル用フォルダ)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10003		レジストリに環境設定の情報(作業環境・固定長文字型の初期値)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10004		レジストリに環境設定の情報(作業環境・編集モード)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10011		レジストリに環境設定の情報(コード変換情報・ADJUSTを使用する)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10012		レジストリに環境設定の情報(コード変換情報・EUCの場合カナJIS8モード)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10013		レジストリに環境設定の情報(コード変換情報・変換元コード体系)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10015		レジストリに環境設定の情報(コード変換情報・変換元iconvキーワード)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10018		レジストリに環境設定の情報(表示形式・数値列の０サプレス)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10019		レジストリに環境設定の情報(表示形式・一覧形式画面：列の最大表示幅の抑制)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10020		レジストリに環境設定の情報(表示形式・レコード形式画面：列名の表示幅)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10021		レジストリに環境設定の情報(サーバ情報・ホスト名)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10022		レジストリに環境設定の情報(サーバ情報・ポート番号)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10023		レジストリに環境設定の情報(データベース情報・SID)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10024		レジストリに環境設定の情報(データベース情報・エラー時のROLLBACKの方法)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10025		レジストリに環境設定の情報(データベース情報・表ロックのモード)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10026		レジストリに環境設定の情報(転送・通常アクセス時の転送件数)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10027		レジストリに環境設定の情報(データベース情報・データベース名)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10028		レジストリに環境設定の情報(データベース情報・スキーマ名)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10029		レジストリに環境設定の情報(作業環境・拡張編集機能を有効にする)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10030	0	レジストリに環境設定の情報(データベース情報・日付の表示形式)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10032		レジストリに環境設定の情報(コード変換情報・日本語列(UCS2)の16進表示形式)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10033		レジストリに環境設定の情報(転送・分割アクセス時の転送サイズ)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10034		レジストリに環境設定の情報(転送・サーバアクセスモード)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10035		レジストリに環境設定の情報(作業環境・編集時に入力データの全選択を行なう)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10036		レジストリに環境設定の情報(サーバ情報・サーバ側のカレントディレクトリ)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10037		レジストリに環境設定の情報(データベース情報・RDBシステム名)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10038		レジストリに環境設定の情報(コード変換情報・サーバ(OS)の運用コード体系)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10039		レジストリに環境設定の情報(データベース情報・既存レコードの更新モード)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10040		レジストリに環境設定の情報(データベース情報・表ロックのモード)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10041		レジストリに環境設定の情報(表示形式・接続先情報の表示)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10042		レジストリに環境設定の情報(作業環境・列選択時にNOT NULLの列を常に選択状態にする)を保存できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windowsシステムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
10101		指定されたフォルダが存在しないため、保存できませんでした。	指定されたフォルダが存在しないため、保存できませんでした。	指定したフォルダ名が実際に存在するか確認してください。また、LINDAでは、ドライブのルートに保存することはできません。必ずフォルダを作成し、その中へ保存して下さい。

10102		指定されたフォルダに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。	指定されたフォルダに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。	対象フォルダのアクセス権に書き込み許可を与える か、または、書き込み権限をもつ別のフォルダへ保存してください。
10103		指定されたファイルに書き込み権限が無いため、上書き保存できませんでした。	上書き保存を実行しましたが、既存ファイルに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。	対象の既存ファイルのアクセス権に書き込み許可を与えるか、または、別のファイル名で保存してください。

No.	名称		説明
1	固定長文字型の初期値 Symfo	埋め込み文字の初期値	文字（CHARACTER）型データ項目に対して、空き領域がある場合、「空白」か「NULL（0x00）」のどちらで値を埋め込むかを設定します。初期値には、「空白」が設定されています。 各国語文字（NATIONAL CHARACTER）型データ項目に対しては、常に空白が埋め込まれます。
		追加時の初期値	レコード追加時に、初期値として埋め込む文字として、「空白」か「NULL（0x00）」のどちらかを指定します。初期値には、「空白」が設定されています。 ※ 列選択されており、かつNOT NULL属性の列にのみ適用されます。
	初期値に「空白」を設定した場合、文字型の場合は半角空白（1byte）が、各国語文字型の場合は全角空白（2byte）が埋め込まれます。 ※Oracle版では、固定長文字型の初期値は「NULL（0x00）」となります。		
2	編集モードのデフォルト設定	編集モード	データを操作する際の、「テストケース選択」ダイアログボックス内の「編集モード」のデフォルト値を「更新」、「表示」、「追加」の中から選択します。初期値には、「更新」が設定されています。
		編集時に入力データの全選択を行う	編集エディットに移動した時に、入力されている内容を全選択状態にします。

		拡張編集機能を有効にする	拡張編集機能を有効にします。「16進編集」、「マルチライン編集」、「Unicode編集」メニューが選択できるようになります。初期値には、「無効」が設定されています。
		列選択時にNOT NULLの列を常に選択状態にする	「テストケース選択」ダイアログボックスで列選択を行った際にNOT NULLが設定されている列は、ユーザが選択していなくても常に選択状態になります。「テストケース選択」ダイアログボックスにおいてNOT NULLの列が選択されていない既存テストケースファイルをそのまま使用するとエラーとなります。

エラーファイル

エラーファイルのフォーマット

オフセット	設定される内容
1-7	[ステータス] UPDATE, INSERT, DELETE のいずれか。
8-15	[クライアントのレコード番号] クライアント側に表示されているレコードの、先頭からのシーケンス番号。
16-	[エラーメッセージＩＤ＋エラーメッセージ] ＲＤＢから受け取るメッセージの本文。

エラーファイル出力例　(NTSYMF0.ERR)

INSERT	1JYP2243E	日時型データの形式に誤りがあります.
INSERT	11JYP2079E	一意性制約に違反しました.
:		
:		

更新エラーが発生した場合

管理ツールコマンド(Symfoware)

コマンド指定形式

Solaris版、Linux for Itanium版：linsym_mgr -u | -t(s)| -all(s) -f ファイル名

WindowsNT版：LINSYMMG.EXE -u | -t(s)| -all(s) -f ファイル名

パラメタ

パラメタ	意味	出力情報
-u	接続ユーザ一覧を取得する場合に指定する。 -t同時設定可能。-allと同時設定はできない。	接続ユーザ一覧
-t(s)	使用中の表一覧取得する場合に指定する。 -tsが設定された場合はSQL文を出力する。 -uと同時設定可能。-allと同時設定はできない。	使用表一覧
-all(s)	接続ユーザ、使用中表一覧とも取得する場合に指定する。 -allsが設定された場合はSQL文を出力する。 -u、-tと同時指定はできない。	接続ユーザ一覧と使用表一覧
-f ファイル名	出力情報をファイル出力する場合に指定する。このパラメタを設定しない場合は標準出力となる。 -fの後ブランクをおいて情報を出力したいファイル名を設定する。フルパス指定可能（ファイル名のみの場合はツール起動ディレクトリに作成する）。	-

パラメタ設定方法と出力例

※出力例は、製品によってフォーマットが若干異なります。

-u パラメタ：接続ユーザ一覧出力

【コマンド指定方法】

標準出力：-u
ファイル出力：-u -f /tmp/userlst.txt

【出力情報ヘッダ】

出力ヘッダ部	意味
System	システム名
Version	バージョン
Date	管理ツールの実行年月日 時分秒

Connect User	接続ユーザ数
UserID	ユーザID
IPAddress	IPアドレス
ProcessNO	プロセス番号
DBCode	データベースの文字コード
Database	データベース名
RDBSystemName	システム名(設定時のみ出力)

【標準出力例】

```
System       :SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)(64)
Version      :V50L30(50.30.0.0)
Date         :2006/11/09 16:17:28
Connect User :1

USER INFORMATION
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:linda/1x.xxx.xxx.xx/25876
DBCode/Database:UTF8/SIMP_DB
RDBSystemName:system1
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
```

【ファイル出力例】

```
System,SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)(64)
Version,V50L30(50.30.0.0)
Date,2006/11/09 16:18:01
Connect User,1

UserID,IPAddress,ProcessNO,DBCode,Database,RDBSystemName
linda,1x.xxx.xxx.xx,25876,UTF8,SIMP_DB,system1
```

-t パラメタ：使用表一覧出力

【コマンド指定方法】

標準出力：-t(s)
ファイル出力：-t(s) -f /tmp/userlst.txt

【出力情報ヘッダ】

出力ヘッダ部	意味
System	システム名
Version	バージョン
Date	管理ツールの実行年月日 時分秒
Connect User	接続ユーザ数
DataCount	使用(接続)している表数
UserID	ユーザID
IPAddress	IPアドレス
ProcessNO	プロセス番号
AccessType	環境設定画面で指定したアクセスモード 一括取得：Get Data(NORMAL) 分割取得：Get Data(DIVIDE) 一括更新：Update Data(NORMAL) 分割更新：Update Data(DIVIDE) ※分割アクセスの場合でも、実際に複数の分割転送が行われない場合は、一括アクセスの表示となります。
DBCode	データベースの文字コード
Database	データベース名
RDBsystemName	データベースシステム名
ScmName	スキーマ名
TblName	表名
SQL	SQL文

【標準出力例】 -t

```
System       :SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)(64)
Version      :V50L30(50.30.0.0)
Date         :2006/11/09 16:18:39
Connect User :1
Data Count   :1

DATA INFORMATION
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:linda/1x.xxx.xxx.xx/25876
AccessType:Update Data(NORMAL)
DBCode/Database:UTF8/SIMP_DB
RDBSystemName:system1
ScmName:SCM01
TblName:TBL001
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
```

【ファイル出力例】 -ts -f /tmp/userlst.txt

```
System,SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)(64)
Version,V50L30(50.30.0.0)
Date,2006/11/09 16:20:03
Connect User,1
Data Count,1

UserID,IPAddress,ProcessNO,AccessType,DBCode,Database,RDBSystemName,ScmName,TblName
SQL
linda,1x.xxx.xxx.xx,25876,Update Data(NORMAL),UTF8,SIMP_DB,system1,SCM01,TBL001
SELECT DNAME,COL01,COL02,COL03,COL04,COL05,COL06,COL07,COL08,COL09,COL10,COL11,COL12,COL13,
COL14,COL15,COL16,COL20,COL21,COL22 FROM SCM01.TBL001 FOR UPDATE
```

-all パラメタ：接続ユーザ一覧出力と使用表一覧

【コマンド指定方法】

標準出力：all(s)
ファイル出力：-all(s) -f /tmp/userlst.txt

【出力情報ヘッダ】

出力ヘッダ部	意味
System	システム名
Version	バージョン
Date	管理ツールの実行年月日 時分秒
Connect User	接続ユーザ数
DataCount	使用(接続)している表数
UserID	ユーザID
IPAddress	IPアドレス
ProcessNO	プロセス番号
DBCode	データベースの文字コード
Database	データベース名
RDBsystemName	データベースシステム名
UserID	ユーザID
IPAddress	IPアドレス
ProcessNO	プロセス番号

AccessType	環境設定画面で指定したアクセスモード 一括取得：Get Data(NORMAL) 分割取得：Get Data(DIVIDE) 一括更新：Update Data(NORMAL) 分割更新：Update Data(DIVIDE) ※分割アクセスの場合でも、実際に複数の分割転送が行われない場合は、一括アクセスの表示となります。
DBCode	データベースの文字コード
Database	データベース名
RDBSystemName	データベースシステム名
ScmName	スキーマ名
TblName	表名
SQL	SQL文

【標準出力例】 -alls

```
System       :SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)(64)
Version      :V50L30(50.30.0.0)
Date         :2006/11/09 16:20:20
Connect User :1
Data Count   :1

USER INFORMATION
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:linda/1x.xxx.xxx.xx/25876
DBCode/Database:UTF8/SIMP_DB
RDBSystemName:system1
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -

DATA INFORMATION
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:linda/1x.xxx.xxx.xx/25876
AccessType:Update Data(NORMAL)
DBCode/Database:UTF8/SIMP_DB
RDBSystemName:system1
ScmName:SCM01
TblName:TBL001

SQL:
SELECT DNAME,COL01,COL02,COL03,COL04,COL05,COL06,COL07,COL08,COL09,COL10,COL11,
COL12,COL13,COL14,COL15,COL16,COL20,COL21,COL22 FROM SCM01.TBL001 FOR UP
DATE
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
```

【ファイル出力例】 -all -f /tmp/userlst.txt

```
System,SIMPLIA/TF-LINDA(Symfoware)(64)
Version,V50L30(50.30.0.0)
Date,2006/11/09 16:21:49
Connect User,1
Data Count,1

UserID,IPAddress,ProcessNO,DBCode,Database,RDBSystemName
linda,1x.xxx.xxx.xx,25876,UTF8,SIMP_DB,system1

UserID,IPAddress,ProcessNO,AccessType,DBCode,Database,RDBSystemName,ScmName,TblName
linda,1x.xxx.xxx.xx,25876,Update Data(NORMAL),UTF8,SIMP_DB,system1,SCM01,TBL001
```

管理ツールコマンド(Oracle)

コマンド指定形式

Solaris版、Linux for Itanium版：linora_mgr -u | -t(s)| -all(s) -f ファイル名

WindowsNT版：LINORAMG.EXE -u | -t(s)| -all(s) -f ファイル名

パラメタ

パラメタ	意味	出力情報
-u	接続ユーザ一覧を取得する場合に指定する。 -t同時設定可能。-allと同時設定はできない。	接続ユーザ一覧
-t(s)	使用中の表一覧取得する場合に指定する。 -tsが設定された場合はSQL文を出力する。 -uと同時設定可能。-allと同時設定はできない。	使用表一覧
-all(s)	接続ユーザ、使用中表一覧とも取得する場合に指定する。 -allsが設定された場合はSQL文を出力する。 -u、-tと同時指定はできない。	接続ユーザ一覧と使用表一覧
-f ファイル名	出力情報をファイル出力する場合に指定する。このパラメタを設定しない場合は標準出力となる。 -fの後ブランクをおいて情報を出力したいファイル名を設定する。フルパス指定可能（ファイル名のみの場合はツール起動ディレクトリに作成する）。	-

パラメタ設定方法と出力例

-u パラメタ：接続ユーザ一覧出力

【コマンド指定方法】

標準出力：-u
ファイル出力：-u -f /tmp/userlst.txt

【出力情報ヘッダ】

出力ヘッダ部	意味

System	システム名
Version	バージョン
Date	管理ツールの実行年月日 時分秒
Connect User	接続ユーザ数
UserID	ユーザID
IPAddress	IPアドレス
ProcessNO	プロセス番号
DBCode	データベースの文字コード
SID	SID名

【標準出力例】

```
System       :SIMPLIA/TF-LINDA(Oracle 64-bit Edition)
Version      :V50L30(50.30.0.0)
Date         :2006/11/09 16:52:28
Connect User :3

USER INFORMATION
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:LINDA/1x.xxx.xxx.xx/31771
DBCode/SID:UTF8/orcl
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:LINDA/1x.xxx.xxx.xx/29622
DBCode/SID:UTF8/orcl
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:LINDA/1x.xxx.xxx.x/31034
DBCode/SID:UTF8/orcl
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
```

【ファイル出力例】

```
System,SIMPLIA/TF-LINDA(Oracle 64-bit Edition)
Version,V50L30(50.30.0.0)
Date,2006/11/09 16:46:03
Connect User,4

UserID,IPAddress,ProcessNO,DBCode,SID
LINDA,1x.xxx.xxx.xx,31771,UTF8,orcl
LINDA,1x.xxx.xxx.xx,29622,UTF8,orcl
LINDA,1x.xxx.xxx.x,31034,UTF8,orcl
LINDA,1x.xxx.xxx.xx,32043,UTF8,orcl
```

-t パラメタ：使用表一覧出力

【コマンド指定方法】

標準出力：-t(s)
ファイル出力：-t(s) -f /tmp/userlst.txt

【出力情報ヘッダ】

出力ヘッダ部	意味
System	システム名
Version	バージョン
Date	管理ツールの実行年月日 時分秒
Connect User	接続ユーザ数
DataCount	使用(接続)している表数
UserID	ユーザID
IPAddress	IPアドレス
ProcessNO	プロセス番号
AccessType	環境設定画面で指定したアクセスモード 一括取得：Get Data(NORMAL) 分割取得：Get Data(DIVIDE) 一括更新：Update Data(NORMAL) 分割更新：Update Data(DIVIDE) ※分割アクセスの場合でも、実際に複数の分割転送が行われない場合は、一括アクセスの表示となります。

DBCode	データベースの文字コード
SID	SID名
ScmName	スキーマ名
TblName	表名
SQL	SQL文

【標準出力例】 -ts

```
System       :SIMPLIA/TF-LINDA(Oracle 64-bit Edition)
Version      :V50L30(50.30.0.0)
Date         :2006/11/09 16:52:57
Connect User :3
Data Count   :1

DATA INFORMATION
- - - -
```

```
System,SIMPLIA/TF-LINDA(Oracle 64-bit Edition)
Version,V50L30(50.30.0.0)
Date,2006/11/09 16:48:40
Connect User,4
Data Count,3

UserID,IPAddress,ProcessNO,AccessType,DBCode,SID,ScmName,TblName
LINDA,1x.xxx.xxx.xx,31771,Update Data(NORMAL),AL32UTF8,orcl,SCM01,TBL001
LINDA,1x.xxx.xxx.x,31034,Update Data(NORMAL),AL32UTF8,orcl,SCM01,TBL002
LINDA,1x.xxx.xxx.xx,32511,Update Data(NORMAL),AL32UTF8,orcl,SCM01,TBL003
```

-all パラメタ：接続ユーザ一覧出力と使用表一覧

【コマンド指定方法】

標準出力：all(s)
ファイル出力：-all(s) -f /tmp/userlst.txt

【出力情報ヘッダ】

出力ヘッダ部	意味
System	システム名
Version	バージョン
Date	管理ツールの実行年月日 時分秒
Connect User	接続ユーザ数
DataCount	使用(接続)している表数
UserID	ユーザID
IPAddress	IPアドレス
ProcessNO	プロセス番号
DBCode	データベースの文字コード
SID	SID名
UserID	ユーザID
IPAddress	IPアドレス
ProcessNO	プロセス番号

AccessType	環境設定画面で指定したアクセスモード 一括取得：Get Data(NORMAL) 分割取得：Get Data(DIVIDE) 一括更新：Update Data(NORMAL) 分割更新：Update Data(DIVIDE) ※分割アクセスの場合でも、実際に複数の分割転送が行われない場合は、一括アクセスの表示となります。
DBCode	データベースの文字コード
SID	SID名
ScmName	スキーマ名
TblName	表名
SQL	SQL文

【標準出力例】 -all

```
System       :SIMPLIA/TF-LINDA(Oracle 64-bit Edition)
Version      :V50L30(50.30.0.0)
Date         :2006/11/09 16:53:21
Connect User :3
Data Count   :1

USER INFORMATION
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:LINDA/1x.xxx.xxx.xx/31771
DBCode/SID:UTF8/orcl
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:LINDA/1x.xxx.xxx.xx/29622
DBCode/SID:UTF8/orcl
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:日本語ユーザ/1x.xxx.xxx.x/32748
DBCode/SID:UTF8/orcl
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -

DATA INFORMATION
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
UserID/IPAddress/ProcessNO:LINDA/1x.xxx.xxx.xx/31771
AccessType:Update Data(NORMAL)
DBCode/SID:AL32UTF8/orcl
ScmName:SCM01
TblName:TBL001
- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
```

【ファイル出力例】 -alls -f /tmp/userlst.txt

```
System,SIMPLIA/TF-LINDA(Oracle 64-bit Edition)
Version,V50L30(50.30.0.0)
Date,2006/11/09 16:49:33
Connect User,3
Data Count,2

UserID,IPAddress,ProcessNO,DBCode,SID
LINDA,1x.xxx.xxx.xx,31771,UTF8,orcl
LINDA,1x.xxx.xxx.xx,29622,UTF8,orcl
LINDA,1x.xxx.xxx.x,31034,UTF8,orcl

UserID,IPAddress,ProcessNO,AccessType,DBCode,SID,ScmName,TblName
SQL
LINDA,1x.xxx.xxx.xx,31771,Update Data(NORMAL),AL32UTF8,orcl,SCM01,TBL001
SELECT ROWID,COL01,COL02,COL03,COL04,COL05,COL06,COL07,TO_CHAR(COL13,'yyyy/mm/
dd')
COL13 FROM SCM01.TBL001 FOR UPDATE NOWAIT
LINDA,1x.xxx.xxx.x,31034,Update Data(NORMAL),AL32UTF8,orcl,SCM01,TBL002
SELECT ROWID,COL01,COL02,COL03,COL04 FROM SCM01.TBL002 FOR UPDATE NOWAIT
```

Symfo

No.	名称	説明
1	データベース名	使用するデータベース名を指定します。設定は、次回データベースログイン時より有効になります。
2	スキーマ名	使用するスキーマ名を指定します。
3	RDBシステム名	RDBシステム名を指定します。
4	高度な設定	Symfoware V7以降の接続に関する設定を行います。 サーバに接続されていない場合に設定可能です。
5	エラー時のROLLBACKの方法	エラー発生時のROLLBACKの方法を指定します。 ● 全てROLLBACK 正常に更新された行、エラーになった行、全てを無効にし、再度、編集画面に戻ります。 ● エラーレコードのみROLLBACK（初期値） 正常に更新された行は保存し、エラーになった行は無効にします。
6	プライマリキーを更新しない	プライマリーキーの更新を行えないようにします。 DSI分割表に対して行ロック指定が行われている場合、データベースの仕様により、プライマリーキーの更新が行えません。この場合TF-LINDAから該当の表を更新するために、この指定を有効にします。 ※指定が有効になっている場合、画面上プライマリキーの変更が行えますが、入力チェックでエラーとなります。この場合、[ESC]キーで変更をキャンセルできます。

7	選択行へのロックを行う	操作対象の表の排他方法を設定します。このオプションは、更新モードでデータを開く場合にだけ有効です。 選択すると、抽出対象のデータが行単位で占有ロックされます。 選択を解除すると、データはデータベースの設定に従って占有ロックされます。 データベースの設定によっては抽出対象以外のデータも同時に占有ロックされることがありますので注意してください（ページ単位のロックなど）。

ORACLE

No.	名称	説明
1	SID	TF-LINDAが使用するデータベース識別子の設定を行います。
2	エラー時のROLLBACKの方法	エラー発生時のROLLBACKの方法を指定します。 ● 全てROLLBACK 正常に更新された行、エラーになった行、全てを無効にし、再度、編集画面に戻ります。 ● エラーレコードのみROLLBACK（初期値） 正常に更新された行は保存し、エラーになった行は無効にします。
3	表ロックのモード	操作する表の排他方法を指定します。 ● 「表全体へのロック」（初期値） 排他表ロックになります。 ● 「表の選択行へのロック」 行排他表ロックになります。
4	日付の表示形式	DATE型項目の表示を指定します。 （初期値：「日付のみ表示」）

データベース名、スキーマ名、SIDの情報は履歴として5つまで保存されます。リストから履歴情報を選択し切り替えることが可能です。

サーバ情報	データベース情報	転送	フォルダ設定	作業環境	コード変換情報	表示形式

No.	名称	説明
1	アクセスモード	サーバとのデータの通信方法を指定します。 ● 通常アクセス 抽出条件にヒットしたデータを、一度にクライアントへ転送します。 抽出件数が多い場合には、転送に時間を要します。 ● 分割アクセス 抽出条件にヒットしたデータを、指定されたサイズ分だけ、クライアントへ転送します。 抽出件数が多い場合に、転送時間を短縮できます。 ただし、まだ転送されていないデータへアクセスを行った場合に、その都度、サーバからの転送処理が発生します。
2	転送時の最大件数	通常アクセス時の転送最大件数を指定します。指定の件数を超えるデータは、クライアントへ転送されず編集作業も行えません。
3	分割転送サイズ	分割アクセス時の、一度に転送するサイズを指定します。指定のサイズを超えるデータがある場合は、そのデータへアクセスが行われたタイミングで転送処理が行われます。

サーバ情報	データベース情報	転送	フォルダ設定	作業環境	コード変換情報	表示形式

No.	名称	説明
1	テストケースファイルを保存するフォルダ	LINDAで作成したテストケースファイルを保存するための、作業フォルダ名を設定します。ルートフォルダは、指定できません。
2	LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ	LINDAが使用するワークファイルを作成するための、作業フォルダ名を設定します。ルートフォルダは、指定できません。

No.	名称	説明
1	コード変換仕様	このオプションは、TF-LINDAをインストールしたコンピュータに外字管理ソフトウェア「Interstage Charset Manager」（ADJUSTは同製品の旧名称）がインストールされている場合にだけ有効です。TF-LINDAの画面にデータを表示する際のコード変換処理をInterstage Charset Managerで行うか、またはTF-LINDAで行うかを指定します。 ● ADJUSTを使用する 選択すると、Interstage Charset Managerによるコード変換処理が行われます。 ● iconv変換のキーワード 「ADJUSTを使用する」が指定された場合にだけ有効です。各コード体系ごとにInterstage Charset Managerのキーワードの設定を行います。 設定できるキーワードは以下のとおりです。 EUC：S90/U90 シフトJIS：sjisdos/sjisms/sjis Linux for Itanium版のTF-LINDAをご利用の場合は"EUC"に対する指定は無効です。 ● EUCの場合カナJIS8モード 対象のデータベースがEUCコードの場合、カナコードを「JIS8」として扱うときに選択します。
2	NCHARがUnicode時の詳細設定	レコード形式画面または一覧形式画面の16進編集バー（または、16進編集ダイアログボックス）において、日本語列（UCS2,UTF16）の16進表示形式をビッグエンディアンで行うかリトルエンディアンで行うかを指定します。

サーバ情報	データベース情報	転送	フォルダ設定	作業環境	コード変換情報	表示形式

No.	名称	説明
1	列の最大表示幅	一覧形式画面での最大表示幅の設定を行います。「0」を指定した場合は、各属性にあわせた表示幅となります。初期値には、「0」が設定されています。
2	列名の表示幅	レコード形式画面での列名の表示幅の設定を行います。「0」を指定した場合は、最大幅になります。初期値には、「0」が設定されています。
3	接続先サーバ情報の表示	タイトルバーにデータベース情報（ホスト名-DB名）を表示させることができます。初期値には、「無効」が設定されています。

画面説明 - 印刷ページ設定

名称	説明
プリンタ名	印刷するプリンタ名が表示されます。
プリンタの設定	印刷するプリンタ名を変更したい場合に押下します。
フォントの変更	印刷する文字列のフォントを指定します。初期値には、「MS ゴシックの9ポイント」が設定されています。
用紙サイズ	印刷する用紙サイズを表示します。
印刷の向き	プリンタの設定で、指定した印刷の向きが表示されます。

TF-LINDAの設定 | ページ | 余白 | ヘッダ／フッタ

名称	説明
上	上部の余白サイズをmm単位で指定します。初期値には、「25mm」が設定されています。
下	下部の余白サイズをmm単位で指定します。初期値には、「20mm」が設定されています。
左	左部の余白サイズをmm単位で指定します。初期値には、「10mm」が設定されています。
右	右部の余白サイズをmm単位で指定します。初期値には、「10mm」が設定されています。

TF-LINDAの設定 | ページ | 余白 | ヘッダ／フッタ

名称	説明
ヘッダ情報	
表名	編集中の表名をヘッダに印刷するかを指定します。初期値には、「する」が設定されています。
指定文字列	ヘッダに指定文字列を印刷するかを指定します。印刷したい文字列がある場合、ここで入力します。初期値には、「しない」が設定されています。
印刷日付	ヘッダに印刷日付を印刷するかを指定します。初期値には、「する」が設定されています。
印刷時間	ヘッダに印刷時間を印刷するかを指定します。初期値には、「する」が設定されています。
フッタ情報	
ページ番号	フッタにページ番号を印刷するかを指定します。初期値には、「する」が設定されています。
コード情報	フッタにコード情報を印刷するかを指定します。初期値には、「する」が設定されています。

書式の形式

書式は、可変部と固定部により構成されます。可変部のみ、固定部のみの指定でも構いません。また、指定順に制限はありません。

<table>
<tr><td rowspan="7">可変部</td><td colspan="3">文字「%」（パーセント）で始まり、「桁数」、「書式文字」の順で指定します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">指定例）%9D</td></tr>
<tr><td>桁数</td><td colspan="2">データ項目属性の範囲内で指定可能です。可変部を複数指定した場合、合計の桁数がデータ項目属性の範囲内になるように設定する必要があります。（固定部を含む場合、その桁数も考慮する必要があります。）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">書式文字</td><td>D</td><td>符号付き数値。

値の取り得る範囲は、-9～+9です。
可変桁数は18桁まで指定可能です。

指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）・数字型（外部10進項目など）です。</td></tr>
<tr><td>U</td><td>符号無し数値。

値の取り得る範囲は、0～9です。
可変桁数は18桁まで指定可能です。

指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）・符号無し数字型（外部10進項目など）です。</td></tr>
<tr><td>s</td><td>半角英小文字。

値の取り得る範囲は、a～zです。増分方法は、文字列全体に対して増分値を加算した形式で行います。
可変桁数は５桁まで指定可能です。

指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。</td></tr>
<tr><td>S</td><td>半角英大文字。

値の取り得る範囲は、A～Zです。増分方法は、文字列全体に対して増分値を加算した形式で行います。
可変桁数は５桁まで指定可能です。

指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。</td></tr>
</table>

N	全角文字。 値の取り得る範囲は、JIS非漢字/第一水準/第二水準です。 増分方法は、それぞれの桁に対して増分値を加算した形式で行います。 可変桁数は64桁まで指定可能です。 指定可能な項目属性は、日本語型（日本語項目など）です。
YMD	日付（エラーなし）。 値の取り得る範囲は、実際に存在する日付です。 「19700101」～「20380119」の範囲で指定します。 可変桁数は4桁又は2桁の指定が可能です。 指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）、DATE型です。 ただし、DATE型は、可変桁数を4桁で指定してください。
YMA	日付（エラーあり）。 値の取り得る範囲は、実際に存在しない日付を含みます。 「00010101」～「99991231」の範囲で指定します。 （全月、31日まで）可変桁数は4桁又は2桁の指定が可能です。 指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）、DATE型です。 ただし、DATE型において可変桁数を2桁にした場合、先頭に「00」が付加されます。
T	時間 時分秒を含むデータです。 「000000（0時0分0秒）」～「235959（23時59分59秒）」の範囲で指定します。 可変桁数を指定することはできません。 指定可能な項目属性は、時間型および文字型です。

		TS	日付＋時間 年月日および時分秒を含むデータです。 「19700101 090000（1970年1月1日9時00分00秒）」～ 「20380119 031407（2038年1月19日3時14分7秒）」の範囲で指定します。 可変桁数を指定することはできません。 指定可能な項目属性は、日時型および文字型です。
固定部	文字「’」（シングルクォート）で文字列の最初と最後を囲います。		
	指定例）’9999’		

設定例

●書式：D（符号付き数値）

書式「D」の使用例を以下に示します。
例１） NU(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「101」～「200」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式　%5D
開始値　+00101（101でも可）
終了値　+00200（200でも可）
増分値　1
処理件数　100

例2） NU(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「50」～「-49」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式　%5D
開始値　+00050（50でも可）
終了値　-00049（-49でも可）
増分値　-1
処理件数　100

●書式：U（符号無し数値）

書式「U」の使用例を以下に示します。
例１） NU(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「101」～「200」の値

をもつレコード100件を生成したい場合

書式　　%5U
開始値　　00101(101でも可)
終了値　　00200(200でも可)
増分値　　1
処理件数　100

例2)　CH(10)で定義されている項目に対して、それぞれ「ABCDE00001」～「ABCDE00100」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式　　'ABCDE'%5U
開始値　　00001(1でも可)
終了値　　00100(100でも可)
増分値　　1
処理件数　100

●書式：s（半角英小文字）

書式「s」の使用例を以下に示します。
例１）　CH(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「aaaaa」～「aaadv」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式　　%5s
開始値　　aaaaa
終了値　　aaadv
増分値　　1
処理件数　100

例2)　CH(10)で定義されている項目に対して、それぞれ「aaaaa10cc」～「aaadv10fx」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式　　%5s'10'%2s
開始値　　aaaaa,cc
終了値　　aaadv,zz
増分値　　1
処理件数　100

●書式：S（半角英大文字）

書式「S」の使用例を以下に示します。
例１）　CH(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「ZZZZZ」～「ZZZWE」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5S
開始値	ZZZZZ
終了値	ZZZWE
増分値	-1
処理件数	100

例2）　CH(10)で定義されている項目に対して、それぞれ「AAAAAAAA番」～「AAADVADV番」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5S%3S’番’
開始値	AAAAA,AAA
終了値	AAADV,ADV
増分値	1
処理件数	100

●書式：N（全角文字）

書式「N」の使用例を以下に示します。
例１）　NC(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「ああああ」～「んんんんん」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5N
開始値	ああああ
終了値	んんんんん
増分値	1
処理件数	100

例2）　NC(10)で定義されている項目に対して、それぞれ「日本語項目１００００」～「日本語項目でででで」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	’日本語項目’%5N
開始値	１００００
終了値	でででで
増分値	1
処理件数	100

●書式：YMD（日付：エラーなし）

書式「YMD」の使用例を以下に示します。
例１）　CH(8)で定義されている項目に対して、それぞれ「20000101」～「20000410」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%4YMD
開始値	20000101
終了値	20000410
増分値	1
処理件数	100

例2）　CH(6)で定義されている項目に対して、それぞれ「000101」～「000410」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%2YMD
開始値	000101
終了値	000410
増分値	1
処理件数	100

●書式：YMA（日付：エラーあり）

書式「YMA」の使用例を以下に示します。
例１）　CH(8)で定義されている項目に対して、それぞれ「20000101」～「20000407」の値（途中エラーの値含む）をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%4YMA
開始値	20000101
終了値	20000407
増分値	1
処理件数	100

例2）　CH(6)で定義されている項目に対して、それぞれ「990701」～「991007」の値（途中エラーの値含む）をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%2YMD
開始値	990701

終了値　　991007
増分値　　1
処理件数　100

●書式：T（時間）

書式「T」の使用例を以下に示します。
例１）　TI で定義されている項目に対して、それぞれ「100001」～「100140」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式　　%T
開始値　　100001
終了値　　100140
増分値　　1
処理件数　100

例2）　CH(6)で定義されている項目に対して、それぞれ「100001」～「100140」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式　　%T
開始値　　100001
終了値　　100140
増分値　　1
処理件数　100

●書式：TS（日付＋時間）

書式「TS」の使用例を以下に示します。
例１）　TS(8)で定義されている項目に対して、それぞれ「20000101 100001」～「20000407 100140」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式　　%TS
開始値　　20000101 100001
終了値　　20000407 100140
増分値　　1
処理件数　100

№10000 － 19999	№20000 － 29999	№40000 － 49999	№50000 － 59999	№60000 － 69999	№70000 － 79999	№90000 － 99999

※　S　⇒　Symfoware版用のメッセージです。
　　O　⇒　Oracle版用のメッセージです。

No	※	メッセージ	メッセージの意味	利用者の処置
20001		メモリ領域の取得に失敗しました。	LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。	他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows再起動後、再度同じ処理を行って下さい。
20002		レコード位置に範囲外の値が指定されたため、レコードの検索に失敗しました。	存在するレコード数より、大きな値が指定されました。	存在するレコード総数以下の値、または、「0」を指定して下さい。

20003		レコード位置に範囲外の値が指定されたため、レコード複写できませんでした。	存在するレコード数より、大きな値が指定されました。	存在するレコード総数以下の値、または、「0」を指定して下さい。
20004		レコードの削除に失敗しました。	レコード削除の処理中にエラーが発生しました。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
20005		レコードの復元に失敗しました。	レコード復元の処理中にエラーが発生しました。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

20006		レコードの更新に失敗しました。	レコード更新の処理中にエラーが発生しました。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
20007		レコードのデータを検出できませんでした。データが壊れている可能性があります。処理を終了しメインウィンドウから再開してください。	何らかの原因でデータとメモリ情報に矛盾が発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
20008		内部ファイルのアクセスでエラーが発生しました。データが壊れている可能性があります。処理を終了しメインウィンドウから再開してください。	何らかの原因でデータとメモリ情報に矛盾が発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
20009		作業フォルダのディスク空き容量が不足しています。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したドライブのディスク空き容量が不足しています。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度

				処理して下さい。
20010		コントロールの作成に失敗しました。	メモリ不足のため、コントロールの作成に失敗しました。	Windows再立ち上げを行い、再度処理を行って下さい。
20011		選択されたフォントのサイズは大きすぎます。選択をやり直してください。	指定したフォントサイズは、LINDAでは扱えません。	フォントサイズには、6～26の範囲内で指定して下さい。
20012		内部処理でエラーが発生しました。	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
20013		このレコードデータを更新前に戻します。更新されたデータは破棄されますがよろしいですか？	現在表示しているレコードを更新前のデータに戻します。その際に編集した内容は破棄されますが、よろしいですか？	－
20014		データが更新されています。保存しますか？	データが更新されています。保存しますか？	－
20015		先頭レコードです。	現在表示しているレコードが先頭レコードです。	－
20016		最終レコードです。	現在表示しているレコードが最終レコードです。	－
20017		コントロールの破棄に失敗しました。	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

20018		レコード操作のやり直しに失敗しました。	レコードのやり直し処理中にエラーが発生しました。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
20019		PRIMARY KEY です。	画面上のカーソルが指定されている項目がPRIMARY KEY です。	―
20020		UNIQUE KEY です。	画面上のカーソルが指定されている項目がUNIQUE KEY です。	―
20021		扱えないデータ型の列です。	指定した項目はLINDAでは未サポートとなっている属性のため、変更できません。	―
20022		内部で発行するSQL文の長さが制限を越えました。選択列または条件を減らしてください。	条件設定で設定する条件式の長さが制限値（63バイト）を超えました。	選択列または条件を減らしてください。
20023		この列は必ず値を入力してください。	この項目は、NOT NULL属性項目です。必ず値を入力する必要があります。	値を入力してください。
20024		選択されたフォントのサイズは小さすぎます。選択をやり直してください。	指定したフォントサイズは、LINDAでは扱えません。	フォントサイズには、6～26の範囲内で指定して下さい。
20025		TF-LINDAは既に起動しています。	―	―

20026		TF-LINDAで扱うことのできるレコード数(10万件)を超えました。件数を設定し直してください。	編集可能なレコード数の制限（10万件）を超えました。	テストケース選択ダイアログボックスの抽出条件で編集レコードを絞り込むか、追加モードで編集して下さい。
20027		エラー再表示に失敗しました。	エラー再表示画面の表示に失敗しました。	通信が接続されているか確認した後、再度同じ処理を行って下さい。
20028		この列は16進編集では編集できません。	この項目属性は、16進編集を行うことはできません。（制限／仕様）	ー
20029		抽出データと列のデータの長さが一致していません。データの表示ができませんでした。	抽出データ上のレコード長と、指定された表の定義情報から計算されたレコード長が一致していません。そのため表示ができません。	環境設定で指定されたDBのコード体系が正しいか確認してください。
20030		この列はマルチライン編集では編集できません。	マルチライン編集が可能な列は、CHARもしくはVARCHARです。	ー

20031	S	環境設定より既存レコードのプライマリキーの更新は制限されています。	環境設定の「既存レコードの更新モード」で「プライマリキーを更新しない」がチェックされています。	既存レコードのプライマリキーの更新を行う場合は、環境設定のデータベース情報の既存レコードの更新モードを変更してください。
20032		データのサイズが大きいため、全てのデータを保存することができません。追加または複写したレコードを削除してください。	追加または複写されたレコードが多く、サーバへ全保存レコードを転送することができません。	追加または複写したレコードを削除して、保存レコードを減らしてください。
20044		データを生成するための書式が指定されていません。データは自動生成されませんがよろしいですか？	データ生成の書式ファイルがない状態で、「項目の値を自動生成する」を選択しレコード操作を行なおうとしました。	「項目の値を自動生成する」のチェックを外すか、「詳細」ボタンを押してデータ生成ダイアログで書式を設定した後、レコード操作を行なってください。

20045		データの生成に失敗しました。	データファイルがないためデータ生成に失敗しました。	ディスク容量を確認してください。空き容量を増やした後、再試行してください。
20046		データの生成でエラーが発生しました。エラーファイルを参照しますか？	データ生成で何らかのエラーが発生しました。	エラーの内容を確認する場合は、「はい」を選択してください。
20047		生成されたデータの取り込みに失敗しました。	自動生成されたデータの取り込みに失敗しました。	データ生成ダイアログで書式を設定し直して再試行してください。
20048		生成されたデータの取り込みでエラーとなるデータがありました。エラーファイルを参照しますか？	データ生成の結果をレコード形式画面に反映する際に、変換エラーが発生しました。	変換エラーを確認する場合は、「はい」を選択してください。
20049		データを生成する項目の情報を取得できませんでした。データは自動生成されません。	データ生成ダイアログに渡す項目情報ファイルの作成に失敗しました。	ディスク容量を確認してください。空き容量を増やした後、再試行してください。

20050		データを生成できる項目がありません。	指定された表にはデータを生成できる列 が存在しません。	選択された表の属性に属性の項目が含まれない場合に出力されます。
20051		生成されたデータの取り込みでエラーを出力するファイルの作成に失敗しました。エラー内容は出力されません。	自動生成されたデータの取り込み時に発生した変換エラーを格納するファイルの作成に失敗しました。	ディスク容量を確認してください。空き容量を増やした後、再試行してください。
20091	S	この列はUnicode編集では編集できません。	Unicode編集が可能な列は、CHAR、VARCHAR、NCHAR、NVARCHARです。	ー

№10000 － 19999	№20000 － 29999	№40000 － 49999	№50000 － 59999	№60000 － 69999	№70000 － 79999	№90000 － 99999

※　S　⇒　Symfoware版用のメッセージです。
　　O　⇒　Oracle版用のメッセージです。

No	※	メッセージ	メッセージの意味	利用者の処置
41001		サーバとは既に接続されています。	サーバとは既に接続されています。	ー
41002		ホスト名が設定されていません。環境設定でホスト名を設定してください。	接続先のホスト名が設定されていません。	環境設定のサーバ情報にて、「ホスト名」を設定して下さい。
41003		ポート番号が設定されていません。環境設定でポート番号を設定してください。	接続先のポート番号が設定されていません。	環境設定のサーバ情報にて、「ポート番号」を設定して下さい。
41004	O	SIDが設定されていません。環境設定でSIDを設定してください。	SIDが設定されていません。	環境設定のデータベース情報にて、「SID」を設定して下さい。
41004	S	データベース名が設定されていません。環境設定でデータベース名を設定してください。	データベース名が設定されていません。	環境設定のデータベース情報にて、「データベース名」を設定して下さい。
41005		ユーザIDが設定されていません。ユーザIDを設定してください。	ユーザＩＤが設定されていません。	ユーザＩＤを設定してください。
41006		パスワードが設定されていません。パスワードを設定してください。	パスワードが設定されていません。	パスワードを設定してください。
41007		サーバとの接続に失敗しました。	サーバ側プログラムが動作していません。	サーバ側プログラムを起動し、再度「サーバへの接続」処理を行って下さい。
41008	S	スキーマ名が設定されていません。環境設定でスキーマ名を設定してください。	スキーマ名が設定されていません。	環境設定のデータベース情報にて、「スキーマ名」を設定して下さい。

41010		TF-LINDAではサポートされていないコード系でDBが作成されています。	通知メッセージ：取得したＤＢコードがLINDAのサポート外のコードで作成されています。	ー
41050		サーバとの通信を切断します。	サーバとの接続を解除し、通信を切断します。	ー
41100		広域領域の取得に失敗しました。	LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。	他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows再起動後、再度同じ処理を行って下さい。
42001		サーバに接続されていません。通信の接続を行ってください。	サーバに接続されていません。	メニューまたはツールバーより、サーバへの接続を行って下さい。
42002		スキーマ名が設定されていません。スキーマ名を設定してください。	スキーマ名が設定されていません。	スキーマ名を設定して下さい。
42003		スキーマ名に¥を含んだ文字が設定されました。¥を含む文字を変更してください。	スキーマ名には、「¥」文字は設定できません。	「¥」を含む文字を修正してください。
42004		表名が設定されていません。表名を設定してください。	表名が設定されていません。	表名を設定して下さい。
42005		表名に¥を含んだ文字が設定されました。¥を含む文字を変更してください。	表名には、「¥」文字は設定できません。	「¥」を含む文字を修正してください。
42006		指定されたテストケースファイルは、属性に問題があります	指定されたテストケースファイルに、隠しファイル、システムファイル、ボリュームファイル、ディレクトリの属性が設定されています。	ー指定のフォルダが,読み込み専用になっていないか確認して下さい。 - 環境設定の「フォルダ設定」を確認して下さい。
42007		指定されたテストケースファイルは、0バイトのファイルです。テストケースファイルを削除してください。	指定されたテストケースファイルは、何らかの異常により正常に作成されなかったものです。	エクスプローラ等から、テストケースファイルを削除してください。

42008		指定されたテストケースファイルは、読み込み専用です。ファイルの属性を変更してください。	指定されたテストケースファイルは、読み込み専用の属性に設定されています。	対象のテストケースファイルに、書き込み権限を与えてください。
42009		テストケースファイルが存在しません。「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。	対象表の、テストケースファイルが存在しません。	「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。 対象表の、テストケースファイルは既に存在しますが、再作成してよろしいですか？ 既に存在するテストケースファイルを使用する場合は、「表の最新定義情報を取得する」のチェックをはずして下さい。表定義変更等を行った場合は、再作成を行って下さい。
42010		テストケースファイルは再作成されます。よろしいですか？	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42011		表情報のファイルからの展開に失敗しました。	テストケースファイルが正しいフォーマットで作成されていません。	テストケースファイルが壊れている可能性があります。テストケースファイルを削除して、再作成を行って下さい。
42012		テストケースファイルの展開に失敗しました。	何らかの原因でテストケースファイルの展開に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42013		定義情報の更新年月日の比較時に、更新年月日のコード変換に失敗しました。	何らかの原因で内部処理のコード変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42014		表の定義が変更されています。処理を続けるには「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。	表の定義が変更されているため、テストケースファイルの再作成が必要です。	処理を続けるには「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。
42015		送信ファイル作成時に、ID名のコード変換に失敗しました。	何らかの原因で内部処理のコード変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

42016		送信ファイル作成時に、パスワードのコード変換に失敗しました。	何らかの原因で内部処理のコード変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42017		送信ファイル作成時に、データベース名のコード変換に失敗しました。	何らかの原因で内部処理のコード変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42018		送信ファイル作成時に、スキーマ名のコード変換に失敗しました。	何らかの原因で内部処理のコード変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42019		送信ファイル作成時に、表名のコード変換に失敗しました。	何らかの原因で内部処理のコード変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42020		定義情報を取得するためのファイルの作成に失敗しました。	何らかの原因で内部処理のファイルの作成に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42021		サーバからの情報の取得に失敗しました。	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42022		テストケース格納フォルダが存在しないかアクセス権限が設定されていません。 環境設定でテストケース格納フォルダを設定してください。	テストケース格納フォルダが存在しないかアクセス権限が設定されていません。	フォルダが存在しない場合は環境設定でテストケース格納フォルダを設定してください。 アクセス権限がないフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
42023		作業ファイル用フォルダが存在しないかアクセス権限が設定されていません。 環境設定で作業ファイル用フォルダを設定してください。	作業ファイル用フォルダが存在しないかアクセス権限が設定されていません。	フォルダが存在しない場合は環境設定で作業ファイル用フォルダを設定してください。 アクセス権限がないフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
42025		作業ファイル用フォルダが長すぎて作業ファイルを作成できません。環境設定で作業ファイル用フォルダを設定してください。	指定したフォルダパス名がLINDAで扱える長さを超えました。	フォルダ名を短くして下さい。

42026		サーバからの情報の取得に失敗しました。通信を切断してから処理を行ってください。	何らかの原因により、作業ファイルが削除されました。	通信を切断してから、処理をやりなおしてください。それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
42027		データのコード体系が変更されています。処理を続けるには表の最新定義情報を取得してください。	環境設定の「扱うデータのコード体系」の設定が変更されているため、テストケースファイルの再作成が必要です。	処理を続けるには「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。
42028		EUC･カナJIS8モードが変更されています。処理を続けるには表の最新定義情報を取得してください。	環境設定の「扱うデータのコード体系」の設定が変更されているため、テストケースファイルの再作成が必要です。	処理を続けるには「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。
42029		テストケースファイル格納フォルダが読み込み専用として設定されています。フォルダに書き込み権を与えて処理を行ってください。	環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダです。	書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。
42030		表の最新定義情報の取得を行うと、データ生成の書式情報が削除されます。このまま続行しますか？	指定された表に対応した、データ生成の書式情報ファイルの削除をユーザに確認します。	データ生成の書式情報ファイルを削除したくない場合は、メッセージボックスをキャンセルで回避して最新定義情報の取得を行わないようにします。
42031		データ生成書式情報ファイルは他のアプリケーションで排他制御されています。データ生成書式情報ファイルを使用しているアプリケーションを終了して、処理を実行してください。	データ生成書式情報ファイルは他のアプリケーションで排他制御されています。	データ生成書式情報ファイルを使用しているアプリケーションを終了して、処理を実行してください。
42051		テストケースファイルは他のアプリケーションで排他制御されています。テストケースファイルを使用しているアプリケーションを終了して、処理を実行してください。	テストケースファイルは他のアプリケーションで排他制御されています。	テストケースファイルを使用しているアプリケーションを終了して、処理を実行してください。

42053		指定されたテストケースファイルには、アクセス権限が設定されていません。指定されたテストケースファイルを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定された表に対応するテストケースファイルにアクセス権限が設定されていません。	指定された表を編集する場合は、管理者に通知して対応するテストケースファイルのアクセス権限を取得してください。
42055	S	フォーマット編集の項目の情報ファイルには、アクセス権限が設定されていません。フォーマット編集の項目の情報ファイルを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	フォーマット編集の項目の情報ファイルには、アクセス権限が設定されていません。	フォーマット編集の項目の情報ファイルを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
42056	S	データ生成書式情報ファイルには、アクセス権限が設定されていません。データ生成書式情報ファイルを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	データ生成書式情報ファイルには、アクセス権限が設定されていません。	データ生成書式情報ファイルを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
42057	S	表の最新定義情報を取得すると以下の情報が削除されます。 表の最新定義情報を取得してもよろしいですか？	表の最新定義情報の取得を行うと表の定義が変更されているとみなされます。そのため、指定された表に対応した、以下の各情報ファイルの削除が必要になります。 ・テストケース情報 ・フォーマット編集の項目の情報 ・データ生成の書式の情報	情報ファイルを削除したくない場合は、メッセージボックスをキャンセルし、最新定義情報の取得を行わないようにします。（実際の表の定義に変更がない場合）
42100		広域領域の取得に失敗しました。	LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。	他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

42101		ディスク容量不足のためファイルを作成できませんでした。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したドライブのディスク空き容量が不足しています。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。
42201		データの抽出中です	データを抽出しています。	ー
42202		データの更新中です	データを更新しています。	ー
42203		データの作成中です	データを生成しています。	ー
42204		ログイン中です。DBから情報を取得しています。	通知メッセージ：ログイン中です	ー
43001		表情報のファイルからの展開に失敗しました。	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
43002		表一覧の作成時に、表名のコード変換に失敗しました。	何らかの原因で内部処理のコード変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
44001		サーバに接続されていません。通信の接続を行ってください。	サーバに接続されていません。	メニューまたはツールバーより、サーバへの接続を行って下さい。
44002		テストケースファイル格納フォルダが長すぎてファイルを作成できません。¥n環境設定でテストケースファイル格納フォルダを設定してください。	指定したフォルダパス名がLINDAで扱える長さを超えました。	フォルダ名または、ファイル名を短くして下さい。
44004		指定されたテストケースファイルは属性に問題があります。テストケースファイルを再作成して処理を行ってください。	指定されたテストケースファイルに、隠しファイル、システムファイル、ボリュームファイル、ディレクトリの属性が設定されています。	ー 指定のフォルダが、読み込み専用になっていないか確認して下さい。 ー 環境設定の「フォルダ設定」を確認して下さい。
44006		テストケースファイルに書き込み権が有りません。テストケースファイルに書き込み権を与えて処理を行ってください。	指定されたテストケースファイルに、書き込み権限がありません。	対象のテストケースファイルに、書き込み権限を与えてください。

44007		テストケースファイルが有りません。表指定ダイアログより情報を取得して処理を行ってください。	指定されたテストケースファイルは、存在しません。	処理を続けるには「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。
44010		作業ファイル用フォルダが長すぎて作業ファイルを作成できません。環境設定で作業ファイル用フォルダを設定してください。	指定したフォルダパス名がLINDAで扱える長さを超えました。	フォルダ名または、ファイル名を短くして下さい。
44011		表情報の展開に失敗しました。	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
44012		テストケースファイルの展開に失敗しました。テストケースファイルは他で使用されている、もしくは存在しません。テストケースファイルを確認して処理を行ってください。	指定されたテストケースファイルは、現在使用されているか、存在していません。	テストケースファイルを確認して下さい。
44014		表の定義が変更されています。処理を続けるには表の最新定義情報を取得してください。	表の定義が変更されているため、テストケースファイルの再作成が必要です。	処理を続けるには「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。
44015		列情報の展開に失敗しました。	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
44017		テストケースファイルではないファイルがテストケースファイルとして指定されました。ファイルを削除して処理を行ってください。	テストケースファイルに異常があります。指定されたテストケースファイルは、何らかの異常により正常に作成されなかったものです。	エクスプローラ等から、テストケースファイルを削除してください。

44018		テストケースファイルの作成に失敗しました。	テストケースファイルの作成に失敗しました。以下の原因が考えられます。 － 他のアプリケーションよりテストケースファイルが排他で開かれている。 － テストケースフォルダが存在しない。	－ テストケースファイルが他のアプリケーションで使用されていないか確認して下さい。 － 環境設定の「フォルダ設定」を確認して下さい。
44019		RDB情報の取得に失敗しました。	転送ファイルを作成中に、必要なRDBの情報が取得できませんでした。メモリ不足等の原因が考えられます。	－ LINDAを終了して再起動する。 － 他のアプリケーションを終了し、空きメモリを増やす。
44020		SQL情報の取得に失敗しました。	転送ファイルを作成中に、SQL文の作成に失敗しました。メモリ不足等の原因が考えられます。	－ LINDAを終了して再起動する。 － 他のアプリケーションを終了し、空きメモリを増やす。
44021		NOT NULLが指定された列が選択されていません。列を選択して処理をやりなおしてください。	NOT NULLが指定された列が選択されていません。	環境設定の作業環境で列選択時にNOT NULLの列を常に選択状態にするが選択されています。 NOT NULLが指定された列を選択するか、環境設定の指定を解除してください。 環境設定の指定を解除した場合、レコードの追加や複写で問題が起きる可能性があります。
44023		該当するレコードが存在しません。	指定された表には、レコードが１件もないか、または、指定した条件に該当するレコードがありません。	－
44024		件数が取得できませんでした。	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
44025		列が選択されていません。列を選択して処理をやりなおしてください。	列選択で「選択」を指定しているが、列が1つも選択されていません。	列選択を「全列」にするか、列を１つ以上選択して下さい。

44026		ソートが設定されていません。ソートを設定して処理をやりなおしてください。	ソート条件の設定が行われていません。	ソート条件の設定を行って下さい。
44027		抽出ファイルは属性に問題があります。処理をやりなおしてください。	何らかの原因で内部処理で使用しているファイルの属性に問題が発生しました。	処理をやりなおしてください。それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
44028		抽出ファイルは、0バイトのファイルです。処理をやりなおしてください。	抽出ファイルのサイズが0 バイトになっています。サーバ/クライアントのディスク容量の不足が考えられます。	ディスクの空き容量を確認し、再度抽出処理を行って下さい。
44029		抽出ファイルに書き込み権が有りません。処理をやりなおしてください。	何らかの原因で内部処理で使用しているファイルの属性に問題が発生しました。	処理をやりなおしてください。それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
44030		抽出ファイルが有りません。処理をやりなおしてください。	何らかの原因により、作業ファイルが削除されました。	処理をやりなおしてください。それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
44031		選択された列の総和が、32760バイトを超えました。列を選択しなおしてください。	TF-LINDAで扱うことのできる、表の長さ（レコード長）の制限を超えています。	列選択で列を絞り込んでください。 ※ レコード長＋（列数×4）＜32760 になるように列を絞り込んでください。
44032		選択されていない列に対して、ソートが指定されました。ソートを指定しなおしてください。	選択されていない列に対して、ソートの指定を行うことはできません。	選択されている列に対して、ソートの指定を行って下さい。
44033		データのコード体系が変更されています。処理を続けるには表の最新定義情報を取得してください。	環境設定の「扱うデータのコード体系」の設定が変更されているため、テストケースファイルの再作成が必要です。	処理を続けるには「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。
44034		EUC･カナJIS8モードが変更されています。処理を続けるには表の最新定義情報を取得してください。	環境設定の「扱うデータのコード体系」の設定が変更されているため、テストケースファイルの再作成が必要です。	処理を続けるには「表の最新定義情報を取得する」をチェックして処理をやりなおしてください。

44035		選択されている列が全て未サポート列です。列を選択しなおして処理を行ってください。	未サポート項目のみで構成されている（選択列がすべて未サポート項目の）表を表示することはできません。	未サポート項目以外の項目を、1つ以上選択して下さい。
44036		レコード数が制限を越えました。条件を設定し直してください。	編集可能なレコード数の制限（10万件）を超えました。	テストケース選択ダイアログボックスの抽出条件で編集レコードを絞り込むか、追加モードで編集して下さい。
44037	0	パーティション情報の展開に失敗しました。	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	指定した表の定義を確認して処理をやりなおしてください。それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
44038		指定された条件ではサーバから転送できる2GBのファイルサイズを超えています。条件を変更するか、転送するレコード件数を減らしてください。	抽出件数が多いために、転送のサイズが2GBを超えています。	条件を変更し、抽出件数を減らしてください。
44051		抽出ファイルには、アクセス権限が設定されていません。抽出ファイルを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	環境設定の作業フォルダにアクセス権限が設定されていないので、表に関連する抽出ファイル(表情報、列一覧など)の取得に失敗しています。	表に関連する抽出ファイルを取得する場合は、管理者に通知して作業フォルダのアクセス権限を取得してください。
44052		テストケース格納フォルダが存在しないかアクセス権限が設定されていません。 環境設定でテストケース格納フォルダを設定してください。	テストケース格納フォルダが存在しないかアクセス権限が設定されていません。	フォルダが存在しない場合は環境設定でテストケース格納フォルダを設定してください。 アクセス権限がないフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

44053		指定されたテストケースファイルには、アクセス権限が設定されていません。指定されたテストケースファイルを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定された表に対応するテストケースファイルにアクセス権限が設定されていません。	指定された表を編集する場合は、管理者に通知して対応するテストケースファイルのアクセス権限を取得してください。
44054		作業ファイル用フォルダが存在しないかアクセス権限が設定されていません。 環境設定で作業ファイル用フォルダを設定してください。	作業ファイル用フォルダが存在しないかアクセス権限が設定されていません。	フォルダが存在しない場合は環境設定で作業ファイル用フォルダを設定してください。 アクセス権限がないフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
44095	S	未サポートのデータ型が、定義されています。編集モードは表示モードまたは追加モードとなります。	―	―
44096	S	未サポートのデータ型が、PRIMARY KEYとして定義されています。編集モードは表示モードとなります。	未サポートのデータ型が、PRIMARY KEYとして定義されている表に対し、追加/更新処理を行うことはできません。表示のみ可能です。	―
44097	S	未サポートのデータ型が、UNIQUE KEYとして定義されています。編集モードは表示モードとなります。	未サポートのデータ型が、UNIQUE KEYとして定義されている表に対し、追加/更新処理を行うことはできません。表示のみ可能です。	―
44098	S	未サポートのデータ型が、PRIMARY KEYおよびUNIQUE KEYとして定義されています。編集モードは表示モードとなります。	未サポートのデータ型が、PRIMARY KEYおよびUNIQUE KEYとして定義されている表に対し、追加/更新処理を行うことはできません。表示のみ可能です。	―

44099	S	未サポートのデータ型が、定義されています。編集モードは表示モードまたは追加モードとなります。	未サポートのデータ型が定義されている表に対し、更新処理を行うことはできません。表示／追加モードのみ可能です。	ー
44100	S	KEY情報の取得に失敗しました。編集モードは表示モードとなります。	指定された表に PRIMARY KEY、UNIQUE KEY のいずれも存在しません。（制限／仕様）	ー
45001		列名に誤りが有ります。列名を再設定してください。	列名に誤りがあります。	正しい列名を設定して下さい。
45002		指定できないデータ型の列が選択されています。列名を再設定してください。	未サポート項目を、ソート条件に指定することはできません。	列名を再設定して下さい。
45003		条件式が設定されていません。条件式を設定してください。	条件内容が設定されていません。	条件内容を設定して下さい。
45004		条件式は不要です。条件式を削除してください。	指定された演算子に対して、条件式の入力は必要ないので条件式を削除してください。	条件式を削除するか、演算子を変更してください。
45005	0	指定されたパーティション名は表に存在しません。パーティション名を指定し直してください。	指定されたパーティション名は表に存在しません。	パーティション名を指定し直してください。
46001		列名に誤りが有ります。列名を再設定してください。	入力された列名に誤りが有ります。	列名を再設定してください。
46002		入力された列名に対するソートの設定は、既に行われています。列名を再設定してください。	入力された列名に対するソートの設定は、既に行われています。	列名を再設定してください。
46003		選択されていない列に対して、ソートが指定されました。ソートを指定しなおしてください。	選択されていない列に対して、ソートが指定されました。	ソートを指定しなおしてください。
49001		TF-MDPORTがインストールされていないか、インストール情報に誤りがあります。	TF-MDPORTのインストールが正しく行われていません。	TF-MDPORTのインストールを再度、行ってから、LINDAを使用して下さい。

49002		TF-MDPORTの起動に失敗しました。TF-MDPORTを確認して処理を行ってください。	TF-MDPORTのインストールが正しく行われていません。	TF-MDPORTのインストールを再度、行ってから、LINDAを使用して下さい。
49003		レイアウト定義ファイルの作成に失敗しました。	作業ファイルの作成に失敗しました。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
49004		実行指示ファイルの作成に失敗しました。	作業ファイルの作成に失敗しました。	環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
49005		ローカルファイル作成のためのデータファイルの保存に失敗しました。	何らかの原因で内部処理で使用しているファイルの作成に失敗しました。	処理をやりなおしてください。それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
49006		ローカルファイルの作成に失敗しました。	何らかの原因で内部処理で使用しているファイルの作成に失敗しました。	処理をやりなおしてください。それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
49007		対象のデータ項目数が制限を超えているため扱えません。	項目数が、TF-MDPORTで扱える制限を超えています。	列選択で、項目数を絞り込んで下さい。(TF-MDPORTのヘルプを参照)
49011		インポートに失敗しました。	指定したデータファイルのインポートに失敗しました。	指定したファイルがCSV形式か確認して下さい。
49012		インポートでデータの変換エラーがありました。エラーファイルを参照しますか？	インポート処理で変換エラーがありました。発生した変換エラー情報を参照しますか。	インポートに使用したデータと項目属性を見比べてみて下さい。
49013		インポートでデータの変換エラーがありましたが、エラーファイルを出力できませんでした。	インポート処理で変換エラーが発生したため、エラー情報をファイルに出力しようとしたが、何らかの原因により、出力できませんでした。	エラーファイルを他のアプリケーションで扱っているものと思われます。他のアプリケーションを終了して下さい。

49014		指定されたCSVファイルには、アクセス権限が設定されていません。指定されたCSVファイルを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定されたCSVファイルには、アクセス権限が設定されていません。	指定されたCSVファイルを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
49015		XML形式のインポートはDBのコード系がSJISでしか行えません。XML形式のインポートを行う場合はSJISのDBを選択してください。	XML形式のインポートはLindaで編集中のDBがSJISの場合にしかサポートしていません。（制限/仕様）	対象のデータをインポートする場合は、TF-MDPORTでCSV形式などに変換してインポートを行ってください。
49016		インポートの対象のファイルが指定されていません。インポートするファイルを指定してください。	インポートの対象ファイルが指定されていません	インポートするファイルを指定してください。
49017		指定されたインポートの対象ファイルは存在しません。インポートする対象ファイルを指定しなおしてください。	指定されたインポートの対象ファイルは存在しません。	インポートする対象ファイルを指定しなおしてください。
49018		指定されたインポートの対象のファイルには、アクセス権限が設定されていません。指定されたインポートの対象のファイルを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定されたインポートの対象のファイルには、アクセス権限が設定されていません。	指定されたインポートの対象のファイルを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
49026		インポートに関連するTF-MDPORTのDLLの動的ロードに失敗しました。TF-MDPORTが正常にインストールされているか確認してください。	インポートに関連するTF-MDPORTのDLLの動的ロードに失敗しました。	TF-MDPORTが正常にインストールされているか確認してください。 正常にインストールされている場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
49027		インポートに関連するTF-MDPORTのMDApiの関数のアドレスの取得に失敗しました。TF-MDPORTが正常にインストールされているか確認してください。	インポートに関連するTF-MDPORTのMDApiの関数のアドレスの取得に失敗しました。	TF-MDPORTが正常にインストールされているか確認してください。 正常にインストールされている場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

49028		指定されたインポートの対象ファイルは0Byteのファイルです。インポートする対象ファイルを指定しなおしてください。	指定されたインポートの対象ファイルは0Byteのファイルです。	インポートする対象ファイルを指定しなおしてください。
49029		インポート時のエラーファイルが他のアプリケーションで排他OPENされています。エラーファイルを使用しているアプリケーションを終了して処理を行ってください。	インポート時のエラーファイルが他のアプリケーションで排他OPENされています。	エラーファイルを使用しているアプリケーションを終了して処理を行ってください。
49030		XMLファイルのインポートでデータの変換エラーがありました。エラーファイルを表示します。	XMLファイルのインポートでデータの変換エラーがありました。エラーファイルを表示します。	ー
49031		XMLファイルのインポートに失敗しました。対象のファイルがXMLファイルとして正しくない可能性が有ります。TF-MDPORTのヘルプを参照して対象のファイルがXMLファイルとして正しいか確認してください。	XMLファイルのインポートに失敗しました。	対象のファイルがXMLファイルとして正しくない可能性が有ります。TF-MDPORTのヘルプを参照して対象のファイルがXMLファイルとして正しいか確認してください。
49041		データに未サポートの列が含まれています。MDPORTは起動できません。	未サポートの列を含んだ表に対し、TF-MDPORT連携を行うことはできません。	列選択で、未サポート項を削除して下さい。
49042	0	データにNUMBERの全体桁が18桁を超える列が含まれています。MDPORTは起動できません。	通知メッセージ：MDPORTの制限により、18桁を超える数値は使用できません。	列選択で、対象の列を選択から外してください。
49043	0	エクスポートするデータに各国語文字列の列が含まれています。MDPORTでのコード変換でエラーになる可能性があります。	UnicodeではUTF8/UCS2形式のコード変換しかサポートしていないので、UTF8/UTF8などの形式のDBでは問題が発生します。	ー
49044		編集中のレコード数が制限(10万件)に達しているのでインポートは行えません。編集中のデータを終了して再度実行してください。	抽出中のレコードデータにインポートするとレコード数がLINDAで扱えるレコード件数の制限10万件を超えてしまいます。	現在開いている表を閉じて、追加モードで表を開きなおしてインポートを実行してください。

No.10000 - 19999	No.20000 - 29999	No.40000 - 49999	No.50000 - 59999	No.60000 - 69999	No.70000 - 79999	No.90000 - 99999

※　S　⇒　Symfoware版用のメッセージです。
　　O　⇒　Oracle版用のメッセージです。

No	※	メッセージ	メッセージの意味	利用者の処置
50001		16進数以外の文字が入力されました。'0-9'、'A-F'の文字を入力してください。	16進数以外の文字が入力されました。'0-9'、'A-F'の文字を入力してください。	正しい値を設定し、再度処理を行ってください。
50002		入力されたデータが不足しています。%ld文字まで入力してください。	入力されたデータが、列のデータ長に対し不足しています。	列の実データ長までのデータを入力してください。
50003		16進文字の変換エラーが発生しました。不当な16進文字が入力されています。	不当な16進数が入力されました。	'0-9'、'A-F'の範囲で入力してください。
50004		カーソル位置として不適当な値が入力されています。値を入力しなおしてください。	カーソル位置として不適当な値が入力されています。	値を入力しなおしてください。
51001		テストケースファイル格納フォルダは、存在しないかアクセス権限が設定されていません。 指定されたフォルダを使用する場合は、新規に作成するか管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	テストケースファイル格納フォルダは、存在しないかアクセス権限が設定されていません。	指定されたフォルダを使用する場合は、新規に作成するか管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

51002		テストケースファイル格納フォルダとして指定された文字列は、相対パスです。 絶対パスで指定してください。	テストケース格納フォルダが相対パスで指定されています。	テストケース格納フォルダを絶対パスで指定してください。
51003		作業用ファイルを作成するフォルダは、存在しないかアクセス権限が設定されていません。 指定されたフォルダを使用する場合は、新規に作成するか管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	作業用ファイルを作成するフォルダは、存在しないかアクセス権限が設定されていません。	指定されたフォルダを使用する場合は、新規に作成するか管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
51004		作業ファイルを作成するフォルダとして指定された文字列は、相対パスです。 絶対パスで指定してください。	作業ファイルを作成するフォルダが相対パスで指定されています。	作業ファイルを作成するフォルダを絶対パスで指定してください。
51007		コード体系が設定されていません。コード体系を設定してください。	データファイルのコード体系が設定されていません。	コード体系を設定して下さい。
51008		シフトJISのiconv変換のキーワードが設定されていません。 キーワードを設定してください。	環境設定でシフトJISのiconv変換のキーワードが選択されていません。	シフトJISのiconv変換キーワードを設定して下さい。
51009		EUCのiconv変換のキーワードが設定されていません。キーワードを設定してください。	EUCのiconv変換キーワードが設定されていません。	EUCのiconv変換キーワードを設定して下さい。
51010		JEFのiconv変換のキーワードが設定されていません。キーワードを設定してください。	JEFのiconv変換キーワードが設定されていません。	JEFのiconv変換キーワードを設定して下さい。
51011		ホスト名が設定されていません。ホスト名を設定してください。	ホスト名が設定されていません。	ホスト名を設定してください。

51013		エラー時のROLLBACKの方法が設定されていません。ROLLBACKの方法を選択してください。	エラー時のROLLBACKの方法が設定されていません。	ROLLBACKの方法を選択してください。
51014	0	SIDが設定されていません。SIDを設定してください。	SIDが設定されていません。	SIDを設定してください。
51014	S	データベース名が設定されていません。データベース名を設定してください。	データベース名が設定されていません。	データベース名を設定してください。
51015	S	スキーマ名が設定されていません。スキーマ名を設定してください。	スキーマ名が設定されていません。	スキーマ名を設定してください。
51016		RDBシステム名に全角の文字が設定されています。RDBシステム名は半角文字のみで設定してください。	―	―
51017		選択行へのロックと分割アクセスは同時に指定できません。 選択を変更してください。	選択行へのロックと分割アクセスは同時に指定できません。	選択行へのロックか分割アクセスの選択を変更してください。
51018		列名の表示幅で指定された値が、有効な数値ではありません。0もしくは11～36の範囲で設定してください。	有効範囲外の値が指定されています。	上記の範囲内で指定してください。
51019	0	日付の表示形式が設定されていません。表示形式を選択してください。	(環境設定-データベース情報の)日付の表示形式が設定されていません。	(環境設定-データベース情報の)日付の表示形式を選択してください。
51022		サーバ側カレントディレクトリが設定されていません。サーバ側カレントディレクトリを設定してください。	サーバ側カレントディレクトリが設定されていません。	サーバ側カレントディレクトリを設定してください。
51023		サーバ側カレントディレクトリに¥を含んだ文字が設定されました。¥を含む文字を変更してください。	サーバ側カレントディレクトリに¥を含んだ文字が設定されました。	¥を/に修正してください。

51024		サーバ側カレントディレクトリに . または .. は指定できません。サーバ側カレントディレクトリを変更してください。	サーバ側カレントディレクトリに相対パスが指定されています。	サーバ側カレントディレクトリはフルパスで設定してください。
51025		ホスト名に , は指定できません。ホスト名を変更してください。	ホスト名に , を含む文字列が指定されています。	ホスト名には , を含まない文字列を指定してください。
51026		サーバ側カレントディレクトリには連続して / は指定できません。サーバ側カレントディレクトリを変更してください。	サーバ側カレントディレクトリには連続して / は指定できません。	サーバ側カレントディレクトリを変更してください。
51027	S	コードテーブルの割当ができませんでした。環境設定のコード変換情報を再設定してください。	コード変換に必要なコードテーブルが作成できませんでした。環境設定のコード変換情報でサポートされていないiconvキーワードが指定されている可能性があります。	環境設定のコード変換情報を確認し、iconvキーワードを正しく設定してください。
51028		同じTF-LINDAが複数起動されています。環境設定を変更することはできません。環境設定の変更を行うには他のTF-LINDAを終了してください。	他にもTF-LINDAが起動されているので、環境設定の変更はできません。	他のTF-LINDAを終了して、環境設定の変更を行ってください。
51029	S	データベース名に空白が含まれています。 空白を含まない文字列を設定してください。	データベース名に空白は指定できません。	空白を含まない文字列を設定してください。
51030	S	スキーマ名に空白が含まれています。 空白を含まない文字列を設定してください。	スキーマ名に空白は指定できません。	空白を含まない文字列を設定してください。
51031	S	RDBシステム名に空白が含まれています。 空白を含まない文字列を設定してください。	RDBシステム名に空白は指定できません。	空白を含まない文字列を設定してください。

51032	0	SIDに空白が含まれています。空白を含まない文字列を設定してください。	SIDに空白は指定できません。	空白を含まない文字列を設定してください。
52001		開始レコード番号に終了レコード番号よりも大きな値が設定されています。	開始レコード番号に終了レコード番号よりも大きな値が設定されています。	「開始レコード番号 <= 終了レコード番号」となるように設定してください。ただし、終了レコード番号に0(ゼロ)を指定することは可能です。
52002		開始レコード番号に存在するレコード件数よりも大きな値が設定されています。開始レコード番号を設定し直してください。	開始レコード番号に存在するレコード件数より大きな値が設定されています。	1以上存在するレコード件数以下の範囲内で指定してください。
52003		印刷処理ではプロポーショナルフォントをサポートしていません。	印刷処理におけるフォントの指定にプロポーショナルフォント（可変長ピッチのフォント）は指定できません。	固定長ピッチのフォントを指定してください。
52004		ヘッダの指定文字列が設定されていません。文字列を設定するか、指定文字列チェックボックスのチェックをはずしてください。	ヘッダの指定文字列において、チェックボックスでは印刷する設定となっているのに、実際印刷する文字列の指定がありません。	印刷しないのであれば、チェックをはずしてください。印刷するのであれば、文字列を指定してください。

52005		指定されたレコードの範囲には削除レコードしかありません。	「印刷レコード範囲」により設定した範囲内には、削除レコードしか存在しません。	削除レコードだけでも印刷したいのであれば、印刷ページ設定の「削除レコードを印刷する」をチェックしてください。
52101		データを印刷する領域を確保できませんでした。印刷の処理を終了してください。	指定された用紙サイズと余白のサイズより、印刷を行える領域を確保できませんでした。	印刷の処理を終了して、用紙サイズと余白のサイズを変更してください。
52102		データ印刷における前処理でエラーが発生しました。印刷の処理を終了します。	印刷処理に必要な領域の確保ができませんでした。印刷処理をキャンセルします。	メモリ不足または、システムの作業領域（ディスク容量）不足が考えられます。
52103		削除レコードの印刷が指定されていないのに、指定されたレコードの範囲には削除レコードしかありません。印刷ページ設定より、削除レコードの印刷を指定してください。	「印刷レコード範囲」により設定した範囲内には、削除レコードしか存在しません。	削除レコードだけでも印刷したいのであれば、印刷ページ設定の「削除レコードを印刷する」をチェックしてください。

52104		指定された列が印刷の処理で扱える列数の制限(1500個)を超えています。列数を減らして処理を行ってください。	印刷処理におけるデータ項目数の制限を超えました。	アイテムセレクト機能により、データ項目数を1500項目以内に選出すれば印刷できます。
52105		印刷の処理でメモリ不足が発生しました。印刷プレビューを実行している場合は、プレビューの処理を終了してください。	印刷処理中にメモリ不足が発生しました。	印刷プレビュー表示時は、印刷プレビュー画面を終了させてください。TF-LINDAを多重起動したり、他のアプリケーションを起動している場合、それらを終了してから再度実行してください。
52106		データの存在する列が選択されていないので印刷できません。データの存在する列を選択してください。	データファイルのレコード長を超える相対位置に位置づけられている項目のみであるため、印刷可能なデータがありません。アイテムセレクト機能により、データファイルのレコード長以下の項目を選択してください。	アイテムセレクト機能により、データファイルのレコード長以下の項目を選択するか、選択を解除してください。
52107		選択されている列に未サポートの列が含まれています。未サポートの列をはずして印刷を行ってください。	未サポートの列を印刷することはできません。	列選択により、未サポートの列をはずして印刷を行ってください。

53001	S	フォーマット編集の項目の情報の展開に失敗しました。表の最新定義情報の取得を行いフォーマット編集の項目の情報を削除して再設定してください。	―	―
53004		精度と位取の和が18桁を超えるフォーマットは指定できません。精度と位取の和が18桁以内になるように値を変更してください。	―	―
53005		精度と位取に０が指定されています。精度か位取に整数を設定してください。	―	―
53006		項目名が設定されていません。項目名を設定してください。	―	―
53007		項目名が同じ項目が既に登録されています。重複しない項目名を設定してください。	―	―
53008		項目が最大まで登録されています。これ以上の項目の登録はできません。	―	―
53009		項目が選択されていないので処理を行えません。フォーマット項目一覧より項目を選択してください。	―	―
53010		設定された各フォーマット項目のバイト長の総和と列のバイト長が一致しません。項目の追加、削除を行ってフォーマット項目のバイト長の総和と列のバイト長を一致させてください。	―	―
53011		属性の表示文字列の作成に失敗しました。処理を終了してアプリケーションを起動しなおしてください。	―	―
53012		フォーマット項目がすべて削除されています。列に対するフォーマットの設定の削除を行わない場合は、フォーマット項目を設定してください。列に対するフォーマットの設定を削除しますか？	―	―

53013		表の最新定義情報の取得を行うと表の定義が変更されるため、フォーマット編集の項目の情報の削除が必要です。フォーマット編集の項目の情報を削除しますか？	－	－
53014		列に対するフォーマットが設定されていません。フォーマット編集を終了しますか？	－	－
53015		列に対するフォーマットが設定されていません。テストケース選択画面の編集モードで表示以外を選択して処理を行ってください。	－	－
53016		フォーマットファイルは他のアプリケーションで排他制御されています。フォーマットファイルを使用しているアプリケーションを終了して、処理を実行してください。	－	－
54001		取得した情報の出力先が選択されていません。表一覧情報・列一覧情報・インデックス一覧情報を選択してください。	出力する定義情報を選択せずに、ＯＫボタンが押下されました。	どれか一つ出力する定義情報をチェックし、再度処理を行ってください。
54002		表一覧出力先ファイルパスが設定されていません。表一覧出力先ファイルパスを設定してください。	表一覧の出力先のファイル名が設定されていません。	表一覧の出力先のファイル名を入力後、再度処理を行ってください
54003		ファイルパスが不正です。	設定されたファイル名がWindows(R)/Windows NT(R)システムで認識できません。 （メッセージの下側には問題が発生した情報が表示されます。）	Windows(R)/Windows NT(R)システムで認識できるファイル名を入力してください。

54004		指定された出力先フォルダは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダが存在する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定されたフォルダに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。	対象フォルダのアクセス権に書き込み許可を与えるか、または、書き込み権限をもつ別のフォルダへ保存してください。
54005		指定された表一覧情報ファイルは既に存在します。上書きしますか？	指定されたファイルが指定されたフォルダ上にすでに存在します。	指定されたファイルを作成するのであれば、「はい」で処理を続行してください。 「いいえ」の場合は、別のフォルダを指定するか、別のファイルを指定してください。
54006		列一覧出力先ファイルパスが設定されていません。列一覧出力先ファイルパスを設定してください。	列一覧の出力先のファイル名が設定されていません。	列一覧の出力先のファイル名を入力後、再度処理を行ってください。

54007		指定された列一覧情報ファイルは既に存在します。上書きしますか？	指定されたファイルが指定されたフォルダ上に既に存在します。	指定されたファイルを作成するのであれば、「はい」で処理を続行してください。 「いいえ」の場合は、 別のフォルダを指定するか、別のファイルを指定してください。
54008		RDB情報が設定できませんでした。	環境設定のデータベース情報に誤りがあるか、メモリ不足等の原因が考えられます。	環境設定のデータベース情報に存在するものを指定してください。 また、TF-LINDAを終了して再起動してください。
54009		表の定義情報が取得できませんでした。	存在しない表指定されたか、メモリ不足等の原因が考えられます。	存在する表を指定してください。 また、TF-LINDAを終了して再起動してください。

54010		列の定義情報が取得できませんでした。	転送ファイルを作成中に、必要な列の情報が取得できませんでした。	TF-LINDAを終了して再起動してください。または、 他のアプリケーションを終了し、空きメモリを増やしてください。
54011		表一覧ファイルの作成に失敗しました。	インデックス一覧ファイルの書き込みに失敗しました。 以下の原因が考えられます。 － 他のアプリケーションよりインデックス一覧ファイルが排他で開かれています。 － 作業ファイル用フォルダが存在しません。	－表一覧ファイルが他のアプリケーションで使用されていないか確認して下さい。 －環境設定の「フォルダ設定」を確認して下さい。
54012		列一覧ファイルの作成に失敗しました。	インデックス一覧ファイルの書き込みに失敗しました。 以下の原因が考えられます。 － 他のアプリケーションよりインデックス一覧ファイルが排他で開かれています。 － 作業ファイル用フォルダが存在しません。	－ 列一覧ファイルが他のアプリケーションで使用されていないか確認して下さい。 － 環境設定の「フォルダ設定」を確認して下さい。

54013		ディスク容量不足により表一覧ファイルの書き込みに失敗しました。	表一覧ファイルを書き込み・保存する処理で、エラーが発生しました。	Windows(R)/Windows NT(R)システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
54014		表一覧ファイルの書き込みに失敗しました。	インデックス一覧ファイルの書き込みに失敗しました。 以下の原因が考えられます。 － 他のアプリケーションよりインデックス一覧ファイルが排他で開かれています。 － 作業ファイル用フォルダが存在しません。	－ 表一覧ファイルが他のアプリケーションで使用されていないか確認して下さい。 － 環境設定の「フォルダ設定」を確認して下さい。
54015		ディスク容量不足により列一覧ファイルの書き込みに失敗しました。	列一覧ファイルを書き込み・保存する処理で、エラーが発生しました。	Windows(R)/Windows NT(R)システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

54016		列一覧ファイルの書き込みに失敗しました。	インデックス一覧ファイルの書き込みに失敗しました。 以下の原因が考えられます。 － 他のアプリケーションよりインデックス一覧ファイルが排他で開かれています。 － 作業ファイル用フォルダが存在しません。	－ 表一覧ファイルが他のアプリケーションで使用されていないか確認して下さい。 － 環境設定の「フォルダ設定」を確認して下さい。
54017		インデックス一覧出力先ファイルパスが設定されていません。 インデックス一覧出力先ファイルパスを設定してください。	インデックス一覧の出力先のファイル名が設定されていません。	インデックス一覧の出力先のファイル名を入力後、再度処理を行ってください。
54018		指定されたインデックス一覧情報ファイルは既に存在します。 上書きしますか？	指定されたファイルが指定されたフォルダ上に既に存在します。	－ 指定されたファイルを作成するのであれば、「はい」で処理を続行してください。 － 別のフォルダを指定するか、別のファイルを指定してください。

54019		表の索引情報が取得できませんでした。	転送ファイルを作成中に、必要な表の索引情報が取得できませんでした。 メモリ不足等の原因が考えられます。	ー TF-LINDAを終了して再起動してください。 ー 他のアプリケーションを終了し、空きメモリを増やしてください。
54020		列の索引情報が取得できませんでした。	転送ファイルを作成中に、必要な列の索引情報が取得できませんでした。	ー TF-LINDAを終了して再起動してください。 ー 他のアプリケーションを終了し、空きメモリを増やしてください。
54021		インデックス一覧ファイルの作成に失敗しました。	インデックス一覧ファイルの書き込みに失敗しました。 以下の原因が考えられます。 ー 他のアプリケーションよりインデックス一覧ファイルが排他で開かれています。 ー 作業ファイル用フォルダが存在しません。	ー インデックス一覧ファイルが他のアプリケーションで使用されていないか確認して下さい。 ー 環境設定の「フォルダ設定」を確認して下さい。

54022		ディスク容量不足によりインデックス一覧ファイルの書き込みに失敗しました。	インデックス一覧ファイルを書き込み・保存する処理で、エラーが発生しました。	Windows (R)/ Windows NT (R)システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
54023		インデックス一覧ファイルの書き込みに失敗しました。	インデックス一覧ファイルの書き込みに失敗しました。 以下の原因が考えられます。 － 他のアプリケーションよりインデックス一覧ファイルが排他で開かれています。 － 作業ファイル用フォルダが存在しません。	－ インデックス一覧ファイルが他のアプリケーションで使用されていないか確認して下さい。 － 環境設定の「フォルダ設定」を確認して下さい。
54024		作業ファイル用フォルダが存在しないか、アクセス権限が設定されていません。環境設定にて、作業ファイル用フォルダを設定して下さい。作業ファイル用フォルダが存在する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定された作業ファイル用フォルダに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。	対象フォルダのアクセス権に書き込み許可を与えるか、または、書き込み権限をもつ別のフォルダへ変更してください。
54025		表一覧ファイルパスと列一覧ファイルパスが同じです。どちらかを変更してください。	指定された表一覧のファイル名と列一覧のファイル名が同じです。	どちらかのファイル名を変更してください。
54026		表一覧ファイルパスとインデックス一覧ファイルパスが同じです。どちらかを変更してください。	指定された表一覧のファイル名と列一覧のファイル名が同じです。	どちらかのファイル名を変更してください。

54027		列一覧ファイルパスとインデックス一覧ファイルパスが同じです。どちらかを変更してください。	指定された表一覧のファイル名と列一覧のファイル名が同じです。	どちらかのファイル名を変更してください。
54028		指定されたファイルは他のアプリで使用中、または使用できません。ファイル名を変更してください。	指定された表一覧のファイル名と列一覧のファイル名が同じです。	どちらかのファイル名を変更してください。
54029		不正なファイルパスあるいは文字列があります。ファイル名を変更して処理してください。	指定されたファイルパスが存在しないか、誤った名前が指定されてます。	存在するファイルパスを指定してください。
54030		指定されたファイルは読み込み専用です。ファイルの属性を変更してください。	ファイル属性に書き込み権限がないため、処理ができません。	ファイルに読み書き権限を付加するか、ファイルを変更してください。
54031		表一覧出力先フォルダパスが長すぎる為、処理できません。表一覧出力先フォルダパスを再設定してください。	指定されたファイル名の長さが、Windowsで操作できる文字列の最大長を超えてるため、処理できません。	Windowsで操作できる文字列の最大値長内でファイル名を指定してください。
54032		列一覧出力先フォルダパスが長すぎる為、処理できません。列一覧出力先フォルダパスを再設定してください。	指定されたファイル名の長さが、Windowsで操作できる文字列の最大長を超えてるため、処理できません。	Windowsで操作できる文字列の最大値長内でファイル名を指定してください。
54033		インデックス一覧出力先フォルダパスが長すぎる為、処理できません。インデックス一覧出力先フォルダパスを再設定してください。	指定されたファイル名の長さが、Windowsで操作できる文字列の最大長を超えてるため、処理できません。	Windowsで操作できる文字列の最大値長内でファイル名を指定してください。

54034		指定されたファイルは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。指定されたファイルが存在する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定されたファイルパスには書き込み権限がないか、存在しないパスです。	ファイルパスに書き込み権限を付加するか、書き込み権限があるパスを指定してください。また、存在するファイルの場合は書き込み権限をつけてください。
54035		表一覧ファイルパス・列一覧ファイルパス・インデックス一覧ファイルパスが同じです。別のファイル名を設定してください。	表一覧ファイルパス・列一覧ファイルパス・インデックス一覧ファイルパスがすべて同じファイルが指定されてます。	表一覧ファイルパス・列一覧ファイルパス・インデックス一覧ファイルパスは、それぞれ違うフルパスの名を指定してください。
54036		ルート配下にファイルは作成できません。フォルダ配下に変更して処理してください。	ルートドライブの直下にはファイルを作成することができません。	フォルダ内のファイルを指定してください。
54037		指定されたファイルパスの場所にファイルは作成できません。	相対の場合 、作成先がルート配下になっている等の原因が考えられます。	パスを確認してください。
54038		複数ファイル指定をする場合は表を選択してください。	列一覧、インデックス一覧の出力時に複数ファイルへの出力を行うのに、表の選択で単一の表しか選択されていません。	ー

54039		複数ファイル指定の記号は１箇所のみ指定してください。	複数ファイル指定の記号（*）が、指定されたファイルの名に複数存在します。	複数ファイル指定の記号（*）は、指定されたファイルの名に1つのみ指定してください。
54040		指定されたファイルは既に存在します。上書きしても良い場合は「はい」、上書きしない場合は「いいえ」、すべてのファイルの作成を中断する場合は「キャンセル」を押してください。	指定されたファイルが指定されたフォルダ上に既に存在します。	ー 指定されたファイルを作成するのであれば、「はい」で処理を続行してください。 ー 別のフォルダを指定するか、別のファイルを指定してください。 ー 取得処理を中断する場合は「キャンセル」で中断してください。
54041		表が選択されていません。表を選択してください。	表を選択するを指定しているのに、表が選択されていません。	表を選択してください。
54042		ファイル名に指定できないパスが指定されました。ディレクトリを含むパスはカレントの配下のディレクトリしか指定できません。	指定されたファイルパスに使用できない文字列が含まれています。	ファイル名を指定しなおしてください。
54043		ファイル名にスペースが含まれています。	ファイル名にスペース(空白)が含まれています。(Windowsの制限)	スペース(空白)を含まないファイル名を指定してください。

54044		ファイル名に使用できない文字が含まれています。	ファイル名にWindowsでファイル名に指定できない文字が含まれています。(Windowsの制限)	Windowsでファイル名に指定できない文字を含まないファイル名を指定してください。
54045		ファイル名が指定されていません。	ファイル名が指定されていません。	ファイル名を指定してください。
54046		指定されたフォルダの領域が不足しています。領域を増やしてください。	指定されたファイルを保存するフォルダの容量が不足しています。	保存先を変更するか、容量を確保してください。
54047		表一覧情報の取得では複数ファイルの指定は行えません。	表一覧情報の出力先に複数ファイルが指定されています。表一覧情報は単一のファイルに出力してください。（メッセージの下側には問題が発生した情報が表示されます。）	単一のファイルを指定してください。
54048		表選択情報がクリアされるので、表を選択しなおしてください。	選択していた表の情報がクリアされています。	表を選択しなおしてください。
55001		RDB情報が設定できませんでした。	環境設定のデータベース情報に誤りがあるか、メモリ不足等の原因が考えられます。	環境設定のデータベース情報に存在するものを指定してください。また、TF-LINDAを終了して再起動してください。
55002		表の定義情報が取得できませんでした。	存在しない表が指定されたか、メモリ不足等の原因が考えられます。	存在する表を指定してください。また、TF-LINDAを終了して再起動してください。

55003		指定されたファイルが存在しません。	ロードするためのファイルが存在しません。	存在するファイルを指定してください。
55004		ロードの対象となる表名が指定されていません。表名を設定してください。	ロードの対象となる表名が指定されていません。	表名を設定してください。
55005		アンロードの対象となる表名が指定されていません。表名を設定してください。	アンロードの対象となる表名が指定されていません。	表名を設定してください。
55006		ロードする入力ファイルのファイルパスが設定されていません。ファイルパスを設定してください。	ロードするためのファイルが指定されていません。	ロードするファイルを指定してください。
55007		アンロードする出力ファイルのファイルパスが設定されていません。ファイルパスを設定してください。	アンロードするためのファイルが指定されていません。	アンロードするファイルを指定してください。
55008		ファイルパスが不正です。	指定されたファイルのパスが誤ってます。	存在するファイルパスを指定してください。
55009		指定された入力先フォルダは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダが存在する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	ファイル名に指定したフォルダが存在しないか、権限がありません。	ファイル名に指定したフォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 フォルダが存在しない場合は、存在するフォルダを設定してください。

55010		指定された出力先フォルダは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダが存在する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	ファイル名に指定したフォルダが存在しないか、権限がありません。	ファイル名に指定したフォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 フォルダが存在しない場合は、存在するフォルダを設定してください。
55011		指定されたファイルは既に存在します。上書きしますか？	ファイル名に指定されたファイルは存在するファイルです。 ファイル情報を上書きしていいでしょうか？	上書きしていいのなら、「はい」を押してください。上書きしないなら「いいえ」を押してください。
55012		指定されたファイルは既に存在します。ファイル名を変更してください。	ファイル名に指定されたサーバのファイルは存在するファイルです。	サーバのファイルは新規のファイルを指定してください。
55013		RDB情報ファイルの作成中にデータベース名のコード変換に失敗しました。	内部的なエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55014		データベース名が取得できなかった為RDB情報ファイルの作成中にのコード変換に失敗しました。	内部的なエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55015		RDB情報ファイルの作成中にスキーマ名のコード変換に失敗しました。	内部的なエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

55016		RDB情報ファイルの作成中に表名のコード変換に失敗しました。	内部的なエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55017		指定されたファイルのファイルパスが長すぎます。ファイル名を変更してください。	指定されたファイル名の長さが、Windowsで操作できる文字列の最大長を超えてるため、処理できません。	Windowsで操作できる文字列の最大値長内でファイル名を指定してください。
55018		指定されたファイルパスのコード変換に失敗しました。	内部的なエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55019		RDB情報ファイルの作成に失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダか、ドライブの容量不足が考えられます。	書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えるか、 ドライブの空き容量を確認してください。
55020		ディスク容量不足によりRDB情報ファイルの作成に失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。	ドライブの空き容量を確認してください。

55021		RDB情報ファイルの書き込みに失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダか、ドライブの容量不足が考えられます。	書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えるか、ドライブの空き容量を確認してください。
55022		列の定義情報が取得できませんでした。	存在しない表指定されたか、メモリ不足等の原因が考えられます。	存在する表を指定してください。また、TF-LINDAを終了して再起動してください。
55023		制御ファイルの作成に失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダか、ドライブの容量不足が考えられます。	書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えるか、ドライブの空き容量を確認してください。
55024		ディスク容量不足により制御ファイルの作成に失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。	ドライブの空き容量を確認してください。

55025		制御ファイルファイルの書き込みに失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダか、ドライブの容量不足が考えられます。	書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えるか、ドライブの空き容量を確認してください。
55026		スキーマ名を確認してください。	誤ったスキーマ名が指定されたため、処理ができませんでした。	環境設定に正しいスキーマ名を指定して、再処理してください。
55027		ロードするファイルの保存先が指定されていません。クライアント・サーバのどちらかを設定してください。	ロードするファイルが保存されている場所が指定されていません。	クライアント、サーバのどちらかを選択してください。
55028		アンロードするファイルの出力先が指定されていません。クライアント・サーバのどちらかを設定してください。	アンロードしたファイルを出力する場所が指定されていません。	クライアント、サーバのどちらかを選択してください。
55029		引用符が設定されていません。引用符を設定してください。	データの文字列を括る引用符の指定がありません。	引用符のコンボボックスから指定してください。
55030		ダブルクォーテーション以外は選択できません。	データの文字列を括る引用符に、ダブルクォーテーション以外の指定があります。	引用符はダブルクォーテーションを指定してください。

55031		ロードに失敗しました。	ロードコマンドの実行でエラーになりました。	LINDAサーバを起動したときの環境のPATHにロードコマンドが存在するディレクトリが設定されているか確認してください。設定されてない場合は、設定し、LINDAサーバを再起動してください。 環境が原因ではない場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55032		アンロードに失敗しました。	アンロードコマンドの実行でエラーになりました。	LINDAサーバを起動したときの環境のPATHにアンロードコマンドが存在するディレクトリが設定されているか確認してください。設定されてない場合は、設定し、LINDAサーバを再起動してください。 環境が原因ではない場

				合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55033		RDB情報ファイルの作成中にIDの取得に失敗しました。	内部的なエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55034		RDB情報ファイルの作成中にパスワードの取得に失敗しました。	内部的なエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55035		RDB情報ファイルの作成中にIDのコード変換に失敗しました。	内部的なエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55036		RDB情報ファイルの作成中にパスワードのコード変換に失敗しました。	内部的なエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
55037		指定されたファイルの読み込みに失敗しました。	メモリ不足等の原因が考えられます。	ー TF-LINDAを終了して再起動してください。 ー 他のアプリケーションを終了して、空きメモリを増してください。
55038		入力ファイルにバイナリデータが存在します。ロードはテキストモードですので、バイナリデータは扱えません。	TF-LINDAでは、ロード対象はテキストファイルのみですので、バイナリファイルは扱えません。	入力ファイルのデータをテキストにするか、テキスト形式のファイルを指定してください。

55039		作業ファイル用フォルダが存在しないか、アクセス権限が設定されていません。環境設定にて、作業ファイル用フォルダを設定して下さい。作業ファイル用フォルダが存在する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダか、存在しないフォルダです。	書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてください。
55040		指定された表の列はすべて未サポート属性の列です。サポート属性の列がある表を選択してください。	指定された表には、TF-LINDAでの未サポート列しかありません。	未サポート以外の列がある表を指定してください。
55041		VIEW表は選択できません。VIEW表以外の表を選択してください。	VIEW表は処理対象ではありません。	VIEW表以外の表を選択してください。
55042		不正なファイルパスあるいは文字列があります。ファイル名を変更して処理してください。	指定されたサーバのファイルパスが存在しないか、誤った名前が指定されてます。	存在するファイルパスを指定してください。
55043		指定されたファイルは他のアプリで使用中、または使用できません。ファイル名を変更してください。	指定されたファイルは他のアプリで使用中、または使用できません。	ファイル名を変更してください。
55044		不正なファイルパスあるいは文字列があります。ファイル名を変更して処理してください。	指定されたファイルパスが存在しないか、誤った名前が指定されてます。	存在するファイルパスを指定してください。
55045		指定されたファイルは読み込み専用です。ファイルの属性を変更してください。	ファイル属性に書き込み権限がないため、処理ができません。	ファイルに読み書き権限を付加するか、ファイルを変更してください。
55046		指定されたファイルは、0バイトのファイルです。指定されたファイルはロードできません。	0バイトのファイルはロードすることはできません。	データがあるファイルを指定してください。

55047		結果ファイルが他のアプリで使用中、または使用できない為、結果が表示できません。	結果ファイルを開けないため、結果が表示できません。	前の処理をした結果ファイルを他のエディタで開いたままになってませんか？開いたままでしたら閉じてください。
55048		途中でエラーがあった場合、表に定義されているDSIがアクセス禁止状態になる場合があり、他の処理で表が使用できなくなる場合があります。データをよく確認して実行して下さい。実行しますか？	ロード・アンロードコマンドを実行した場合にエラーになると表のDSIがアクセス禁止状態になり処理ができなくなります。例えば、ロードデータがバイナリの場合はエラーとなります。確認してください。	ロードの場合は、データがテキスト形式であることを確認してください。その他、エラーとなる要素がない事を確認してください。
55049		指定されたファイルは書き込み専用です。ファイルを変更または属性を変更してください。	ファイル属性に読み込み権限がないため、処理ができません。	ファイルに読み書き権限を付加するか、ファイルを変更してください。
55050		ロードする入力ファイルのファイルパスが長すぎる為、処理できません。ファイルパスを再設定してください。	指定されたファイル名の長さが、Windowsで操作できる文字列の最大長を超えてるため、処理できません。	Windowsで操作できる文字列の最大値長内でファイル名を指定してください。
55051		アンロードする出力ファイルのファイルパスが長すぎる為、処理できません。ファイルパスを再設定してください。	指定されたファイル名の長さが、Windowsで操作できる文字列の最大長を超えてるため、処理できません。	Windowsで操作できる文字列の最大値長内でファイル名を指定してください。

55052		指定されたファイルは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。指定されたファイルが存在する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定されたファイルパスには書き込み権限がないか、存在しないパスです。	ファイルパスに書き込み権限を付加するか、書き込み権限があるパスを指定してください。また、存在するファイルの場合は書き込み権限をつけてください。
55053		ルート配下にファイルは作成できません。フォルダ配下に変更して処理してください。	ルートドライブの直下にはファイルを作成することができません。	フォルダ内のファイルを指定してください。
55054		コマンドラインで設定できる最大記述長2048バイトを超えたため、実行できませんでした。	ロード・アンロード時にサーバで発行するコマンド文字列が2048バイトを超えています。コマンドが2048バイトを超える場合、OSの制限によりコマンドが実行できません	ー
55055		ファイルのサイズが2GBを超える大きさのため、実行できません。	ロードの対象ファイルが2GBを超えている為、OSの制限により実行できません。	ー
55056		指定されたファイルパスの場所にファイルは作成できません。	相対の場合、作成先がルート配下になっている等の原因が考えられます。	パスを確認してください。
56001		ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘパス名が長すぎる為、処理できません。	指定されたﾃﾞｨﾚｸﾄﾘのパスまたはファイルのフルパスが512文字を超えています。	512文字に収まるﾃﾞｨﾚｸﾄﾘのパスまたはファイルのフルパスを指定してください。

56002		ファイル名が長すぎる為、処理できません。	指定されたﾃﾞｨﾚｸﾄﾘを含まないファイル名が256文字を超えています。	256文字に収まるファイル名を指定してください。
56003		ファイル名に指定できないパスが指定されました。ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘを含むパスはカレントの配下のﾃﾞｨﾚｸﾄﾘしか指定できません。	指定されたファイル名の先頭か最後に / が指定されています。	ファイル名にﾃﾞｨﾚｸﾄﾘを含むパスを指定する場合は、表示されているﾃﾞｨﾚｸﾄﾘの配下のﾃﾞｨﾚｸﾄﾘしか指定できません。
56004		コード変換に失敗しました。	内部処理でSJISからEUCへの簡易コード変換に失敗しています。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
56005		作業ファイル名のフルパスが長すぎる為、処理できません。	内部処理で使用する作業ファイル名の長さがWindowのファイル名の長さの最大値を超えました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
56006		作業ファイルのアクセスで失敗しました。	内部処理で使用する作業ファイルへのアクセスに失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
56007		UNIXﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ情報の取得に失敗しました。	－	－
56008		指定されたファイル名の存在チェックに失敗しました。	－	－
56009		ファイル名が指定されていません。	－	－
56010		指定されたファイル名は存在しません。	－	－
56011		指定されたファイル名は既に存在します。	指定されたファイルが既に存在します。	ファイル名を変更してください。

56012		ファイル名にスペースが含まれています。	ファイル名にスペース(空白)が含まれています。(Windowsの制限)	スペース(空白)を含まないファイル名を指定してください。
56013		ファイル名にクライアントで使用できない文字が含まれています。	ファイル名にWindowsでファイル名に指定できない文字が含まれています。(Windowsの制限)	Windowsでファイル名に指定できない文字を含まないファイル名を指定してください。
56014		指定されたファイル名はクライアントで使用できないファイル名です。ファイル名を変更して処理を行ってください。	指定されたファイル名はクライアントで使用できないファイル名です。(Windowsの予約語ファイル名)	ファイル名を変更してください。
56015		環境設定のサーバ側カレントディレクトリが設定されていません。サーバ側カレントディレクトリを設定してください。	環境設定のサーバ側カレントディレクトリが設定されていません。	環境設定よりサーバ側カレントディレクトリを設定してください。
56016		指定されたファイルへのアクセス権限がありません。管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定されたファイルへのアクセス権限がありません。	管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
56017		指定されたサーバ側のカレントディレクトリがありません。環境設定で指定したサーバ側のカレントディレクトリを確認してください。	指定されたサーバ側のカレントディレクトリがありません。	環境設定で指定したサーバ側のカレントディレクトリを確認してください。
56018		指定されたﾃﾞｨレクトリへのアクセス権限がありません。管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定されたﾃﾞｨレクトリへのアクセス権限がありません。	管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

56019		指定されたファイル名は既存のﾃﾞｨﾚｸﾄﾘです。ファイル名を変更してください。	指定されたファイル名は既存のﾃﾞｨﾚｸﾄﾘです。	ファイル名を変更してください。
56020		指定されたデータファイルのﾃﾞｨﾚｸﾄﾘは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。指定されたﾃﾞｨﾚｸﾄﾘが存在する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	指定されたﾃﾞｰﾀファイルのﾃﾞｨﾚｸﾄﾘは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。	指定されたﾃﾞｨﾚｸﾄﾘが存在する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
57001		SQL文が更新されています。SQL文は保存されませんがよろしいですか？	SQLを更新していますが保存されていません。	SQLを保存する場合は「いいえ」を選択して、「SQL保存」ボタンを選択してください。
57002		保存するSQL文がありません。SQL文を指定してください。	「SQL保存」ボタンが押されましたが、SQL文の編集域にSQL文がありません。	SQL文を編集後、「SQL保存」ボタンを選択してください。
57003		SQL文の長さが制限を越えます選択する表、列を減らしてやりなおしてください。	「SQL生成」で選択した表または列が多いため、SQL文の制限長を超えてしまいました。	―
57004		指定されたファイルは、テキストファイルではありません。ファイルを指定しなおしてください。	「SQL読込」で指定されたファイルはテキストファイルではありませんでした。	―
57005		SQL文の長さが制限を越えました。SQL文を短くしてください。	「SQL実行」ボタンを選択した時に編集されているSQL文の長さが制限を超えています。	―
57006		SQL文にSELECTまたはFROMのキーワードがありません。SQL文を見直してください。	「SQL実行」ボタンを選択した時に編集されているSQL文にSELECTまたはFROMのキーワードがありません。	―

57007		表示するデータがありません。SQL文を変更してやりなおしてください。	「SQL実行」ボタンを選択した時に編集されているSQL文の問い合わせの結果、該当するデ゛ータがありませんでした。	―
57008		表が選択されていません。表を選択してください。	表選択ダ゛イアログ゛で表を選択していません。	―
57009		表の選択数が制限(%d)を越えました。選択数を減らしてください。	表選択ダ゛イアログ゛で選択した表数が制限を超えました。	―
57010		実行するSQL文がありません。SQL文を指定してください。	「SQL実行」ボタンを選択した時に編集されているSQL文がありません。	―
57011		列が指定されていません。列を指定してください。	列選択ダ゛イアログ゛で列が選択されていません。	―
57012		指定された列は全て未サポートの列です。他の列を指定してください。	「SQL実行」ボタンを選択した時に編集されているSQL文の列選択リスト全てに未サポートの列が選択されています。	―
57013		SQLの列情報の取得に失敗しました。	「SQL実行」ボタンを選択した時に編集されているSQL文の列選択リストの列情報を取得できませんでした。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やした後、再試行してください。
57014		SQLの読み込みに失敗しました。フォルダの権限およびファイル(%s)を確認してください。	「SQL読込」ボタンを選択して、指定されたファイルの読み込みに失敗しました。	フォルダまたはファイルに対する権限を確認してください。
57015		SQLの保存に失敗しました。フォルダの権限を確認してください。	「SQL保存」ボタンを選択して、指定されたファイルへのSQLの保存に失敗しました。	フォルダまたはファイルに対する権限を確認してください。
57016		列の選択数が制限(%d)を超えました。選択数を減らしてください。	列一覧で選択された列数が制限を超えました。	―

57017		SQL文のコード変換に失敗しました。	「SQL実行」ボタンを選択した時に編集されているSQL文のDBコードへの変換に失敗しました。	SQL文が長い場合、短くして再試行してください。
57018		SQL文が更新されています。SQL文を保存しますか？	レコード形式または一覧形式を終了する際に、編集中のSQL文がありますが、保存されていません。	保存する場合は、「はい」を選択してください。
57019		ヒット件数が%d件に達しました。%d件までのデータを表示します。	ヒット件数が10万件を超えたため、10万件までのデ゛ータを表示します。	ー
57020		SQL文の保存先のフォルダのディスク空き容量が不足しています。	SQL文のファイルの作成に失敗しました。	ディスク容量を確認してください。空き容量を増やした後、再試行してください。
57021		作業ファイルの作成に失敗しました。作業フォルダおよび権限を確認してください。	作業フォルダにファイルを作成することができませんでした。	作業フォルダの権限を確認してください。
57022		作業フォルダのディスク空き容量が不足しています。	作業フォルダのディスクの空き容量が不足して、処理に必要な空き容量がありません。	作業フォルダのディスク容量を確認してください。空き容量を増やした後、再試行してください。
58001		編集中の列はNOT NULLが指定されています。値を設定してください。	編集中の列の属性にNOT NULLが指定されているのに、デ゛ータが入力されていません。	デ゛ータを入力してください。
58002		入力されたデータ長が列長を超えています。入力し直してください。	入力されたデ゛ータ長が列長を超えています。	列長を考慮して入力し直してください。

58101		Unicode編集機能のライブラリの取り込みに失敗しました。	Unicode編集機能のライブラリが見つかりません。Unicode編集機能を使用できないOSの可能性があります。	ー
59001		RDB情報が設定できませんでした。	環境設定のデータベース情報に誤りがあるか、メモリ不足等の原因が考えられます。	環境設定のデータベース情報に存在するものを指定してください。また、TF-LINDAを終了して再起動してください。
59002		表の定義情報が取得できませんでした。	存在しない表指定されたか、メモリ不足等の原因が考えられます。	存在する表を指定してください。また、TF-LINDAを終了して再起動してください。
59003		作業ファイル用フォルダが存在しないか、アクセス権限が設定されていません。環境設定にて、作業ファイル用フォルダを設定して下さい。作業ファイル用フォルダが存在する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが存在しないか、権限がありません。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。フォルダが存在しない場合は、存在するフォルダを設定してください。

59004		列の定義情報が取得できませんでした。	存在しない表指定されたか、メモリ不足等の原因が考えられます。	存在する表を指定してください。また、TF-LINDAを終了して再起動してください。
59005		項目情報ファイルの作成に失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが存在しないか、権限がありません。また、メモリ不足等の原因が考えられます。	ー 環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。フォルダが存在しない場合は、存在するフォルダを設定してください。 ー TF-LINDAを終了して再起動してください。 ー 他のアプリケーションを終了し、空きメモリを増やしてください。

59006		データを生成できる列がありません。	指定された表には、TF-LINDAでの未サポート列しかありません。未サポート列はデータ生成できません。	未サポート以外の列がある表を指定してください。
59007		ディスク容量不足により項目情報ファイルの書き込みに失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが存在するディスクに空き容量がありません。	フォルダが存在するディスクの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
59008		項目情報ファイルの書き込みに失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダか、ドライブの容量不足が考えられます。	書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えるか、ドライブの空き容量を確認してください。
59009		データ生成でエラーがありました。	データ生成でなんらかのエラーが発生したためにデータを作成できませんでした。	このメッセージが出力する前にでたメッセージを確認するか、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

59010		書式を設定してください。	データ生成に必要な書式が設定されてません。	「書式設定」ボタンを押してデータ生成に必要な書式を作成してください。
59011		データ生成の件数は1件以上指定してください。	データを作成する件数が指定されてません。そのため、データを作成できません。	件数に1以上の値を設定してください。
59012		生成するデータファイルのファイルパスが設定されていません。ファイルパスを設定してください。	データを保存するデータファイル名のパスが設定されてません。	データファイル名にファイル名のパスを直接入力するか、「参照」ボタンを押してパスを選択してください。
59013		ファイルパスが不正です。	生成したデータを保存するファイルのパス名が設定されてません。	データファイル名にファイルのパス名を直接入力するか、「参照」ボタンを押してパスを選択してください。
59014		指定されたフォルダは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダが存在する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	データファイル名に指定されたファイルパスには書き込み権限がないため、ファイルを作成できません。	ファイルパスに書き込み権限を付加するか、書き込み権限があるパスを指定してください。

59015		指定されたファイルは既に存在します。上書きしますか？	データファイル名に指定されたファイルは存在するファイルです。ファイル情報を上書きしていいでしょうか？	上書きしていいのなら、「はい」を押してください。上書きしないなら「いいえ」を押してください。
59016		テストケースフォルダが存在しないか、アクセス権限が設定されていません。環境設定にて、テストケースフォルダを設定して下さい。テストケースフォルダが存在する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」に指定されたフォルダには書き込み権限がないか、存在しません。	「テストケースファイルを保存するフォルダ」に書き込み権限を付加するか、書き込み権限があるパスを指定してください。
59017		指定されたファイルは他のアプリで使用中、または使用できません。ファイル名を変更してください。	データファイルに指定されたファイルは他のアプリケーションで使用しているので使えません。	データファイル名を変更してください。
59018		不正なファイルパスあるいは文字列があります。ファイル名を変更して処理してください。	データファイル名に指定されたファイルパスが存在しないか、誤った名前が指定されてます。	存在するファイルパスを指定してください。
59019		指定されたファイルは読み込み専用です。ファイルの属性を変更してください。	データファイルに指定されたファイルには読み込み権限しかないため、データを作成できません。	書き込み権限があるデータファイル名を指定してください。
59020		生成するデータファイルのファイルパスが長すぎる為、処理できません。データファイルのファイルパスを再設定してください。	データファイルに指定されたファイル名の長さが、Windowsで操作できる文字列の最大長を超えてるため、処理できません。	Windowsで操作できる文字列の最大値長内でデータファイル名を指定してください。

59021		指定されたファイルは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。指定されたファイルが存在する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。	データファイル名に指定されたファイルパスには書き込み権限がないか、存在しないパスです。	ファイルパスに書き込み権限を付加するか、書き込み権限があるパスを指定してください。また、存在するファイルの場合は書き込み権限をつけてください。
59022		ルート配下にファイルは作成できません。フォルダ配下に変更して処理してください。	ルートドライブの直下にはファイルを作成することができません。	フォルダ内のファイルを指定してください。
59023		制御ファイルが他のアプリで使用中、または使用できません。	デ゛ータ生成制御ファイルは他のアプリケーションで排他制御されています。	デ゛ータ生成制御ファイルを使用しているアプリケーションを終了して、処理を実行してください。
59024		指定されたファイルパスの場所にファイルは作成できません。	相対の場合、作成先がルート配下になっている等の原因が考えられます。	パスを確認してください。

No.10000 - 19999	No.20000 - 29999	No.40000 - 49999	No.50000 - 59999	No.60000 - 69999	No.70000 - 79999	No.90000 - 99999

※　S　⇒　Symfoware版用のメッセージです。
　　O　⇒　Oracle版用のメッセージです。

No	※	メッセージ	メッセージの意味	利用者の処置
60001		数値の変換でエラーが発生しました。変換できない値があります。	表示コードからデータベースコードへの簡易変換に失敗しました。	データベースのコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。
60002		数値変換エラーです。変換できない値があります。	データベースコードから表示コードへの簡易変換に失敗しました。	データベースのコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。
60003		数値変換エラーです。符号の設定に誤りがあります。	表示コードからサーバ(OS)コードへの簡易変換に失敗しました。	サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。

60004		数値変換エラーです。小数点の設定に誤りがあります。	サーバ(OS)コードから表示コードへの簡易変換に失敗しました。	サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。
60005		数値変換エラーです。変換領域を超えました。	表示コードからデータベースコードへのファイルの一括簡易変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
60006		Nタイプの列に１バイト系の値が指定されました。	データベースコードから表示コードへのファイルの一括簡易変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
60007		数値変換エラーです。符号の指定がありません。	表示コードからサーバ(OS)コードへのファイルの一括簡易変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
60008		数値変換エラーです。数値以外の値が指定されました。	サーバ(OS)コードから表示コードへのファイルの一括簡易変換に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
60009		数値変換エラーです。数値が桁数を超えています。	小数点を含む数値項目の整数部桁数が許容範囲を超えました。	入力したデータ内容を確認して下さい。
60010		数値変換エラーです。小数部の値が桁数を超えました。	小数点を含む数値項目の小数部桁数が許容範囲を超えました。	入力したデータ内容を確認して下さい。

60011		数値変換エラーです。ゾーン部に変換できない値があります。	数値項目のデータチェックでエラーが発生しました。	入力したデータ内容を確認して下さい。
60020		数値変換エラーです。その他のエラーが発生しました。	数値項目のデータチェックでエラーが発生しました。	入力したデータ内容を確認して下さい。
60030		コード変換エラーです。変換できない不当な文字があります。	コード変換エラーが発生しました。	入力したデータ内容を確認して下さい。
60031		コード変換の出力で領域を超えました。	コード変換エラーが発生しました。	入力した文字数の確認をして下さい。
60039		コード変換エラーです。パラメタエラーが発生しました。	コード変換エラーが発生しました。	入力したデータ内容を確認して下さい。
60040		日付の入力に誤りがあります。	日付の指定に誤りがあります。	入力形式を確認して下さい。
60041		時間の入力に誤りがあります。	時間の指定に誤りがあります。	入力形式を確認して下さい
60099		数値変換エラーです。パラメタエラーが発生しました。	コード変換エラーが発生しました。	入力したデータ内容を確認して下さい。

61001		表示コードからデータベースコードへの簡易変換に失敗しました。データベースのコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。	TF-LINDAのサーバ起動時に指定したコードと、環境設定で指定されたサーバ(OS)の運用コードが異なります。	環境設定よりTF-LINDAのサーバ起動時に指定したコードをサーバ(OS)の運用コード系に設定して、接続し直してください。
61002		データベースコードから表示コードへの簡易変換に失敗しました。データベースのコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。	TF-LINDAのサーバ起動時に指定したコードと、環境設定で指定されたデータベースのコード体系が異なります。	環境設定よりTF-LINDAのサーバ起動時に指定したコードをデータベースのコード体系に設定して、接続し直してください。
61003		表示コードからサーバ(OS)コードへの簡易変換に失敗しました。サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。	DB、スキーマ、表等のOSコードへの変換ができませんでした。	サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。

61004		サーバ(OS)コードから表示コードへの簡易変換に失敗しました。 サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。	DB、スキーマ、表等の表示コードへの変換ができませんでした。	サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。
61005		表示コードからデータベースコードへの簡易変換に失敗しました。 発生場所:%s API:%s エラーコード:%d	DB、スキーマ、表等のDBコードへの変換ができませんでした。	DBのコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。
61006		データベースコードから表示コードへの簡易変換に失敗しました。 発生場所:%s API:%s エラーコード:%d	DB、スキーマ、表等の表示コードへの変換ができませんでした。	DBのコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。
61007		表示コードからサーバ(OS)コードへの簡易変換に失敗しました。発生場所:%s API:%s エラーコード:%d	DB、スキーマ、表等のOSコードへの変換ができませんでした。	サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。

61008		サーバ(OS)コードから表示コードへの簡易変換に失敗しました。発生場所:%s API:%s エラーコード:%d	DB、スキーマ、表等の表示コードへの変換ができませんでした。	サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。
61101		TF-LINDAのサーバ起動時に指定したコードと、環境設定で指定されたサーバ(OS)の運用コードが異なります。環境設定よりTF-LINDAのサーバ起動時に指定したコードをサーバ(OS)の運用コード系に設定して、接続し直してください。	DBコードにUnicodeが指定されており、サーバ起動時のＯＳコードと、クライアントで指定されたＯＳコードが違う場合に出力されます。	切断後、サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。
61102		TF-LINDAのサーバ起動時に指定したコードと、環境設定で指定されたデータベースのコード体系が異なります。環境設定よりTF-LINDAのサーバ起動時に指定したコードをデータベースのコード体系に設定して、接続し直してください。	サーバ起動時のＯＳコードと、クライアントで指定されたＯＳコードが違う場合に出力されます。	切断後、サーバ(OS)のコード系を確認して環境設定のコード変換情報を再設定してください。

No.10000 - 19999	No.20000 - 29999	No.40000 - 49999	No.50000 - 59999	No.60000 - 69999	No.70000 - 79999	No.90000 - 99999

※　S　⇒　Symfoware版用のメッセージです。
　　O　⇒　Oracle版用のメッセージです。

No	※	メッセージ	メッセージの意味	利用者の処置
73001		ハンドルに誤りがあります。正しいハンドルを設定してください。	―	―
73002		領域のポインタに誤りがあります。正しい領域ポインタを設定してください。	―	―
73003		TF-LINDAの内部処理でメモリ不足が発生しました。TF-LINDAを終了してください。他のアプリケーションを終了してメモリを開放した後にTF-LINDAを再起動してください。	TF-LINDAの内部処理でメモリ不足が発生しました。	TF-LINDAを終了して、他のアプリケーションを終了してメモリを開放した後にTF-LINDAを再起動してください。
75001		データベースまたはスキーマの情報が取得できませんでした。環境設定のデータベース名またはスキーマ名を確認してください。	環境設定で指定されているデータベースまたはスキーマの定義情報を取得できませんでした。	環境設定で指定されているデータベースまたはスキーマを確認してください。

75002		SQLの列情報が取得できませんでした。	定義情報を取得する際に発行したSQL文の列選択リストの情報を取得できませんでした。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やして再試行してください。
75003		SQLの抽出情報の取得に失敗しました。	定義情報を取得する際に発行したSQL文の結果が返されませんでした。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やして再試行してください。
75004		SQLの抽出データと列データの長さが一致していません。	列の定義情報から取得したレコード長と実際に返されたSQLの抽出データの長さが一致しません。	環境設定で指定されているDBコードを確認してください。
75005		SQLの抽出件数は0件でした。	指定されたSELECT文の結果が0件でした。	条件もしくはSELECT文を変更して再度実行してください。
75006		情報種別の指定に誤りがあります。	関数のパラメタエラーの場合に出力されます。	内部エラーのため、出力されることはありません。

75007		SQLの列情報ファイルからデータを読み込めませんでした。	SQLの発行した結果、返される列情報ファイルの読み込みに失敗しました。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やして再試行してください。
75008		表情報を取得できませんでした。	表の定義情報を取得できませんでした。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やして再試行してください。 また、権限の与えられている表が定義してあるか確認してください。
75009		表の列情報を取得できませんでした。	表の列情報を取得できませんでした。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やして再試行してください。

75010		索引情報を取得できませんでした。	索引の定義情報を取得できませんでした。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やして再試行してください。 また、権限の与えられている索引が定義してあるか確認してください。
75011		索引の列情報を取得できませんでした。	索引の列情報を取得できませんでした。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やして再試行してください。
75012	0	作業ファイルの作成に失敗しました。作業フォルダの権限を確認してください。	環境設定より指定された作業フォルダに、アクセス権限が設定されていません。	環境設定より指定されたフォルダを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

76001		分割アクセスを中断します。既に抽出されているレコードに対する更新は保証されます。	分割アクセスを中断します。	保存等の操作で、それ以上の抽出が必要なくなった場合に出力されます。
76002		分割アクセス時の受信ファイルに対して、更新前のキーデータを設定出来ませんでした。 内部処理：ClTransFile::GetDivideFile 内部関数：ClWorkFile::SetKeyDataToDivideFile	編集モードが更新で表が索引構成表時に、分割アクセス時の受信ファイルに対して、更新前のキーデータを設定出来ませんでした。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やして再試行してください。
76003		作業フォルダのディスク空き容量が不足しているため、分割アクセスしたデータを抽出できませんでした。作業フォルダのディスク容量を確保してください。 内部関数：ClTransFile::GetDivideFile	作業フォルダのディスク空き容量が不足しているため、分割アクセスしたデータを抽出できませんでした。	ディスクの空き容量を確認してください。空き容量を増やして再試行してください。
76004		分割アクセスされたレコードの情報をレコードリストに追加できませんでした。 内部処理：ClTransFile::GetDivideFile 内部関数：ClWorkFile::AddRecordList	分割アクセスされたレコードの情報をレコードリストに追加できませんでした。	―
76005		内部ファイルのアクセスでエラーが発生しました。データが壊れている可能性があります。処理を終了しメインウィンドウから再開してください。 内部関数：ClTransFile::GetDivideFile	内部ファイルのアクセスでエラーが発生しました。分割抽出されたデータが壊れている可能性があります。	―

76101		ヒット件数が10万件を超えています。条件を設定し直さない場合は、10万件までしか抽出できません。	ヒット件数が10万件を超えています。	条件を設定し直さない場合は、10万件までしか抽出できません。

No.10000 - 19999	No.20000 - 29999	No.40000 - 49999	No.50000 - 59999	No.60000 - 69999	No.70000 - 79999	No.90000 - 99999

※　S　⇒　Symfoware版用のメッセージです。
　　O　⇒　Oracle版用のメッセージです。

No	※	メッセージ	メッセージの意味	利用者の処置
90001		INFO: The daemon started normally.	通知メッセージ：デーモンが起動したことを知らせてます。	―
90002		INFO: Wait time (minutes)->	通知メッセージ：通信待ち時間を表示しています。単位は分です。	―
90003		INFO: The daemon terminated normally.	通知メッセージ：デーモンが終了したことを知らせてます。	―
90004		領域取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。
90005		グループの設定に失敗しました。	デーモン起動処理が失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90006		The version level do not match.	デーモンとクライアントのバージョンレベルが異なるために動作しません。	同一のバージョンレベルのデーモンとクライアントで動作させてください。
90007		子プロセスが制限値を超えるため作成できません。	デーモンが作成できる子プロセスの制限を超えたため、新しくプロセスを作成できません。	起動中のクライアントを終了させて、新たにクライアントを接続させてください。
90008		子プロセス情報を設定できません。	デーモンが作成できる子プロセスの制限を超えたため、新しくプロセスを作成できません。	起動中のクライアントを終了させて、新たにクライアントを接続させてください。
90009		コマンドに誤りがあります。	デーモンが処理できるコマンド以外の情報が通知されています。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

90010		ユーザＩＤに誤りがあります。	サーバマシンに接続できるユーザIDではありません。	サーバマシンに接続できるユーザIDをクライアントから設定し、再接続してください。
90011		プロセスをユーザＩＤに変更できません。	子プロセスをユーザIDに変更する権限がデーモン起動者にありません。	プロセスのIDに変更する権限があるユーザでデーモンを再起動してください。
90012		The directory set in the environment variable or environment file does not exist.	環境変数または環境ファイルに設定されているディレクトリは存在しません。	環境変数または環境ファイルには存在するディレクトリを設定してください。
90013		The object set in the environment variable or environment file is not a directory.	環境変数または環境ファイルに設定されているものはディレクトリではありません。	環境変数または環境ファイルには存在するディレクトリを設定してください。
90014		There is no write authority for the directory set in the environment variable or environment file.	環境変数または環境ファイルに設定されているディレクトリに書き込み権限がありません。	環境変数または環境ファイルに書き込み権限があるディレクトリを設定してください。
90015		The work directory area exceeded 512 bytes.	作業ディレクトリ域が512バイトをこえました。	作業ディレクトリには512バイト以内のディレクトリ名を設定してください。
90016		No work directory has been set in the environment variable or environment file.	作業ディレクトリが環境変数または環境ファイルに未設定です。	環境変数または環境ファイルに作業ディレクトリを設定してください。
90017		The work directory contains an error.	作業ディレクトリに誤りがあります。	作業ディレクトリには、存在するディレクトリを設定してください。
90018		エラーファイルがオープン出来ません。	エラーファイルがオープン出来ません。	エラーファイルに書き込み権限を設定してください。
90019		子プロセスの作成に失敗しました。	子プロセスの作成に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90020		Could not terminate the daemon because a child process was running.	デーモン終了の依頼がきましたが、子プロセスが起動中のためデーモンを終了できません。	接続中のクライアントをすべて終了し、デーモンを終了させてください。
90021		ユーザパスワードに誤りがあります。	ユーザパスワードに誤りがあります。	クライアントから正しいパスワードを設定して接続してください。

90022		ユーザＩＤまたはパスワードに誤りがあります。	ユーザＩＤまたはパスワードに誤りがあります。	クライアントから正しいユーザIDまたは、パスワードを設定して接続してください。
90023		子プロセスの起動に失敗しました。	子プロセスの起動に失敗しました。	サーバモジュールが存在するか確認してください。また、サーバモジュールの存在するディレクトリ、関連製品が存在するディレクトリが環境に設定されているか確認してください。
90024		環境変数または環境ファイルに設定されているディレクトリに読み込み権がありません。	環境変数または環境ファイルに設定されているディレクトリに読み込み権がありません。	環境変数または環境ファイルに設定されているディレクトリに読み込み権を設定してください。
90025		TF-LINDA running on the server does not match the client.	サーバ側で動作しているTF-LINDAがクライアントと一致していません。	サーバ、クライアントの製品種別が同じか確認してください。
90026		The daemon is already started.	通知メッセージ：デーモンは既に起動されています。	ー
90027		IPアドレス設定ファイルがありません。	IPアドレス設定ファイルがありません。	作業ディレクトリ内にＩＰアドレスファイルがありません。
90028		子プロセスを起動しました。	通知メッセージ：子プロセスを起動しました。	ー
90029		未登録のIPアドレスで接続されたため、子プロセスは起動できません。	接続したIPアドレスがIPアドレス設定ファイルにありません。	IPアドレス設定ファイルに設定されているIPアドレスで接続してください。
90030		ログファイルを作成できませんでした。	クライアント情報を設定するログファイルを作成できませんでした。	作業ファイルを作成するフォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
90031		IPアドレスを取得できませんでした。	接続したクライアントのIPアドレスが取得できませんでした。	通信でなんらかのエラーが発生しています。管理者に連絡してください。

90032		バージョンレベルを取得できませんでした。	SymfowareはUnicodeのコード系に対応していません。	Symfowareのバージョンレベル取得時になんらかのエラーが起きています。管理者に連絡するか、Symfowareのマニュアルを確認してください。
90033		データベースのバージョンレベルはUnicodeに対応していません。	SymfowareはUnicodeのコード系に対応していません。	Unicode以外のコード系を指定して、再接続してください。
90034		ＲＤＢⅡＶ／Ｌ管理ファイル（以下Ｖ／Ｌファイル）のパス・ プレフィックスの構成要素について検索許可が与えられていないか、Ｖ／Ｌファイルの読み取り許可が与えられていません。	Symfowareのバージョンレベル取得時にエラーとなりました。	Symfowareのバージョンレベル取得時になんらかのエラーが起きています。管理者に連絡するか、Symfowareのマニュアルを確認してください。
90035		Ｖ／Ｌファイルアクセス中にシグナルを受けとりました。	Symfowareのバージョンレベル取得時にエラーとなりました。	Symfowareのバージョンレベル取得時になんらかのエラーが起きています。管理者に連絡するか、Symfowareのマニュアルを確認してください。
90036		Ｖ／Ｌファイルの存在するパスの変換中に検出したシンボリック・リンクの数が多すぎます。	Symfowareのバージョンレベル取得時にエラーとなりました。	Symfowareのバージョンレベル取得時になんらかのエラーが起きています。管理者に連絡するか、Symfowareのマニュアルを確認してください。
90037		プロセスでオープンしているファイル数が多すぎます。	Symfowareのバージョンレベル取得時にエラーとなりました。	Symfowareのバージョンレベル取得時になんらかのエラーが起きています。管理者に連絡するか、Symfowareのマニュアルを確認してください。
90038		システム・ファイル・テーブルが一杯です。	Symfowareのバージョンレベル取得時にエラーとなりました。	Symfowareのバージョンレベル取得時になんらかのエラーが起きています。管理者に連絡するか、Symfowareのマニュアルを確認してください。

90039		システム送信記述子を割り当てることができません。	Symfowareのバージョンレベル取得時にエラーとなりました。	Symfowareのバージョンレベル取得時になんらかのエラーが起きています。管理者に連絡するか、Symfowareのマニュアルを確認してください。
90040		物理的な入出力エラーが発生しました。	Symfowareのバージョンレベル取得時にエラーとなりました。	Symfowareのバージョンレベル取得時になんらかのエラーが起きています。システム管理者に連絡するか、Symfowareのマニュアルを確認してください。
90041		Ｖ／Ｌファイルの内容に異常があります。	Symfowareのバージョンレベル取得時にエラーとなりました。	Symfowareのバージョンレベル取得時になんらかのエラーが起きています。管理者に連絡するか、Symfowareのマニュアルを確認してください。
90042		IPアドレス設定ファイルのIPアドレスの設定方法が誤ってます。	IPアドレス設定ファイルのIPアドレスの設定方法が誤ってます。	「xxx.xxx」形式でIPアドレスを設定してください。xxxには数値が入ります。
90043		データベースへのCONNECTに失敗しました。	データベースへのCONNECTに失敗しました。	以下の内容を再度確認し、再接続を行ってください。 ● データベースの環境設定(ライブラリへのパス等)は正しく行われているか。 ● データベースが起動しているか。 ● DB名、ユーザID,パスワードに誤りがないか。
90044		「ユーザの割り込み」により処理を終了します。	「ユーザの割り込み」のシグナル処理によってプロセスが終了されます。	デーモンを再起動するか、クライアントから再接続してください。
90045		環境ファイルがありません。	環境ファイルがありません。	デーモンモジュールと同一ディレクトリに環境ファイルを作成してください。
90046		環境ファイルが開けません。	環境ファイルが開けません。	環境ファイルに読み込み権限をつけてください。

90047		子プロセス数の設定に誤りがあります。	子プロセス数の設定に誤りがあります。	環境ファイルに設定されている子プロセス数を正しい値にしてください。
90048		強制終了の設定に誤りがあります。	強制終了の設定に誤りがあります。	環境ファイルに設定されている強制終了の設定を正しい値にしてください。
90049		タイムアウト時間の設定に誤りがあります。	タイムアウト時間の設定に誤りがあります。	環境ファイルに設定されているタイムアウト時間の設定を正しい値にしてください。
90050		ディレクトリに空白が設定されています。	ディレクトリに空白が設定されています。	環境ファイルに設定されているディレクトリは空白が含まれないディレクトリ名を指定してください。
90051		デーモンと子プロセスの通信処理でエラーが起きてます。このエラーが何度もでるようでしたら、デーモンを再起動させてください。	通知メッセージ：デーモンと子プロセスの通信処理でエラーが起きています。このエラーが何度もでるようでしたら、デーモンを再起動させてください。	―
90052		The information file was not created properly. The work area may be insufficient. Expand the area.	管理ツールが作成する情報ファイルが正しく作成されていません。作業領域不足のおそれがあります。領域を増やしてください。	情報ファイルを作成する作業フォルダまたは、ユーザ指定フォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
90053		子プロセスを終了しました。	子プロセスが終了された通知メッセージ	―

90054		The information file was not created properly.	なんらかの理由で管理ツールが作成する管理情報ファイルの作成に失敗しました。	情報ファイルを作成する作業フォルダまたは、ユーザ指定フォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
90055		Specified file already exists. Please specify a new file name.	管理ツールのパラメタに設定されたファイルがすでに存在します。	新規ファイル名を管理ツールのパラメタに設定してください。
90056	S	データベースのコード情報を取得できませんでした。動作環境を確認してください。	指定されたデータベースのコード情報を取得できませんでした。 データベース名が誤っているか、環境変数に設定されたコード情報が誤っている可能性ががあります。	接続する際に設定するデータベース名が正しく設定されているかを確認してください。 デーモンを起動した際に設定されているデータベースのコード情報の環境変数が正しく設定されているかを確認してください。
90057	S	環境変数または、動作環境ファイルの形式が不当です。確認してください。	環境変数に設定されたコード情報か、データベースの情報が誤っています。NT版の場合は動作環境ファイルの設定が誤っています。	デーモンを起動した際に設定されているデータベースのコード情報の環境変数が正しく設定されているかを確認してください。NT版の場合は動作環境ファイルの情報が正しく設定されているかを確認してください。
90058	S	Symfoware/RDB環境に矛盾があります。動作環境を確認してください。	環境変数に設定されたデータベースの情報が誤っています。NT版の場合は動作環境ファイルの設定が誤っています。	デーモンを起動した際に設定されているデータベースのコード情報の環境変数が正しく設定されているかを確認してください。NT版の場合は動作環境ファイルの情報が正しく設定されているかを確認してください。
90100		領域取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。

90101		タイムアウトが発生しました。	通知メッセージ：タイムアウトが発生しました。	ー
90102		コマンドに誤りがあります。	デーモンが処理できるコマンド以外の情報が通知されています。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90103		情報ファイルのオープンに失敗しました。	プロセスが動作するために必要な情報ファイルが開けません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90104		ファイルに情報が設定されていません。	プロセスが動作するために必要なファイルに 情報が設定されてません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90105		プロセスが強制的に終了されました。	未使用	ー
90106		実行モードと排他処理に矛盾があります。	データベースアクセス時の実行モードと排他処理に矛盾があります。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90107		子プロセスのパラメタに誤りがあります。	子プロセスのパラメタに誤りがあります。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90108		ファイル処理でエラーが発生しました。	ファイル処理でエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90109		環境変数設定でエラーが発生しました。	プロセス実行のための環境を設定できませんでした。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90110		子プロセス起動環境設定でエラーが発生しました。	子プロセス起動環境設定でエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90111		シグナルの登録に失敗しました。	シグナルの登録に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
90112		「ユーザの割り込み」により処理を終了します。	「ユーザの割り込み」のシグナル処理によってプロセスが終了されます。	デーモンを再起動するか、クライアントから再接続してください。
90113		情報ファイルが正しく作成されていません。作業領域不足のおそれがあります。領域を増やしてください。	情報ファイルが正しく作成されていません。作業領域不足のおそれがあります。領域を増やしてください。	情報ファイルを作成する作業フォルダまたは、ユーザ指定フォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

91000		通信を切断し、再接続してください。	通信を切断し、再接続してください。	クライアントから再接続してください。
91001		領域取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。
91002		ホスト名に誤りがあります。	ホスト名に誤りがあります。	正しいホスト名を設定してください。
91003		コマンド番号に誤りがあります。	コマンド番号に誤りがあります。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91004		ファイル名が設定されていません。	ファイル名が設定されていません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91005		ファイルのオープンに失敗しました。	ファイルのオープンに失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91006		ファイルの書き込みに失敗しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	ファイルの書き込みに失敗しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	サーバ側の作業域または、ログ域に読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
91007		ファイルのサイズが取得できませんでした。	ファイルのサイズが取得できませんでした。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91008		名称の長さに誤りがあります。	名称の長さに誤りがあります。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91009		ユーザIDが設定されていません。	ユーザIDが設定されていません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91010		パスワードが設定されていません。	パスワードが設定されていません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91011		名称が設定されていません。	名称が設定されていません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91012		処理フラグが設定されていません。	処理フラグが設定されていません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91013		ファイルの権限を変更できません。	ファイルの権限を変更できません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91014		ファイルの転送を中断しました。	ファイルの転送を中断しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
91015		ランダムなファイル名を取得できません。	ランダムなファイル名を取得できません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

91016		アクセスの権限があたえられていません。	選択ファイルおよびディレクトリのアクセス権限がありません。	選択ファイルおよびディレクトリを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
91017		ファイル名が、そのプロセスに割り当てられたアドレス空間外を指しています。	ファイルアクセス中になんらかのエラーがおきました。	システム管理者に連絡してください。
91018		システムの関数がシステム・コール中にシグナルを受け取りました。	ファイルアクセス中になんらかのエラーがおきました。	システム管理者に連絡してください。
91019		ファイル名変換中に検出したシンボリック・リンクの数が多すぎます。	ファイル名変換中に検出したシンボリック・リンクの数が多すぎます。	システム管理者に連絡してください。
91020		ファイル名の構成要素が複数の遠隔マシンへのホップを必要としていますが、ファイル・システムはそれを許可していません。	ファイル名の構成要素が複数の遠隔マシンへのホップを必要としていますが、ファイル・システムはそれを許可していません。	選択ファイルおよびディレクトリを使用する場合は、管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
91021		ファイル名の長さが最大値を超えています。	システムで使用できるファイル名の最大値を超えているためアクセスできません。	システムで使用できるファイル名の長さに変更してください。
91022		指定されたファイル名がディレクトリではありません。	指定されたサーバのファイル名がディレクトリではありません。	ディレクトリ名を指定してください。
91023		指定されたファイルまたはディレクトリが存在しません。	指定されたサーバのファイル名またはディレクトリ名が存在しません。	存在する名前を指定してください。
91024		ファイル名が遠隔マシンを指していますが、そのマシンへのリンクがもはやアクティブではありません。	ファイル名が遠隔マシンを指していますが、そのマシンへのリンクがもはやアクティブではありません。	ファイルが存在するマシンへのリンクを張りなおしてください。
91025		読み取り専用ファイル・システム上のファイルに対して、書き込みはできません。	読み取り専用ファイル・システム上のファイルに対して、書き込みはできません。	書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。

91026		構成要素がパラメタによって指された構造体の中に保存されるには大き過ぎます。	構成要素がパラメタによって指された構造体の中に保存されるには大き過ぎます。	管理者に連絡してください。
91027		パラメタの情報が有効なオープン・ファイル記述子ではありません。	パラメタの情報が有効なオープン・ファイル記述子ではありません。	管理者に連絡してください。
91028		現在、最大数のファイル記述子がオープンされています。	現在、最大数のファイル記述子がオープンされています。	管理者に連絡してください。
91029		システム・ファイル・テーブルがいっぱいです。	システム・ファイル・テーブルがいっぱいです。	管理者に連絡してください。
91030		ファイルのオープンに失敗しました。	作業ディレクトリにファイルを作成できません。	作業ディレクトリにファイルを作成する権限がありません。管理者に通知して権限を取得してください。
91031		ファイルの読み込みに失敗しました。	作業ディレクトリにあるファイルを読み込むことができません。	作業ディレクトリにファイルを読み込む権限がないか、ファイルに読み込み権限がありません。管理者に通知して権限を取得してください。
91032		ファイルの書き込みに失敗しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	ファイルの書き込みに失敗しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	サーバ側の作業域または、ログ域に読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
91033		ファイルのクローズに失敗しました。	ファイルをクローズすることができませんでした。	作業ディレクトリにファイルをアクセス権限がないか、ファイルにアクセス権限がありません。管理者に通知して権限を取得してください。
91034		ファイル処理でエラーが発生しました。	ファイルの送受信等でエラーが発生しました。	管理者に連絡してください。
92001		領域取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。

92002		ホスト情報の取得に失敗しました。	ホスト情報の取得に失敗しました。	正しいホスト名を設定し、再接続してください。
92003		ポート番号に誤りがあります。	ポート番号に誤りがあります。	正しいポート番号を設定し、再接続してください。
92004		ホスト名が存在しません。	ホスト名が存在しません。	正しいホスト名を設定し、再接続してください。
92005		ソケット番号の取得に失敗しました。	ソケット番号の取得に失敗しました。	管理者に連絡してください。
92006		ソケットのオプション設定に失敗しました。	ソケットのオプション設定に失敗しました。	管理者に連絡してください。
92007		通信の開設に失敗しました。	通信の開設に失敗しました。	管理者に連絡してください。
92008		ソケットの待ち行列の確保に失敗しました。	ソケットの待ち行列の確保に失敗しました。	管理者に連絡してください。
92009		アクセス待ち時間の設定に失敗しました。	アクセス待ち時間の設定に失敗しました。	管理者に連絡してください。
92010		ソケットの作成に失敗しました。	ソケットの作成に失敗しました。	管理者に連絡してください。
92011		データ受信に失敗しました。	データ受信に失敗しました。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92012		データ送信に失敗しました。	データ送信に失敗しました。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92013		子プロセスのポート番号に空きがありません。	子プロセスのポート番号に空きがありません。	サーバ側で起動している製品を終了させて、再接続してください。
92014		タイムアウト処理が発生しました。	通知メッセージ：タイムアウト処理が発生しました。	ー
92015		Communication was cut.	通信が切断されています。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92200		WINSOCKETの初期化に失敗しました。	WINSOCKETの初期化に失敗しました。	管理者に連絡してください。
92201		ソケットインタフェースでエラーが発生しました。	ソケットインタフェースでエラーが発生しました。	管理者に連絡してください。

92202		システムの割り込みが発生しました。	「ユーザの割り込み」のシグナル処理によってプロセスが終了されます。	デーモンを再起動するか、クライアントから再接続してください。
92203		システムの割り込みが発生しました。	「ユーザの割り込み」のシグナル処理によってプロセスが終了されます。	デーモンを再起動するか、クライアントから再接続してください。
92204		アクセスが拒否されました。	アクセスが拒否されました。	管理者に連絡してください。
92205		アドレス例外が発生しました。	アドレス例外が発生しました。	管理者に連絡してください。
92206		オプション指定に誤りがあります。	オプション指定に誤りがあります。	管理者に連絡してください。
92207		オープンできるソケットがもうありません。	オープンできるソケットがもうありません。	管理者に連絡してください。
92208		ネットワーク処理はブロックされています。	ネットワーク処理はブロックされています。	管理者に連絡してください。
92209		ネットワーク処理を開始しました。	メッセージ：ネットワーク処理を開始しました。	ー
92210		ネットワーク処理を開始しました。	通知メッセージ：ネットワーク処理を開始しました。	ー
92211		ソケットでない値が指定されました。	ソケットでない値が指定されました。	管理者に連絡してください。
92212		通信先のアドレスを要求されました。	通信先のアドレスを要求されました。	管理者に連絡してください。
92213		データ超過のため切り捨てました。	データ超過のため切り捨てました。	管理者に連絡してください。
92214		誤ったプロトコルが指定されました。	誤ったプロトコルが指定されました。	管理者に連絡してください。
92215		プロトコルが使用不能な状態です。	プロトコルが使用不能な状態です。	管理者に連絡してください。
92216		プロトコルがサポートされていません。	プロトコルがサポートされていません。	管理者に連絡してください。
92217		ソケットの種別がサポートされていません。	ソケットの種別がサポートされていません。	管理者に連絡してください。
92218		処理がソケットでサポートされていません。	処理がソケットでサポートされていません。	管理者に連絡してください。
92219		プロトコルファミリをサポートしていません。	ー	管理者に連絡してください。
92220		アドレスファミリをサポートしていません。	アドレスファミリをサポートしていません。	管理者に連絡してください。

92221		アドレスファミリをサポートしていません。	アドレスファミリをサポートしていません。	管理者に連絡してください。
92222		アドレスファミリをサポートしていません。	アドレスファミリをサポートしていません。	管理者に連絡してください。
92223		ネットワークが停止しています。	ネットワークが停止しています。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92224		ネットワークは到達不可能な状態です。	ネットワークは到達不可能な状態です。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92225		ネットワークの結合がリセットされました。	ネットワークの結合がリセットされました。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92226		ネットワークの結合が破棄されました。	ネットワークの結合が破棄されました。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92227		通信先に強制的に切断されました。	通信先に強制的に切断されました。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92228		バッファ領域がたりません。	バッファ領域が足りません。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。
92229		ソケットは既に結合されています。	ソケットは既に結合されています。	管理者に連絡してください。
92230		ソケットはまだ結合していません。	ソケットはまだ結合していません。	管理者に連絡してください。
92231		通信はクローズされています。	通信はクローズされています。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92232		通信の参照数が超過しました。	通信の参照数が超過しました。	管理者に連絡してください。
92233		通信でタイムアウトが発生しました。	通信でタイムアウトが発生しました。	サーバ側でタイムアウトがおきています。クライアントを再接続してください。

92234		通信の要求は拒否されました。	通信の要求は拒否されました。	通信処理が正しく行えていません。以下の原因が考えられます。確認した後、クライアントを再接続してください。 ● サーバ側のTF-LINDAが動作していない。 ● 誤ったポート番号を指定してサーバに接続している。 サーバ側のTF-LINDAが動作していないときに管理ツールを起動したり、 サーバ側でタイムアウトが発生しているときに接続したりしたときは、 サーバ側のエラーログファイル（SI_STRSV.ERR）に同じNo.92234の英文メッセージ ″The request for communication was denied.″ が出力されます。
92235		シンボルのレベル数が超過しています。	シンボルのレベル数が超過しています。	管理者に連絡してください。
92236		ファイル名が長すぎます。	ファイル名が長すぎます。	管理者に連絡してください。
92237		ホストがダウンしています 。	ホストがダウンしています 。	ホストを起動してください。
92238		ホストまで通信が到達できません。	ホストまで通信が到達できません。	管理者に連絡してください。
92239		ディレクトリが空ではありません。	ディレクトリが空ではありません。	管理者に連絡してください。
92240		システム内のプロセス数が超過しています。	システム内のプロセス数が超過しています。	サーバ側で起動している製品を終了させて、再接続してください。
92241		システム内のユーザ数が超過しています。	システム内のユーザ数が超過しています。	サーバ側で起動している製品を終了させて、再接続してください。
92242		ディスクエラーです。	ディスクエラーです。	管理者に連絡してください。

92243		ＮＦＳファイルハンドルを失いました。	ＮＦＳファイルハンドルを失いました。	管理者に連絡してください。
92244		リモートのパスの階層が深すぎます。	リモートのパスの階層が深すぎます。	管理者に連絡してください。
92245		通信プロトコルで何らかのエラーが発生しました。	通信プロトコルで何らかのエラーが発生しました。	管理者に連絡してください。
92246		WinSockの準備が整っていません。	WinSockの準備が整っていません。	管理者に連絡してください。
92247		WinSockのレベルが異なります。	WinSockのレベルが異なります。	管理者に連絡してください。
92248		WinSockが初期化されていません。	WinSockが初期化されていません。	管理者に連絡してください。
92249		ホスト名を参照できませんでした。	ホスト名を参照できませんでした。	正しいホスト名を設定してください。
92250		通信プロトコルで何らかのエラーが発生しました。	通信プロトコルで何らかのエラーが発生しました。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92251		通信プロトコルで何らかのエラーが発生しました。	通信プロトコルで何らかのエラーが発生しました。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
92252		通信プロトコルで何らかのエラーが発生しました。	通信プロトコルで何らかのエラーが発生しました。	サーバ側でタイムアウトがおきているか、通信処理が異常です。クライアントを再接続してください。
95001	0	メモリ領域の取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。
95003	0	SQL処理(PREPARE)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95004	0	SQL処理(CURSOR)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95005	0	SQL処理(BIND DESCRIBE)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

95006	0	ホスト変数の数が指定された数より大きい。または、問い合わせの列数が指定された数より大きい。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95007	0	SQL処理(OPEN)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95008	0	SQL処理(SELECT DESCRIBE)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95009	0	SQL処理(FETCH)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95010	0	ファイルのオープン処理でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95011	0	ファイルの読込み処理でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95012	0	ファイルの書込み処理でエラーが発生しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	ファイルの書き込みに失敗しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	サーバ側の作業域または、ログ域に読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
95013	0	テーブルの整合性に問題があります。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95014	0	SQL文の設定でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95015	0	スキーマまたは、表が存在しません。スキーマ名および、表名を確認して下さい。	スキーマまたは、表が存在しません。スキーマ名および、表名を確認して下さい。	正しいスキーマ名、表名を設定してください。
95016	0	ファイル転送処理でエラーが発生しました。	ファイルの転送処理でエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
95017	0	転送できるファイルサイズの最大値を超えました。レコード件数を減らし、ファイルサイズを2GB以内にして下さい。	通知メッセージ：転送できるファイルサイズの最大値を超えました。レコード件数を減らし、ファイルサイズを2GB以内にして下さい。	ー

95018	0	SQL文に未サポート列が含まれてます。未サポート列を除いてSQL文を作成してください。	SELECT文にTF-LINDAでサポートしていない属性の項目が含まれています。	SELECT文からTF-LINDAが未サポートの項目を除いてください。
95019	0	データベース情報の取得に失敗しました。	なんらかの理由でデータベースの情報の取得に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95020	0	選択された列の総和が、制限長の32760バイトを超えました。列を選択しなおしてください。	通知メッセージ：選択された列の総和が32760バイトを超えました。選択する列を減らし、列の総和をを32760バイト以内にして下さい。	ー
95100	0	領域取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。
95101	0	データ操作フラグに誤りがあります。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95102	0	データ情報の読み込みに失敗しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95103	0	SQL文の設定に誤りがあります。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95104	0	更新情報に不整合があります。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95105	0	ファイルのオープンに失敗しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95106	0	保存処理でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
95107	0	コマンド実行時にエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
95108	0	データ情報の書き込みに失敗しました。	表データをファイルに書き込む時にエラーが発生しました。	データ情報を書き込むファイルを指定したディレクトリにアクセス権限がないか、作業ディレクトリにアクセス権限がありません。管理者に通知して権限を取得してください。
96001	S	メモリ領域の取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。

96003	S	SQL処理(PREPARE)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96004	S	SQL処理(CURSOR)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96005	S	SQL処理(BIND DESCRIBE)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96006	S	ホスト変数の数が指定された数より大きい。または、問い合わせの列数が指定された数より大きい。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96007	S	SQL処理(OPEN)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96008	S	SQL処理(SELECT DESCRIBE)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96009	S	SQL処理(FETCH)でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96010	S	ファイルのオープン処理でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96011	S	ファイルの読込み処理でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96012	S	ファイルの書込み処理でエラーが発生しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	ファイルの書き込みに失敗しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	サーバ側の作業域または、ログ域に読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
96013	S	テーブルの整合性に問題があります。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96014	S	SQL文の設定でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96015	S	スキーマまたは、表が存在しません。スキーマ名および、表名を確認して下さい。	スキーマまたは、表が存在しません。スキーマ名および、表名を確認して下さい。	正しいスキーマ名、表名を設定してください。

96016	S	FETCHでデータが終了しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96017	S	ALLOCATE DESCRIPTORでエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96018	S	DEALLOCATE DESCRIPTORでエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96019	S	ArdbLibDsqlGetDscでエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96020	S	ArdbLibDsqlDynSetDscでエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96021	S	ファイル転送処理でエラーが発生しました。	ファイルの転送処理でエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96022	S	パラメタに誤りがあります。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96023	S	データベース名に誤りがあります。	データベースに対してコマンドを実行する時に存在しないデータベース名が指定されました。	接続時に指定したデータベース名が正しいか確認してください。
96024	S	スキーマ名に誤りがあります。	データベースに対してコマンドを実行する時に存在しないスキーマ名が指定されました。	接続時に指定したスキーマ名が正しいか確認してください。
96025	S	表名に誤りがあります。	データベースに対してコマンドを実行する時に存在しない表名が指定されました。	接続時に指定した表名が正しいか確認してください。
96026	S	ArdbLibPdicOpen関数でエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96027	S	ArdbLibPdicDsoName関数でエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96028	S	ArdbLibPdicDsoInf関数でエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。

96029	S	ArdbLibPdicDsiName関数でエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
96030	S	転送できるファイルサイズの最大値を超えました。レコード件数を減らし、ファイルサイズを2GB以内にして下さい。	通知メッセージ：転送できるファイルサイズの最大値を超えました。レコード件数を減らし、ファイルサイズを2GB以内にして下さい。	ー
96031	S	SQL文に未サポート列が含まれてます。未サポート列を除いてSQL文を作成してください。	SELECT文にTF-LINDAでサポートしていない属性の項目が含まれています。	SELECT文からTF-LINDAが未サポートの項目を除いてください。
96032	S	選択された列の総和が、制限長の32760バイトを超えました。列を選択しなおしてください。	通知メッセージ：選択された列の総和が32760バイトを超えました。選択する列を減らし、列の総和を32760バイト以内にして下さい。	SELECT文からTF-LINDAが未サポートの項目を除いてください。
96100	S	領域取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。
96101	S	データ操作フラグに誤りがあります。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96102	S	データ情報の読み込みに失敗しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96103	S	SQL文の設定に誤りがあります。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96104	S	更新情報に不整合があります。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96105	S	ファイルのオープンに失敗しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96106	S	保存処理でエラーが発生しました。	データベースアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
96107	S	コマンド実行時にエラーが発生しました。	データベースに対してコマンドを実行する時にエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。

96108	S	データ情報の書き込みに失敗しました。	表データをファイルに書き込む時にエラーが発生しました。	データ情報を書き込むファイルを指定したディレクトリにアクセス権限がないか、作業ディレクトリにアクセス権限がありません。管理者に通知して権限を取得してください。
96109	S	入力ファイルにバイナリデータ(00)が存在します。ロードはテキストモードですので、バイナリデータは扱えません。	入力ファイルにバイナリデータ(00)が存在します。ロードはテキストモードですので、バイナリデータは扱えません。	テキストデータの入力ファイルを指定してください。
96110	S	コマンドラインで設定できる最大記述長2048バイトを超えたため、実行できませんでした。	コマンドラインで設定できる最大記述長2048バイトを超えたため、実行できませんでした。	最大記述長2048バイトを超えないコマンド文字列を指定してください。
96111	S	コマンド文字列を設定できる最大記述長を超えたため、実行できませんでした。	コマンド文字列を設定できる最大記述長を超えたため、実行できませんでした。	最大記述長を超えないコマンド文字列を指定してください。
97001		メモリ領域の取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。
97002		広域メモリ域の取得に失敗しました。	製品が動作するために必要なメモリ域が取得できませんでした。	ほかに動作している製品を終了させるか、メモリを増やして再起動してください。
97003		ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名を確認してください。	ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名を確認してください。	正しいファイル名を設定してください。
97004		ファイルの読み込みに失敗しました。	ファイルの読み込みに失敗しました。	ファイルに読み込み権限を設定してください。
97005		ファイルの書き込みに失敗しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	ファイルの書き込みに失敗しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	サーバ側の作業域または、ログ域に読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
97006		ファイル操作に失敗しました。	ファイル操作に失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

97007		ファイルの読み込む情報はありません。	ファイルの読み込む情報はありません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
97008		COBOLファイルではありません。COBOLファイルを指定してください。	COBOLファイルではありません。COBOLファイルを指定してください。	COBOLファイルではありません。COBOLファイルを指定してください。
97009		COBOLファイルに書き込み権がありません。書き込み権限が設定されたCOBOLファイルを指定してください。	COBOLファイルに書き込み権がありません。書き込み権限が設定されたCOBOLファイルを指定してください。	COBOLファイルに書き込み権がありません。書き込み権限が設定されたCOBOLファイルを指定してください。
97010		COBOLファイルマネージャ初期化でエラーが発生しました。	COBOLアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
97011		COBOLファイルマネージャ終了化でエラーが発生しました。	COBOLアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
97012		COBOL索引ファイルのキー数が不整合です。正しいキー数を取得してください。	COBOL索引ファイルのキー数が不整合です。正しいキー数を取得してください。	COBOL索引ファイルのキー数が不整合です。正しいキー数を取得してください。
97013		COBOLファイルのオープンに失敗しました。	COBOLファイルのオープンに失敗しました。	正しいファイル名を設定してください。
97014		COBOLファイルの読み込みに失敗しました。	COBOLファイルの読み込みに失敗しました。	ファイルに読み込み権限を設定してください。
97015		キー情報の取得に失敗しました。	キー情報の取得に失敗しました。	キー情報が存在するファイルを指定してください。
97016		ファイルの終わりを読み込みました。抽出レコード番号を正しく設定して下さい。	レコード抽出時にエラーとなりました。	抽出レコード数をファイルレコード数内で設定してください。
97017		COBOLファイルの作成に失敗しました。	COBOLファイルの作成に失敗しました。	作成先ディレクトリに作成権限を付加するか、作成できる領域を増やしてください。
97018		COBOLファイルの書き込みに失敗しました。	COBOLファイルの書き込みに失敗しました。	ファイルに書き込み権限を設定するか、ファイルが存在するディレクトリの領域を増やしてください。
97019		COBOLファイルのクローズに失敗しました。	COBOLファイルのクローズに失敗しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
97020		パラメタに誤りがあります。正しいパラメタを設定してください。	COBOLアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

97021		読み飛ばしのモード設定に誤りがあります。正しいモードを設定してください。	COBOLアクセスでエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
97022		バックアップファイルの作成に失敗しました。	バックアップファイルの作成に失敗しました。	ファイルを作成するディレクトリに書き込み権限を設定するか、ファイルを作成できるディレクトリの領域を増やしてください。
97023		作業ファイルの削除に失敗しました。	作業ファイルの削除に失敗しました。	作業ディレクトリに削除権限を付加してください。
97024		何らかのエラーが発生しました。	何らかのエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
97025		指定されたデータファイルは既に使用されています。	指定されたデータファイルは既に使用されています。	新規ファイル名を指定してください。
97026		格納順範囲指定の開始レコード番号を正しく設定してください。	格納順範囲指定の開始レコード番号を正しく設定してください。	格納順範囲指定の開始レコード番号を正しく設定してください。
97027		索引編成ファイルのキーが重複しています。	索引編成ファイルのキーが重複しています。	索引編成ファイルのキーは、重複しないように設定してください。
97028		索引編成ファイルのレコード形式が可変長のものは開けません。	索引編成ファイルのレコード形式が可変長のものは開けません。	索引編成ファイルのレコード形式が可変長ではないファイルを指定してください。
97029		ファイルアクセスエラーが発生しました。	ファイルアクセスエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
97030		転送できるファイルサイズの最大値を超えました。レコード件数を減らし、ファイルサイズを2GB以内にして下さい。	転送できるファイルサイズの最大値を超えました。レコード件数を減らし、ファイルサイズを2GB以内にして下さい。	ファイルサイズが２GB以内になるようにレコード件数を減らしてください。
97031		データファイルにはコード種別が設定されていません。	データファイルにはコード種別が設定されていません。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

97032		ファイルを作成できませんでした。作成領域が不足しているおそれがあります。領域を増やして下さい。	ファイルの作成に失敗しました。サーバ側の作業域または、ログ域が領域不足のおそれがあります。	サーバ側の作業域または、ログ域に読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
97033		バックアップファイルを作成できませんでした。バックアップファイル作成領域が不足しているおそれがあります。領域を増やして下さい。	バックアップファイルを作成できませんでした。バックアップファイル作成領域が不足しているおそれがあります。領域を増やして下さい。	バックアップファイル作成領域に読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
97034		COBOLアクセスでエラー識別コード %s、入出力状態 %d のエラーが発生しました。	COBOLファイルをアクセスした時点でCOBOLからエラーが返却されました。	COBOLのマニュアルを参照してメッセージを確認するか、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
99001		領域の取得に失敗しました。	データ生成の動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。	他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows(R)/WindowsNT(R)再起動後、再度同じ処理を行って下さい。
99002		制御ファイルのオープンに失敗しました。	データ生成で使用するファイルをオープンできませんでした。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」及び、「テストケースファイルを保存するフォルダ」に指定したフォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。 権限がある場合は、フォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

99003		制御ファイルの読み込みに失敗しました。	データ生成で使用するファイル内容を読みこむことができませんでした。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」及び、「テストケースファイルを保存するフォルダ」に指定したフォルダに読み込権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。
99004		ファイル操作に失敗しました。	データ生成で使用するファイルを操作することができませんでした。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」及び、「テストケースファイルを保存するフォルダ」に指定したフォルダに読み書き権限がないか確認し、ない場合は権限を付加してください。
99005		書式情報ファイルのバージョン情報が一致しません。	書式情報ファイルをバージョンが違うため、動作しているTF-LINDAから使用することができません。そのため、データ生成画面は起動しません。データも作成できません。	環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」に存在する書式情報ファイルの名前を変更するか、移動させるか、削除して、データ生成の処理を再度行ってください。
99006		%sに書式が設定されていません。書式を設定してくださいデータ生成画面を終了する場合はキャンセルを押して下さい。	書式を全く設定していないのに、「OK」ボタンが押されました。書式を作成することができません。	書式を設定した場合は、「OK」ボタンを押してください。書式を設定しないで、終了する場合は「キャンセル」ボタンを押してください。
99007		属性に誤りがあります。	生成書式一覧で選択した属性には、書式に設定した属性は設定できません。	生成書式一覧で選択した属性に対応した書式属性を書式に設定してください。
99008		開始値、終了値または増分値に設定された数値の桁数に誤りがあります。桁数を確認し再設定してください。	生成書式一覧で選択した属性の桁数外の桁数が、開始値、終了値または増分値に設定されています。	生成書式一覧で選択した属性の桁数内で設定できる桁数を、開始値、終了値または増分値に設定してください。
99009		属性文字に誤りがあります。	書式に設定した属性文字が誤ってます。	生成書式一覧で選択した属性に対応した書式属性を書式に設定してください。

99010		書式に設定できる最大長を超えています。長さを確認し書式を再設定してください。	書式に設定できる128バイトより大きい文字列が設定されました。	128バイト以内の文字列を書式に設定してください。
99011		書式に設定できる固定部の最大数を超えています。固定部の長さを確認し書式を再設定してください。	生成書式一覧で選択した属性よって書式に設定できる固定部数が決まってます。設定できる固定部数以上の固定部が設定されました。	生成書式一覧で選択した属性で、書式に設定できる固定部数は本オンラインマニュアルを参照してください。本オンラインマニュアルに書かれた固定部数以内で書式に設定してください。
99012		書式に設定できる可変部の最大数を超えています。可変部の長さを確認し書式を再設定してください。	生成書式一覧で選択した属性よって書式に設定できる可変部数が決まってます。設定できる可変部数以上の可変部が設定されました。	生成書式一覧で選択した属性で、書式に設定できる可変部数は本オンラインマニュアルを参照してください。本オンラインマニュアルに書かれた可変部数以内で書式に設定してください。
99013		開始値に設定した可変部の数と書式に設定された可変部の数が一致しません。	書式に設定した可変部数分、開始値に可変部が設定されてません。	開始値には、書式に設定した可変部数と同じ数の可変部を設定してください。
99014		終了値に設定した可変部の数と書式に設定された可変部の数が一致しません。	書式に設定した可変部数分、終了値に可変部が設定されてません。	終了値には、書式に設定した可変部数と同じ数の可変部を設定してください。
99015		開始値に設定した符号に誤りがあります。開始値を再設定してください。	生成書式一覧で選択した属性には、符号付きの値を作成できないため、開始値に符号付きの値を設定できません。	開始値には符号なしの値を設定してください。
99016		終了値に設定した符号に誤りがあります。終了値を再設定してください。	生成書式一覧で選択した属性には、符号付きの値を作成できないため、終了値に符号付きの値を設定できません。	終了値には符号なしの値を設定してください。
99017		増分値と開始値、終了値の値が不整合です。	設定された開始値と終了値の範囲では、増分値分のデータを作成することができません。	増分値にあわせて、開始値、終了値の範囲を設定しなおすか、開始値、終了値の範囲内の増分値を設定してください。

99018		増分値の値が設定できる範囲を超えています。増分値を再設定してください。	増分値は-9～9までです。それ以外の数値が設定されています。	-9～9の範囲の数値を設定してください。
99019		設定文字と書式属性が一致しません。	書式属性に対応する値が開始値、終了値に設定されてません。	書式属性に対応する値を開始値、終了値に設定してください。設定できる値については本オンラインマニュアルを参照してください。
99020		増分値に誤りがあります。増分値を再設定してください。	増分値に設定できる値は数値です。数値以外が設定されています。	-9～9の範囲の数値を設定してください。
99021		文字に小数部を含む数値は設定できません。	生成書式一覧で選択した属性が文字の場合に、書式に小数桁は設定できません。	書式に整数桁の桁数を設定してください。
99022		書式の桁数と、開始値、または終了値の文字列長が一致しません。書式に合わせた開始値・終了値を再設定してください。	書式の桁数と、開始値、または終了値の文字列長が一致しません。	書式に合わせた開始値・終了値を再設定してください。
99023		小数部を設定できない属性です。	生成書式一覧で選択した属性または、書式設定が整数のため、開始値、終了値または、増分値に小数部を設定できません。	開始値、終了値または、増分値に整数を設定してください。
99024		小数点の位置に誤りがあります。	開始値、終了値、または増分値に設定された数値の小数点位置が、数値の先頭や末尾にあります。	開始値、終了値、または増分値に設定する数値の小数点は、整数と小数部の間に設定してください。
99025		数値が設定されていません。開始値・終了値を数値で設定してください。	生成書式一覧で選択した属性または、書式設定が数値なのに、開始値または、終了値に数値以外が設定されています。	開始値または、終了値に数値を設定してください。
99026		ファイルの書き込みに失敗しました。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」及び、「テストケースファイルを保存するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダです。	書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。

99027		ディスクの容量が不足しています。	環境設定の「TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」及び、「テストケースファイルを保存するフォルダ」に指定したフォルダが存在するディスクに空き容量がありません。	ディスクの空き容量を確認し、再度抽出処理を行って下さい。
99028		データファイルを作れませんでした。	作成するデータの情報が書式情報ファイルになかったため、データを作成できませんでした。	書式情報を再作成してください。
99029		選択%sと参照%sは同じものです。	参照元と参照先は同じものです。	参照先を変更してください。
99030		日付け属性の場合は書式に固定文字は設定できません。	生成書式一覧で選択した属性が日付け属性の場合は、書式に固定部を設定できません。	書式から固定部をはずしてください。
99031		属性が異なるため参照できません。	参照先属性と参照元属性が異なります。	参照元属性と同じ属性を参照してください。
99032		符号の付加属性が異なるため参照できません。	参照先属性と参照元属性の符号の有無が異なります。	参照元属性と符号の有無が同じものを参照してください。
99033		桁数が大きいため参照できません。	参照先の属性の桁数が、参照元の属性の桁数より大きいため、データを作成すると桁あふれとなるため、参照できません。	参照元の属性の桁数より小さいか、同じ桁数のものを参照してください。
99034		参照%sを指定してください。	書式が「他項目の参照」の場合に、参照先が指定されてません。	参照先を指定してください。
99035		書式の設定に誤りがあります。書式を再設定してください。	書式に設定された可変部、及び固定部の設定方法が誤っています。	可変部は%桁数属性、固定部は''内に情報を設定してください。詳しい設定方法は本オンラインマニュアルを参照してください。
99036		書式が設定されていません。書式を設定してください。	種別が書式となっているのに、書式が設定されてません。	書式を設定してください。
99037		開始値が設定されていません。開始値を設定してください。	書式が設定されているのに、開始値が設定されてません。	開始値を設定してください。

99038		終了値が設定されていません。終了値を設定してください。	書式が設定されているのに、終了値が設定されてません。	終了値を設定してください。
99039		増分値が設定されていません。増分値を設定してください。	書式が設定されているのに、増分値が設定されてません。	増分値を設定してください。
99040		符号なし%sに符号あり書式は設定できません。	属性が符号なしの場合に、書式に符号あり書式は設定できません。	書式に符号なし書式を設定してください。
99041		符号付きの書式が先頭にないため、書式は設定できません。	生成書式一覧で選択した属性が符号ありの場合に、書式の先頭に可変部が設定されてない。	符号あり属性の場合は、書式の先頭には可変部を設定してください。
99042		%s名が入力されていません。%s名を入力してください。	データを置換する名前が設定されてません。	データを置換する名前を設定してください。
99043		指定された%sは、選択されていないか、制限または、存在しない%sです。選択された%sがわからない場合は、参照ボタンを押して一覧から選択してください。	指定された名は存在しません。	存在する名前を指定してください。
99044		書式情報はすべて削除されています。書式情報ファイルを削除しますか？	生成書式一覧にあった書式がすべて削除されました。そのため、書式情報ファイルには情報はありません。データ生成画面で削除できますが、どうしますか？	書式情報ファイル削除してよい場合は「はい」のボタンを押してください。削除してはいけない場合は「いいえ」を押してください。
99045		数値の最大桁数の18桁内で設定出来る数値の範囲を超えたため、数値のデータ作成はできません。	データ生成で作成できる数値の最大桁数は18桁です。作成中に18桁を超えた場合はデータは作成できません。	数値の書式を設定する場合に、作成データが18桁を超えないように、開始値、終了値、増分値を設定してください。
99046		符号なし書式に符号は設定できません。符号の有無を確認し書式を再設定してください。	データを生成する属性は符号なし属性です。書式の符号は設定できません。	書式の符号を除いて設定してください。
99047		すでに書式例に設定されている書式です。	書式例に追加しようとした書式はすでに書式例にあるため設定できません。	書式例の一覧にない書式を追加してください。

99048		デフォルトの書式例は削除できません。	書式例には、参考のため固定の書式が設定されています。その書式は書式例一覧から削除できません。	書式例の固定書式以外を選択して、削除してください。
99049		開始値に設定できる範囲を超えてます。開始値を再設定してください。	開始値に設定できる128バイトより大きい文字列が設定されました。	128バイト以内の文字列を開始値に設定してください。
99050		終了値に設定できる範囲を超えてます。終了値を再設定してください。	終了値に設定できる128バイトより大きい文字列が設定されました。	128バイト以内の文字列を終了値に設定してください。
99051		固定文字に符号は設定できません。	数値属性の場合には、固定部の文字に符号は設定できません。	固定部の文字から符号を除いてください。
99052		書式の桁数に誤りがあります。 文字属性に符号付き書式を設定している場合は符号域が必要なため、書式に設定できる桁数は属性長から１桁引いた値です。	書式に設定した可変部の桁数、固定部の桁数を足しこんだ全体の桁数が、属性の桁数より大きいため書式を設定できません。	書式に設定した可変部の桁数、固定部の桁数を足しこんだ全体の桁数は、属性の桁数内で設定してください。属性が文字で書式の可変部に符号付きの数値を設定している場合は、書式の可変部、固定部の全体桁数より符号桁を引いた桁数を全体桁数としてください。
99053		書式の可変部の桁数が最大桁数を超えました。	書式が文字の場合に、設定できる可変部最大桁数5桁を超えました。	可変部の最大桁数を5桁以内で設定してください。5桁より大きいデータを作成したい場合は、多く可変部を設定してください。
99054		開始値または終了値に設定された日付の桁数に誤りがあります。再設定してください。	開始値、終了値に設定された桁数と書式に設定された日付の桁数が一致しません。	書式に設定した日付の桁数と一致する開始値、終了値を設定してください。
99055		開始値または終了値に設定された時間の桁数に誤りがあります。再設定してください。	開始値、終了値に設定された桁数と書式に設定された時間の桁数が一致しません。	書式に設定した時間の桁数と一致する開始値、終了値を設定してください。
99056		開始値または終了値に設定された日付、時間の桁数に誤りがあります。再設定してください。	開始値、終了値に設定された桁数と書式に設定された日付、時間の桁数が一致しません。	書式に設定した日付、時間の桁数と一致する開始値、終了値を設定してください。
99057		書式情報ファイルの作成システム情報が一致しません。	書式情報ファイルは、起動中のTF-LINDAでは扱えません。	書式情報ファイル名を再作成してください。

99058		開始値または終了値が設定可能な範囲内ではありません。設定可能範囲内で再設定してください。	開始値、終了値に設定した値が、日付及び時間を作成できる値ではありません。	日付及び時間を作成できる値を開始値、終了値に設定してください。作成できる値の範囲は本オンラインマニュアルを参照してください。
99059		0値または数値以外の値が設定されました。	書式が日付及び時間の場合に、開始値、終了値に日付及び時間以外の値が設定されたか、0が設定されました。	開始値、終了値に0以外の日付及び時間を設定してください。
99060		レジストリキー値がありません。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windows(R)/Windows NT(R)システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
99061		レジストリキー情報を取得できませんでした。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windows(R)/Windows NT(R)システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
99062		レジストリキーに情報がありません。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windows(R)/Windows NT(R)システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
99063		レジストリキー情報を設定する領域が不足しています。	環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。	Windows(R)/Windows NT(R)システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。
99064		引用符がダブルクォーテーションの場合は、固定部にダブルクォーテーションは設定できません。	引用符にダブルクォーテーションを指定した場合は、作成する文字はダブルクォーテーションで括られます。ダブルクォーテーションは文字の括りを示すため、固定部には設定できません。	固定部にダブルクォーテーションを設定しないでください。
99065		NOT NULLの%sにはNULL値は設定できません。書式を設定するか他の%sを参照してください。	NULLが設定できない属性に、NULLを設定しようとしました。	NULL以外の書式を選択してください。

99066		NOT NULL%sに書式が設定されていません。書式を設定しなくてもいいですか？%s名：	生成書式一覧のNOT NULL属性のものがあります。書式を設定せずに終わっていいですか？	書式を設定せずに終了する場合は「はい」ボタンを押してください。書式を設定する場合は「いいえ」ボタンを押して画面に戻って設定してください。
99067		%sに書式が設定されていません。書式を設定しなくてもいいですか？	生成書式一覧に全く書式が設定されてません。書式を設定せずに終わっていいですか？	書式を設定せずに終了する場合は「はい」ボタンを押してください。書式を設定する場合は「いいえ」ボタンを押して画面に戻って設定してください。
99068		内部情報のアクセスでエラーが発生しました。 キャンセル処理で終了してください。	何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。	富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
99069		参照%sが小数部を持たない為、参照できません。	参照元属性に小数部がある場合は、参照先属性に小数部が必要です。	小数部属性がある参照先項目を設定してください。
99070		%s情報の内容と書式情報の内容が違います。書式情報ファイルを削除しますか。	書式情報ファイルの内容が、データを作成しようとした属性と異なります。	書式情報ファイルを再作成する必要があります。書式情報ファイルを削除していい場合は「はい」のボタンを押してください。削除しない場合は「いいえ」のボタンを押してください。
99071		%s情報の内容と書式情報の内容が違います。データ生成画面を終了する場合はキャンセルを押して下さい。	書式情報の内容が、データを作成しようとした属性と異なります。	以前作成した書式情報とデータを作成しようとした属性とに違いがないか確認してください。画面を終了する場合は、「キャンセル」のボタンを押してください。
99072		指定された%sは存在しません。%s名を再指定してください。	指定された名は存在しません。	存在する名前を指定してください。
99073		数値が設定されていません。書式を確認してください。	属性が数値の場合に、固定部に数値以外の値が設定されています。	固定部に数値を設定してください。
99074		参照する%sが存在しません。	参照の対象となる項目が存在しません	存在する項目を指定するか、書式を変更してください。

99075		正しい書式を生成できない%sがあります。	データ生成がサポートしていない属性が書式一覧に含まれています。(制限/仕様)	対象の項目の書式を削除してください。 値として正しくなくても、生成は行えます。
99076		2GBを超えるデータは作成できません。2GBまでのデータが作成されました。	生成するデータがTF-LINDAで保証できるサイズ（2GB）を超えています。（制限/仕様）	ー
99077		書式情報ファイルに設定されているレベル項目数と項目のレベル情報が異なってます。	ー	ー
99078		項目の対象となるレベル項目情報がありませんでした。	繰り返しのレベル情報の展開に失敗しました。	処理をやりなおしてください。それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡して下さい。
99079		データ生成処理を中断しました。データファイルは作成されていません。	通知メッセージ： プログレスダイアログボックスでキャンセル押下時に表示	ー
99101		%sの登録に失敗しました LWListCtrlColumnInit	通知メッセージ：列 or 項目の登録に失敗しました。	ー
99102		繰り返しのレベルに0は指定できません。繰り返しのレベルを指定しなおしてください。	繰り返しのレベルに0は指定できません。	繰り返しのレベルを指定しなおしてください。
99103		繰り返し数に0は指定できません。繰り返し数を指定しなおしてください。	繰り返し数に0は指定できません。	繰り返し数を指定しなおしてください。
99104		同一レベルに既に繰り返しが指定されています。繰り返しのレベルを指定しなおしてください。	同一レベルに既に繰り返しが指定されています。	繰り返しのレベルを指定しなおしてください。
99105		書式情報が変更されています。変更を保存しますか？	書式情報が変更されています。	変更を保存しますか？
99106		書式情報が変更されています。変更を破棄しますか？	書式情報が変更されています。	変更を破棄しますか？

99107		書式例の一覧が更新されています。変更を保存する場合はOKボタンより終了してください。変更を保存しますか？	書式例の一覧が更新されています。	変更を保存する場合は「はい」を選択して、ダイアログのOKボタンより終了してください。
99108		繰り返しの先頭になる%sが指定されていません。繰り返しの先頭%sのレベルには1を設定してください。	繰り返しの先頭のレベル1が設定されていません。	繰り返しの先頭の列 or 項目にレベル１を指定してください。
99109		指定された繰り返しの件数が制限値を超えています。指定できる繰り返し件数は%ld件です。	指定された繰り返しの件数が制限値を超えています。	繰り返しの指定を制限値以内まで減らして処理を行ってください。
99110		繰り返しで生成されるデータの件数が、指定されたデータ生成件数を超えています。繰り返しで生成される件数は%ld件です。指定されたデータ生成件数までの生成を行いますか？	繰り返しで生成されるデータの件数が、指定されたデータ生成件数を超えています。	指定された件数まで作成する場合は「はい」を押下してください。
99111		対象のファイルに対する権限がありません。システム管理者に確認してください。	指定されたファイルパスには書き込み権限がありません。	管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
99112		対象のフォルダは存在しません。	対象のフォルダは存在しません。	存在するフォルダを指定してください
99113		対象のフォルダに作成されるファイルを削除する権限がありません。システム管理者に確認してください。	対象のフォルダに作成されるファイルを削除する権限がありません。	管理者に通知してアクセス権限を取得してください。
99114		対象のファイルは存在しません。	対象のファイルは存在しません。	存在するファイルを指定してください
99115		対象のファイルは排他制御されています。対象のファイルを使用しているアプリケーションを終了して処理を行ってください。	対象のファイルは排他制御されています。	対象のファイルを使用しているアプリケーションを終了して処理を行ってください。

99116		対象のファイルに書き込み権限がありません。対象のファイルに書き込み権限を設定して処理を行ってください。	対象のファイルに書き込み権限がありません。	対象のファイルに書き込み権限を設定して処理を行ってください。
99121		列挙ファイルのOPENに失敗しました。	列挙ファイルのOPENに失敗しました。	列挙ファイルを確認して、処理を行ってください。
99122		列挙ファイルの読み込みに失敗しました。	列挙ファイルの読み込みに失敗しました。	列挙ファイルを確認して、処理を行ってください。
99123		列挙データのエラー出力ファイルのOPENに失敗しました。エラー出力ファイルをOPENしているアプリを終了して再度実行してください。	列挙データのエラー出力ファイルのOPENに失敗しました。	エラー出力ファイルをOPENしているアプリを終了して再度実行してください。
99124		列挙データのエラー出力ファイルの書き込みに失敗しました。	ー	ー
99125		%sの長さ以上のデータが定義されています。	列挙ファイルの列 or 項目の長さ以上のデータが定義されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。
99126		日本語%sに全角文字以外の文字が指定されています。	列挙ファイルの列 or 項目の日本語属性に全角文字以外の文字が指定されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。
99127		数値%sのデータに数値以外の文字が指定されています。	列挙ファイルの列 or 項目の数値属性に数値以外の文字が指定されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。
99128		数値%sのデータに符号が2回指定されています。	列挙ファイルの列 or 項目の数値属性に符号が2回指定されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。
99129		数値%sのデータの途中に符号が指定されています。	列挙ファイルの列 or 項目の数値属性のデータの途中に符号が指定されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。
99130		符号のない数値%sのデータに符号が指定されています。	列挙ファイルの列 or 項目の符号のない数値属性のデータに符号が指定されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。

99131		数値%sのデータに小数点が2回指定されています。	列挙ファイルの列 or 項目の数値属性のデータの途中に小数点が2回指定されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。
99132		数値%sのデータに指定できない小数点以下桁が指定されています。	列挙ファイルの数値属性のデータに指定できない小数点以下桁が指定されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。
99133		数値%sのデータに指定できない整数部桁が指定されています。	列挙ファイルの数値属性のデータに指定できない整数部桁が指定されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。
99134		小数点以下桁がない数値%sのデータに小数点以下桁が指定されています。	小数点以下桁がない数値属性のデータに小数点以下桁が指定されています。	列挙ファイルを修正して、処理を行ってください。
99135		列挙ファイルのデータのチェック中にエラーが発生しました。エラーの発生したデータを修正して再度実行してください。	列挙ファイルのデータのチェック中にエラーが発生しました。	エラーの発生したデータを修正して再度実行してください。
99136		列挙ファイルにはデータが記述されていません。列挙ファイルにデータを記述してください。	列挙ファイルにはデータが記述されていません。	列挙ファイルにデータを記述してください。
99137		列挙型の指定を許可していない属性です。他の生成種別を選択してください。	列挙型の指定を許可していない属性です。	他の生成種別を選択してください。
99138		列挙ファイルが指定されていません。ファイル名を指定してください。	列挙ファイルが指定されていません。	ファイル名を指定してください。